











在ニ依リ之ヲ定ム  
貯蓄銀行法第十條ノ規定ハ第一項ノ普通銀行ノ同法第一條第一項ニ掲タル業務ニ依ル預金者及給付金ノ債権者並ニ  
同法第五條第六號ニ掲タル業務ニ依ル有價證券ノ給付ヲ受クベキ債権者ニ付之ヲ準用ス

第三條 有價證券割賦販賣業法第八條乃至第十一條ノ規定ハ普通銀行ガ貯蓄銀行法第五條第六號ニ掲タル業務ヲ營ム場合ニ之ヲ準用ス

第四條 信託業法第七條乃至第十條ノ規定ハ普通銀行ガ信託業務ヲ營ム場合ニ之ヲ準用ス

第五條 普通銀行ガ貯蓄銀行業務又ハ信託業務ヲ營ム場合ニ於テ當該業務ノ種類又ハ方法ヲ變更セントスルトキハ主務大臣ノ認可ヲ受クベシ

第六條 銀行業務又ハ信託業務ヲ營ム普通銀行業務ニ對シ當該業務ノ種類若ハ方法ヲ制限シ又ハ其ノ變更ヲ命ズルコトヲ得

第七條 信託會社又ハ信託業務ヲ營ム普通銀行ガ合併ノ決議ヲ爲シタル場合ニ於テ商法第一百條第一項ノ規定ニ依リテ爲スベキ催告ハ金錢信託ノ受益者ニ對シテハ之ヲ爲スコトヲ要セズ

第八條 信託會社ガ合併後存續シ又ハ合併ニ因リテ設立シタル信託業務ヲ營ム會社又ハ信託業務ヲ營ム普通銀行トガ合併シタルトキハ合併後存續シ又ハ合併ニ因リテ設立シタル信託業務ヲ營ム普通銀行ハ合併ニ因リテ消滅シタル信託會社又ハ信託業務ヲ營ム普通銀行ノ

第九條 特別ノ法令ニ依リ設立セラレタル銀行ニシテ主務大臣ノ指定スルモノ(以下指定銀行ト稱ス)ハ他ノ法律ニ拘ラズ貯蓄銀行業務又ハ信託業務ヲ營ムコトヲ得

第十條 指定銀行貯蓄銀行業務又ハ信託業務ヲ營マントスルトキハ業務ノ種類及方法ニ付主務大臣ノ認可ヲ受クベシ

第十一條 第二條乃至前條ノ規定ハ第一項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第十二條 左ノ場合ニ於テハ貯蓄銀行業務又ハ信託業務ヲ營ム普通銀行又ハ指定銀行ノ役員又ハ清算人ヲ千圓以下ノ過料ニ處ス

第十三條 第二條第一項(前條第三項ニ於テ準用スル場合ヲ含ム)、第三條(前條第三項ニ於テ準用スル場合ヲ含ム)、第一項第一號ニ規定スル手形ニシテ銀行又ハ信託會社ノ引受アルモノ以外ノモノニ付亦前項ニ同シ

第十四條 第二條第一項ニ左ノ但書ヲ加フ  
但シ主務大臣ノ認可ヲ受ケタル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第十五條 第二條第一項第一號ニ「一月ヨリ六月迄」ヲ「四月ヨリ九月迄及十月ヨリ十二月迄」ヲ「四月ヨリ九月迄及十月ヨリ翌年三月迄」ニ改ム

第十六條 第二條第一項第一號ニ「一年内」ヲ「五年内」ニ改メ同條同項第十號中「信託會社」ノ上ニ「信託業務ヲ營ム銀行又ハ」ヲ加ヘ同條同項第十一號中「銀行又ハ信託會社ノ引受アル」ヲ削ル

第十七條 同條ニ左ノ一項ヲ加フ

第十八條 第二條第一項第一號ニ規定スル手形ニシテ銀行又ハ信託會社ノ引受アルモノニ於テ準用スル有價證券割賦販賣業法第十條及第四條(前條第三項ニ於テ準用スル場合ヲ含ム)以下同ジニ於テ準用スル信託業法第七條ノ規定ニ違反シタルトキ

第十九條 第二條第一項第一號ニ「一月ヨリ六月迄」ヲ「四月ヨリ九月迄及十月ヨリ翌年三月迄」ニ改ム

第二十條 第二條第一項第一號ニ「一年内」ヲ「五年内」ニ改ム

第二十一條 第二條第一項第一號ニ「一年内」ヲ「五年内」ニ改ム

五 第五條第二項ノ規定ニ依ル主務大臣ノ命令ニ違反シタルトキ

六 前條第二項ノ規定ニ違反シタルトキ

七 信託法第二十八條ノ規定ニ依リテ信託業產ノ管理ヲ爲サザル務ニ付テハ租稅ニ關スル法令ノ適用ニ關シ之ヲ信託會社ト看做ス

八 信託法第三十九條ニ規定スル事務ノ處理若ハ計算ヲ爲サズ又ハ財產目錄ヲ作成セザルトキ

九 正當ノ理由ナクシテ信託法第四十條ノ規定ニ依ル閱覽ヲ拒ミ又ハ説明ヲ爲サザルトキ

附則

第一條 本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第二條 貯蓄銀行法中左ノ通改正ス

第三條 銀行法中左ノ通改正ス

第四條 内閣總理大臣 東條 英機

第五條 司法大臣 岩村 通世

第六條 大藏大臣 賀屋 興宣

第七條 銀行等ノ事務ノ簡素化ニ關スル法律案

第八條 勅旨ヲ奉ジ帝國議會ニ提出ス

第九條 第二條第一項第三號中「信託會社」ノ上ニ「信託業務ヲ營ム銀行又ハ」ヲ加ヘ同條同項第十號中「銀行又ハ」ヲ削ル

第十條 第二條第一項第一號ニ「一年内」ヲ「五年内」ニ改メ同條同項第十一號中「銀行又ハ」ヲ加ヘ同條同項第十一號中「銀行又ハ」ヲ削ル

第十一條 第二條第一項第一號ニ「一月ヨリ六月迄及七月ヨリ十二月迄」ヲ「四月ヨリ九月迄及十月ヨリ翌年三月迄」ニ改ム

第十二條 第二條第一項中「一回一定期」ヲ「三月末日」ニ改ム

第十三條 第二條第一項中「一回」ヲ「一回」ニ改ム

第十四條 第二條第一項中「預ヶ金」ノ下ニ「信託財產」ヲ加フ

第十五條 第二條第一項第五號ヲ左ノ如ク改ム

第十六條 第二條第一項第一項中「預ヶ金」ノ下ニ「信託財產」ヲ加フ

第十七條 第二條第一項第一號ニ「一月ヨリ六月迄及七月ヨリ十二月迄」ヲ「四月ヨリ九月迄及十月ヨリ翌年三月迄」ニ改ム

第十八條 第二條第一項第一號ニ「一年内」ヲ「五年内」ニ改ム

第十九條 第二條第一項ヲ削ル

第二十條 第二條第一項第一號ニ「一年内」ヲ「五年内」ニ改ム

第二十一條 第二條第一項第一號ニ「一年内」ヲ「五年内」ニ改ム

第二十二條 第二條第一項第一號ニ「一年内」ヲ「五年内」ニ改ム

第二十三條 第二條第一項第一號ニ「一年内」ヲ「五年内」ニ改ム

第二十四條 第二條第一項第一號ニ「一年内」ヲ「五年内」ニ改ム

第二十五條 第二條第一項第一號ニ「一年内」ヲ「五年内」ニ改ム

第二十六條 第二條第一項第一號ニ「一年内」ヲ「五年内」ニ改ム

第二十七條 第二條第一項第一號ニ「一年内」ヲ「五年内」ニ改ム

第二十八條 第二條第一項第一號ニ「一年内」ヲ「五年内」ニ改ム

第二十九條 第二條第一項第一號ニ「一年内」ヲ「五年内」ニ改ム

第三十條 第二條第一項第一號ニ「一年内」ヲ「五年内」ニ改ム

第三十一條 第二條第一項第一號ニ「一年内」ヲ「五年内」ニ改ム

第三十二條 第二條第一項第一號ニ「一年内」ヲ「五年内」ニ改ム

第三十三條 第二條第一項第一號ニ「一年内」ヲ「五年内」ニ改ム

第三十四條 第二條第一項第一號ニ「一年内」ヲ「五年内」ニ改ム

第三十五條 第二條第一項第一號ニ「一年内」ヲ「五年内」ニ改ム

第三十六條 第二條第一項第一號ニ「一年内」ヲ「五年内」ニ改ム

第三十七條 第二條第一項第一號ニ「一年内」ヲ「五年内」ニ改ム

第三十八條 第二條第一項第一號ニ「一年内」ヲ「五年内」ニ改ム

第三十九條 第二條第一項第一號ニ「一年内」ヲ「五年内」ニ改ム

第四十條 第二條第一項第一號ニ「一年内」ヲ「五年内」ニ改ム

第四十一條 第二條第一項第一號ニ「一年内」ヲ「五年内」ニ改ム

第十四條 國民貯蓄組合法中左ノ通改正ス

第二條第一項第三號中「信託會社」ノ上ニ「信託業務ヲ營ム銀行又ハ」ヲ加ヘ同條同項第十號中「銀行又ハ」ヲ削ル

第三條 第二條第一項第一號ニ「一年内」ヲ「五年内」ニ改ム

第四條 第二條第一項第一號ニ「一年内」ヲ「五年内」ニ改ム

第五條 第二條第一項第一號ニ「一年内」ヲ「五年内」ニ改ム

第六條 第二條第一項第一號ニ「一年内」ヲ「五年内」ニ改ム

第七條 第二條第一項第一號ニ「一年内」ヲ「五年内」ニ改ム

第八條 第二條第一項第一號ニ「一年内」ヲ「五年内」ニ改ム

第九條 第二條第一項第一號ニ「一年内」ヲ「五年内」ニ改ム

第十條 第二條第一項第一號ニ「一年内」ヲ「五年内」ニ改ム

第十一條 第二條第一項第一號ニ「一年内」ヲ「五年内」ニ改ム

第十二條 第二條第一項第一號ニ「一年内」ヲ「五年内」ニ改ム

第十三條 第二條第一項第一號ニ「一年内」ヲ「五年内」ニ改ム

第十四條 第二條第一項第一號ニ「一年内」ヲ「五年内」ニ改ム

第十五條 第二條第一項第一號ニ「一年内」ヲ「五年内」ニ改ム

第十六條 第二條第一項第一號ニ「一年内」ヲ「五年内」ニ改ム

第十七條 第二條第一項第一號ニ「一年内」ヲ「五年内」ニ改ム

第十八條 第二條第一項第一號ニ「一年内」ヲ「五年内」ニ改ム

第十九條 第二條第一項第一號ニ「一年内」ヲ「五年内」ニ改ム

第二十條 第二條第一項第一號ニ「一年内」ヲ「五年内」ニ改ム

第二十一條 第二條第一項第一號ニ「一年内」ヲ「五年内」ニ改ム

第二十二條 第二條第一項第一號ニ「一年内」ヲ「五年内」ニ改ム

第二十三條 第二條第一項第一號ニ「一年内」ヲ「五年内」ニ改ム

第二十四條 第二條第一項第一號ニ「一年内」ヲ「五年内」ニ改ム

第二十五條 第二條第一項第一號ニ「一年内」ヲ「五年内」ニ改ム

第二十六條 第二條第一項第一號ニ「一年内」ヲ「五年内」ニ改ム

第二十七條 第二條第一項第一號ニ「一年内」ヲ「五年内」ニ改ム

第二十八條 第二條第一項第一號ニ「一年内」ヲ「五年内」ニ改ム

第二十九條 第二條第一項第一號ニ「一年内」ヲ「五年内」ニ改ム

第三十條 第二條第一項第一號ニ「一年内」ヲ「五年内」ニ改ム

第三十一條 第二條第一項第一號ニ「一年内」ヲ「五年内」ニ改ム

第三十二條 第二條第一項第一號ニ「一年内」ヲ「五年内」ニ改ム

第三十三條 第二條第一項第一號ニ「一年内」ヲ「五年内」ニ改ム

第三十四條 第二條第一項第一號ニ「一年内」ヲ「五年内」ニ改ム

第三十五條 第二條第一項第一號ニ「一年内」ヲ「五年内」ニ改ム

第三十六條 第二條第一項第一號ニ「一年内」ヲ「五年内」ニ改ム

第三十七條 第二條第一項第一號ニ「一年内」ヲ「五年内」ニ改ム

第三十八條 第二條第一項第一號ニ「一年内」ヲ「五年内」ニ改ム

第三十九條 第二條第一項第一號ニ「一年内」ヲ「五年内」ニ改ム

第四十條 第二條第一項第一號ニ「一年内」ヲ「五年内」ニ改ム

第四十一條 第二條第一項第一號ニ「一年内」ヲ「五年内」ニ改ム



## 第十七條ノ四 政府ハ必要ト認ムルトキハ

前條第一項ニ掲クル者ニ對シ鹽業組合ノ設立ヲ命シ又ハ鹽業組合ニ加入スルコトヲ命スルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ設立ヲ命セラレタル者政府ノ指定スル期限迄ニ設立ノ認可ヲ申請セサルトキハ政府ハ定款ノ作成其ノ他

設立ニ關シ必要ナル處分ヲ爲スコトヲ得

第十七條ノ五 鹽業組合ハ設立ノ登記ヲ爲スニ因リテ成立ス

第十七條ノ六 鹽業組合カ本法ニ基キテ發スル勅令ニ依リ登記スヘキ事項ハ其ノ登記ヲ爲スニ非サレハ之ヲ以テ第三者ニ對抗スルコトヲ得ス

第十七條ノ七 鹽業組合ハ左ノ事業ヲ行

一 組合員ノ事業ニ必要ナル物ノ供給及共同設備ノ設置並ニ組合員ノ製品ノ加工、保管又ハ販賣

二 鹽又ハ鹹水ノ製造ニ關スル指導、研究及調査

三 其ノ他鹽業組合ノ目的達成上必要ナル統制及施設

鹽業組合ハ前項ノ事業ノ外組合員ニ對スル其ノ事業ニ必要ナル資金ノ貸付、組合員ノ爲ニスル其ノ事業上ノ債務ノ保證又ハ組合員ノ貯金ノ受入ヲ併せ行フコトヲ得

第十七條ノ八 組合員ハ出資一口以上ヲ有スヘシ

鹽業組合ハ定款ノ定ムル所ニ依リ其ノ経費ヲ組合員ニ分賦スルコトヲ得

組合員ノ責任ハ前項ノ規定ニ依ル費用負擔ノ外其ノ出資額ヲ限度トス但シ鹽業組合ハ定款ノ定ムル所ニ依リ組合財産ヲ以テ其ノ債務ヲ完済スルコト能ハサル場合ニ於テ組合員ノ全員カ其ノ出資額ノ外一定ノ金額(保證金額)ヲ限度トシテ責任ヲ負擔スルモノト爲スコト得

## 第十七條ノ九 政府ハ鹽業組合ニ對シ鹽業又ハ財產ノ状況ニ關シ報告ヲ爲シ

業又ハ財產ノ状況ニ關シ報告ヲ爲シ、事業ノ計畫若ハ其ノ執行方法又ハ經費ノ豫算若ハ其ノ徵收方法ノ變更ヲ命シ其ノ他監督上必要ナル命令ヲ發シ又ハ處分ヲ爲スコトヲ得

第十七條ノ十 政府ハ鹽業組合ニ對シ事務又ハ鹽業組合ニハ所得稅、法人稅及營業稅ヲ課セス

第十七條ノ十一 鹽業組合ニハ所得稅、清算其ノ他鹽業組合ニ關シ必要ナル事項ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第十七條ノ十二 本法ニ規定スルモノノ外鹽業組合ノ設立、登記管理、解散、清算其ノ他鹽業組合ニ關シ必要ナル事項ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第十七條ノ十三 鹽業組合又ハ命令ヲ以テ定ムル鹽製造者若ハ鹹水製造者ハ其ノ共同ノ目的ヲ達スル爲政府ノ認可ヲ受ケ鹽業組合聯合會ヲ設立スルコトヲ得

鹽業組合聯合會及命令ヲ以テ定ムル鹽業組合ハ其ノ共同ノ目的ヲ達スル爲政府ノ認可ヲ受ケ鹽業組合聯合會ヲ設立スルコトヲ得

第十七條ノ十四 鹽業組合聯合會及命令ヲ以テ定ムル鹽製造者若ハ鹹水製造者ハ其ノ共同ノ目的ヲ達スル爲政府ノ認可ヲ受ケ鹽業組合聯合會ヲ設立スルコトヲ得

第十七條ノ十五 鹽業組合聯合會及命令ヲ以テ定ムル鹽製造者若ハ鹹水製造者ハ其ノ共同ノ目的ヲ達スル爲政府ノ認可ヲ受ケ鹽業組合聯合會ヲ設立スルコトヲ得

第十七條ノ十六 鹽業組合聯合會及命令ヲ以テ定ムル鹽製造者若ハ鹹水製造者ハ其ノ共同ノ目的ヲ達スル爲政府ノ認可ヲ受ケ鹽業組合聯合會ヲ設立スルコトヲ得

第十七條ノ十七 鹽業組合聯合會及命令ヲ以テ定ムル鹽製造者若ハ鹹水製造者ハ其ノ共同ノ目的ヲ達スル爲政府ノ認可ヲ受ケ鹽業組合聯合會ヲ設立スルコトヲ得

第十七條ノ十八 鹽業組合聯合會及命令ヲ以テ定ムル鹽製造者若ハ鹹水製造者ハ其ノ共同ノ目的ヲ達スル爲政府ノ認可ヲ受ケ鹽業組合聯合會ヲ設立スルコトヲ得

第十七條ノ十九 鹽業組合聯合會及命令ヲ以テ定ムル鹽製造者若ハ鹹水製造者ハ其ノ共同ノ目的ヲ達スル爲政府ノ認可ヲ受ケ鹽業組合聯合會ヲ設立スルコトヲ得

第十七條ノ二十 鹽業組合聯合會及命令ヲ以テ定ムル鹽製造者若ハ鹹水製造者ハ其ノ共同ノ目的ヲ達スル爲政府ノ認可ヲ受ケ鹽業組合聯合會ヲ設立スルコトヲ得

第十七條ノ二十一 鹽業組合聯合會及命令ヲ以テ定ムル鹽製造者若ハ鹹水製造者ハ其ノ共同ノ目的ヲ達スル爲政府ノ認可ヲ受ケ鹽業組合聯合會ヲ設立スルコトヲ得

第十七條ノ二十二 鹽業組合聯合會及命令ヲ以テ定ムル鹽製造者若ハ鹹水製造者ハ其ノ共同ノ目的ヲ達スル爲政府ノ認可ヲ受ケ鹽業組合聯合會ヲ設立スルコトヲ得

第十七條ノ二十三 鹽業組合聯合會及命令ヲ以テ定ムル鹽製造者若ハ鹹水製造者ハ其ノ共同ノ目的ヲ達スル爲政府ノ認可ヲ受ケ鹽業組合聯合會ヲ設立スルコトヲ得

第十七條ノ二十四 鹽業組合聯合會及命令ヲ以テ定ムル鹽製造者若ハ鹹水製造者ハ其ノ共同ノ目的ヲ達スル爲政府ノ認可ヲ受ケ鹽業組合聯合會ヲ設立スルコトヲ得

第十七條ノ二十五 鹽業組合聯合會及命令ヲ以テ定ムル鹽製造者若ハ鹹水製造者ハ其ノ共同ノ目的ヲ達スル爲政府ノ認可ヲ受ケ鹽業組合聯合會ヲ設立スルコトヲ得

第十七條ノ二十六 鹽業組合聯合會及命令ヲ以テ定ムル鹽製造者若ハ鹹水製造者ハ其ノ共同ノ目的ヲ達スル爲政府ノ認可ヲ受ケ鹽業組合聯合會ヲ設立スルコトヲ得

第十七條ノ二十七 鹽業組合聯合會及命令ヲ以テ定ムル鹽製造者若ハ鹹水製造者ハ其ノ共同ノ目的ヲ達スル爲政府ノ認可ヲ受ケ鹽業組合聯合會ヲ設立スルコトヲ得

第十七條ノ二十八 鹽業組合聯合會及命令ヲ以テ定ムル鹽製造者若ハ鹹水製造者ハ其ノ共同ノ目的ヲ達スル爲政府ノ認可ヲ受ケ鹽業組合聯合會ヲ設立スルコトヲ得

第十七條ノ二十九 鹽業組合聯合會及命令ヲ以テ定ムル鹽製造者若ハ鹹水製造者ハ其ノ共同ノ目的ヲ達スル爲政府ノ認可ヲ受ケ鹽業組合聯合會ヲ設立スルコトヲ得

第十七條ノ三十 鹽業組合聯合會及命令ヲ以テ定ムル鹽製造者若ハ鹹水製造者ハ其ノ共同ノ目的ヲ達スル爲政府ノ認可ヲ受ケ鹽業組合聯合會ヲ設立スルコトヲ得

第十七條ノ三十一 鹽業組合聯合會及命令ヲ以テ定ムル鹽製造者若ハ鹹水製造者ハ其ノ共同ノ目的ヲ達スル爲政府ノ認可ヲ受ケ鹽業組合聯合會ヲ設立スルコトヲ得

第十七條ノ三十二 鹽業組合聯合會及命令ヲ以テ定ムル鹽製造者若ハ鹹水製造者ハ其ノ共同ノ目的ヲ達スル爲政府ノ認可ヲ受ケ鹽業組合聯合會ヲ設立スルコトヲ得

第十七條ノ三十三 鹽業組合聯合會及命令ヲ以テ定ムル鹽製造者若ハ鹹水製造者ハ其ノ共同ノ目的ヲ達スル爲政府ノ認可ヲ受ケ鹽業組合聯合會ヲ設立スルコトヲ得

## 第二十五條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處シ其ノ犯罪ニ係ル鹽又ハ鹹水ハ之ヲ沒收ス既ニ讓渡シ又ハ消費シタルトキハ鹽ニ付テハ第十八條ノ賣定價ニ相當スル金額ヲ、

施設ヲ爲シ若ハ其ノ補助ヲ爲スヘキコトヲ命スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ政府ハ鹽業組合ニ對シ命令ノ定ムル所ニ依リ交付金ヲ下付スルコトヲ得

第十七條ノ三十四 本法ニ基キテ發スル勅令ニ違反シ登記ヲ爲スコトヲ怠リ又ハ不正ノ登記ヲ爲シタルトキ

一 第十七條ノ十(第十七條ノ十三ニ於テ準用スル場合ヲ含ム)ノ規定ニ依ル命令又ノ規定ニ依ル報告ヲ怠リ又ハ不正ノ報告ヲ爲シタルトキ

二 第十七條ノ十(第十七條ノ十三ニ於テ準用スル場合ヲ含ム)ノ規定ニ依ル命令又ノ規定ニ依ル報告ヲ怠リ又ハ不正ノ報告ヲ爲シタルトキ

三 第十七條ノ十(第十七條ノ十三ニ於テ準用スル場合ヲ含ム)ノ規定ニ依ル命令又ノ規定ニ依ル報告ヲ怠リ又ハ不正ノ報告ヲ爲シタルトキ

四 第一號ニ該當スル場合ヲ除クノ外於テ準用スル場合ヲ含ム)ノ規定ニ依ル命令又ノ規定ニ依ル報告ヲ怠リ又ハ不正ノ報告ヲ爲シタルトキ

第五條 本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第六條 本法施行ノ際現ニ存スル產業組合、工業組合又ハ工業小組合ニシテ鹽製造者、鹹水製造者又ハ製鹽地所有者ノミヲ以テ組織セラレ第十七條ノ七十ノ事業ヲ行フモノ(以下既存組合ト稱ス)ハ本法施行ノ日ニ於テ本法ニ依ル鹽業組合ト爲リタルモノトス

前項ノ場合ニ於ケル定款、登記其ノ他ニ關シ必要ナル事項ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第七條 本法施行ノ日ニ於ケル定款、登記其ノ他ニ關シ必要ナル事項ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第八條 本法施行ノ日ニ於ケル定款、登記其ノ他ニ關シ必要ナル事項ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第九條 本法施行ノ日ニ於ケル定款、登記其ノ他ニ關シ必要ナル事項ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第十條 本法施行ノ日ニ於ケル定款、登記其ノ他ニ關シ必要ナル事項ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第十一條 本法施行ノ日ニ於ケル定款、登記其ノ他ニ關シ必要ナル事項ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第十二條 本法施行ノ日ニ於ケル定款、登記其ノ他ニ關シ必要ナル事項ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第十三條 本法施行ノ日ニ於ケル定款、登記其ノ他ニ關シ必要ナル事項ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第十四條 本法施行ノ日ニ於ケル定款、登記其ノ他ニ關シ必要ナル事項ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第十五條 本法施行ノ日ニ於ケル定款、登記其ノ他ニ關シ必要ナル事項ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第十六條 本法施行ノ日ニ於ケル定款、登記其ノ他ニ關シ必要ナル事項ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第十七條 本法施行ノ日ニ於ケル定款、登記其ノ他ニ關シ必要ナル事項ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第十八條 本法施行ノ日ニ於ケル定款、登記其ノ他ニ關シ必要ナル事項ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第十九條 本法施行ノ日ニ於ケル定款、登記其ノ他ニ關シ必要ナル事項ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第二十條 本法施行ノ日ニ於ケル定款、登記其ノ他ニ關シ必要ナル事項ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第二十一條 本法施行ノ日ニ於ケル定款、登記其ノ他ニ關シ必要ナル事項ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第二十二條 本法施行ノ日ニ於ケル定款、登記其ノ他ニ關シ必要ナル事項ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第五條 附則第二條第一項ノ場合ニ於テ既存組合ニ對スル出資ノ持分ノ上ニ存在スル業組合ト爲リタル既存組合方産業組合ニ對スル出資ノ持分ノ上ニ存在スル業組合ト爲リタル既存組合中央金庫ノ出資者ナルトキハ當該鹽業組合ハ本法施行後二月以内ニ産業組合中央金庫又ハ商工組合中央金庫ノ定款ノ定ムル所ニ依リ其ノ持分ヲ他ニ譲渡スコトヲ要ス

第六條 前項ノ譲渡ナキ場合ニ於テ當該持分ノ譲渡ニ關シ必要ナル事項ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第七條 産業組合中央金庫、信用組合聯合會、商工組合中央金庫、工業組合聯合會又ハ工業組合ハ其ノ貸付先タル既存組合ガ附則第二條第一項ノ規定ニ依リ鹽業組合ト爲リタルトキハ當該鹽業組合ニ對シ主務大臣ノ認可ヲ受ケ從來ノ貸付ヲ繼續スルコトヲ得  
附則第二條第一項ノ規定ニ依リ既存組合ガ鹽業組合ト爲リタルトキハ所得稅法、法人稅法及臨時利得稅法又ハ特別法人稅法ノ適用ニ關シテハ既存組合ハ之ヲ合併ニ因リテ消滅シタル法人又ハ特別法人ト看做シタル法人又ハ之ヲ合併ニ因リテ設立シタル法人又ハ特別ノ法人ト看做ス

第八條 鹽業組合ガ附則第三條ノ規定ニ依リ承繼シタル不動產ニ關スル權利ノ取得ニ付登記ヲ受クル場合ニ於テハ其ノ登錄稅ノ額ハ不動產ノ價格ノ千分ノ三トス但シ登錄稅法ニ依リ算出シタル益金ニ算入セズ

第十條 印紙稅法中左ノ通改正ス  
第五條第六號中「產業組合」ノ下ニ「若  
ハ鹽業組合」ヲ加フ

第十一條 特別法人稅法中左ノ通改正ス  
第二條ニ左ノ一號ヲ加フ

十 鹽業組合、鹽業組合聯合會及鹽  
業組合中央會

〔國務大臣賀屋興宣君演壇ニ登ル〕

國務大臣(賀屋興宣君) 只今議題ト相成  
マシタ國民貯蓄組合法中改正法律案外六  
百二十付、其ノ提案ノ理由ヲ説明致シマス、  
又、國民貯蓄組合法中改正法律案ニ付説明  
上ゲマス、戰時財政經濟ノ圓滑ナル運行  
確保シマシテ、大東亞戰爭ノ完遂ヲ期セ  
ガ爲ニハ、益、國民貯蓄ノ增强ニ力ガ盡ス  
キコトハ多ク説明ヲ要シナイ所デアリマ  
、之ガ爲政府ニ於キマシテハ從來各般ノ  
效適切ナル施策ヲ講ジツ、アリマスル  
ベ、就中國民貯蓄組合ヲ通ズル貯蓄ノ増加  
更ニ一層促進スルハ、此ノ際特ニ緊要ト  
ジマスルノデ、本法律案ヲ提出致シタ次  
モデアリマス、改正ノ要點ヲ申上ゲマスレ  
、第一ハ、國民貯蓄組合ノ斡旋ニ依ル貯  
金ニ關スル課稅上ノ特典ヲ擴張致シマシテ、  
ナラズ、綜合所得稅ヲモ賦課せザルコト  
致シタ點デアリマス、第二ハ、勤務先預  
金ニ關スル規定ヲ新タニ設ケマシテ、此  
種預ヶ金ハ、向後原則トシテ國民貯蓄組  
合第七號中「又ハ貸室組合聯合會」ヲ「貸  
室組合聯合會、鹽業組合、鹽業組合中央會」ニ  
「又ハ貸家組合法」ヲ「貸家組合法又  
ハ鹽專賣法」ニ改ム

ノ受入ノ方法又ハ受入レタル資金ノ運用ニ  
關シマシテハ、必要ナル指示ヲナシ得ル  
トト致シマシタ點デアリマス、其ノ他市町  
村ヲ單位トスル地域組合ノ組織ヲ認ムル  
ト、組合ノ監督規定ニ付若干ノ改正ヲ加エ  
タコト等ヲ、其ノ骨子トスルモノデアリマ  
ス、次ニ納稅施設法案ニ付説明致シマス、  
國民ノ租稅負擔ハ、戰時下ニ於ケル我ガ財  
政需要ノ増加ニ伴ヒマシテ、屢次ノ增稅  
依リ急激ニ増大ヲ致シ、國民ノ經濟生活上  
租稅負擔額ハ相當大ナル部分ヲ占ムルニ至  
タノデアリマス、從ヒマシテ國民ハ戰時  
下ニ於ケル經濟生活ニ於キマシテハ、常ニ  
納稅ニ對スル準備ヲ怠ラザルコトガ肝要ナ  
ルコトハ申ス迄モナイシデアリマスガ、政  
府ニ於キマシテモ、國民ノ納稅ノ履行ヲ空  
易ナラシメ、併セテ國民貯蓄ノ増強等ニシ  
シマスル爲、本法律案ヲ提出シタ次第アマ  
リマス、政府ハ從來ニ於テモ、國民ノ納稅  
精神ノ昂揚ヲ圖ルト共ニ、納稅組合ノ普  
勸奨シノ他各種ノ行政的施策ニ依リ、納稅  
資金ノ蓄積ト滯納防止ニ力ヲ盡シテ參々タ  
デアリマスルガ、併シナガラ是等行政的策  
策ノミツ以テシマシテハ、未ダ十分ニ其ノ  
實效ヲ擧ゲ得ザルノミナラズ、他方豫メ  
稅資金ノ準備ヲ爲シ置クコトニ關シ、適切  
ナル制度ガ完備シテ居リマセヌ實情等ヲ察  
察シマシテ、今回政府ハ納稅施設法ヲ制定  
シ、以下申述ベマスルガ如キ事項ヲ綜合想  
定スルノ必要ヲ認メタ次第アリマス、即  
チ納稅ニ關シ公共的事業ヲ行フ町内會、  
落會及納稅組合ヲ、納稅團體ナル法制上  
團體トシテ認メ、之ガ普及發達ニ付助成ノ  
途ヲ講ジマスルト共ニ、其ノ指導監督上必  
要ナル事項ヲ規定シ、以テ其ノ健全ナル發  
展ヲ期スルコトト致シタノデアリマス、又  
法人ニ對シマシテハ、納稅積立金ノ積立ヲ  
爲サシメ、其ノ一部ニ付テ、預金ヲ以

コトヲ目的トスル納稅準備預金ナル新種預  
金ヲ設ケマシテ、之ニ對シテハ各種ノ便宜ナ  
リマス、次ニ專ラ租稅公課ノ納付ニ充ツル  
手段ヲ提供スルコト致シタ次第デアリマ  
ス、又戰時財政經濟ノ運營上、資金ノ圓滑  
ナル調達ヲ圖リマスル爲、國民貯蓄ノ增强  
ニ俟ツベキモノ大デアリマスルガ、今回新  
タニ租稅ノ納付ト國民貯蓄ノ增强トヲ關聯  
セシメマシタル租稅ノ貯蓄納付制度ヲ創設  
スルコトト致シタノデアリマス、本制度ノ  
目的トスル所ハ、特定ノ租稅ノ一定倍數ニ  
相當スル金額ノ貯蓄、即チ戰時納稅貯蓄ヲ  
爲シタトキニ於キマシテ、當該租稅ノ納付  
ト同一ノ效果ヲ生ゼシメルコトニ依リマシ  
テ、一方國民ノ納稅義務ノ履行ヲ容易ナラ  
シムルト共ニ、他方國民貯蓄ノ積極的ナル  
增强ト、財政資金ノ圓滑ナル調達ヲ圖ラム  
トスルニアルノデアリマス、以上が今回  
納稅施設法案ヲ提出致シマシタ理由デア  
リマス、次ニ臨時資金調整法中改正法律  
案ニ付キマシテ説明致シマス、大東亞戰爭  
ガ決戰段階ニ入ルニ伴ヒマシテ、巨額ナル  
戰費及ビ其ノ他戦力增强ノ爲必要ナル資金  
ヲ確保致シマスルコトガ、愈緊要ノ度ヲ  
加ヘ、之ガ爲ニハ各般ノ措置ヲ講ジ、國民  
貯蓄ノ增强、國債、社債、株式、其ノ他ノ消  
化促進ヲ圖ル必要ガアルノデアリマス、而  
シテ國民貯蓄ノ增强ハ、固ヨリ國民ノ愛國ノ  
熱誠ニ俟ツベキモノハアリマスガ、他面  
ル機會ヲ捕捉スルニ遺憾ナキヲ期シマスル  
ト共ニ、國債其ノ他ノ證券ノ適正簡易安全

ナル賣買機構ヲ整備シ、株式ノ市價安定ノ方途ヲ整へ、以テ證券ノ消化促進、價格ノ安定、產業資金ノ調達、及ビ國民貯蓄ノ保護ニ遺憾ナカラシムル要ガアルノデアリマシテ、之ガ爲今般臨時資金調整法ヲ改正シ、之ニ必要ナル規定ヲ設クルコト致シタノデアリマス、改正ノ主ナル點ヲ申上ゲマスレバ、第一點ハ、新種貯蓄方法ノ實施及ビ新種證券ノ發行デアリマス、即チ第一ニ銀行其ノ他ノ所謂貯蓄取扱機關等ニ對シマシテ、政府ハ新種貯蓄ノ取扱ヲナサシメ、或ハ各種ノ貯蓄施設ノ整備ヲ圖ラシムル等、資金ノ吸收ニ關シ必要ナル命令ヲナシ得ルコト致シタノデアリマス、第二ニ、一定ノ預貯金等ニノミ充ツルコトヲ得ル證券ヲ政府自ラ發行シ、又ヘ一定ノ者ヲシテ發行セシメ、之ニ依り現在國債其ノ他ノ債券ノ發行時期、賣出期間、券面金額等ニ付、貯蓄手段トシテ不便ノアリマス點ヲ補ハムト致スノデアリマス、第三ニ、國民大衆ノ微妙ナル心理ヲ把握シ、所謂浮動購買力ノ吸收ヲ圖ル構想ノ下ニ各種各様ノ方法ヲ實施シ得ルヤウ、一定ノ者ヲシテ新種ノ割増金附證券ヲ發行セシメ、或ハ割増金附預金ヲ取扱ハシメ得ルコトト致シタイト存ズルノデアリマス、改正ノ第二點ハ、貯蓄債券及び報國債券ノ發行償還ニ伴フ手續ノ簡易化ヲ圖タコトデアリマス、國民貯蓄增加ノ爲、貯蓄債券及ビ報國債券ノ發行ハ、愈々增加スペース、改訂シマスルト共ニ、日本勸業銀行本支店所在地ニ於ケル發行並ニ償還登記簿制度ヲ省略シマスルト共ニ、日本勸業銀行本支店所在地ニ於ケル發行並ニ償還登記簿制度ヲ設ケマシテ、社債原アリマス、改正ノ第三點ハ、適正簡易、且

銀行業務又ハ信託業務ノ兼營等ニ關スル法安全ナル有價證券ノ賣買機構ヲ整備セムトスルコトデアリマス、決戰態勢下ニ於キマシテ、戰費及ビ生産力擴充資金等ヲ調達スル爲、國債、貯蓄債券其ノ他ノ有價證券ノレバ、第一點ハ、新種貯蓄方法ノ實施及ビ新種證券ノ發行デアリマス、即チ第一ニ銀行其ノ他ノ所謂貯蓄取扱機關等ニ對シマシテ、政府ハ新種貯蓄ノ取扱ヲナサシメ、或ハ各種ノ貯蓄施設ノ整備ヲ圖ラシムル等、資金ノ吸收ニ關シ必要ナル命令ヲナシ得ルコト致シタノデアリマス、第二ニ、一定ノ預貯金等ニノミ充ツルコトヲ得ル證券ヲ政府自ラ發行シ、又ヘ一定ノ者ヲシテ發行セシメ、之ニ依り現在國債其ノ他ノ債券ノ發行時期、賣出期間、券面金額等ニ付、貯蓄手段トシテ不便ノアリマス點ヲ補ハムト致スノデアリマス、第三ニ、國民大衆ノ微妙ナル心理ヲ把握シ、所謂浮動購買力ノ吸收ヲ圖ル構想ノ下ニ各種各様ノ方法ヲ實施シ得ルヤウ、一定ノ者ヲシテ新種ノ割増金附證券ヲ發行セシメ、或ハ割増金附預金ヲ取扱ハシメ得ルコトト致シタイト存ズルノデアリマス、改正ノ第二點ハ、貯蓄債券及び報國債券ノ發行償還ニ伴フ手續ノ簡易化ヲ圖タコトデアリマス、國民貯蓄增加ノ爲、貯蓄債券及ビ報國債券ノ發行ハ、愈々增加スペース、改訂シマスルト共ニ、日本勸業銀行本支店所在地ニ於ケル發行並ニ償還登記簿制度ヲ設ケマシテ、社債原アリマス、改正ノ第三點ハ、適正簡易、且

銀行業務又ハ信託業務ノ兼營等ニ關スル法安全ナル有價證券ノ賣買機構ヲ整備セムトスルコトデアリマス、決戰態勢下ニ於キマシテ、戰費及ビ生産力擴充資金等ヲ調達スル爲、國債、貯蓄債券其ノ他ノ有價證券ノレバ、第一點ハ、新種貯蓄方法ノ實施及ビ新種證券ノ發行デアリマス、即チ第一ニ銀行其ノ他ノ所謂貯蓄取扱機關等ニ對シマシテ、政府ハ新種貯蓄ノ取扱ヲナサシメ、或ハ各種ノ貯蓄施設ノ整備ヲ圖ラシムル等、資金ノ吸收ニ關シ必要ナル命令ヲナシ得ルコト致シタノデアリマス、第二ニ、一定ノ預貯金等ニノミ充ツルコトヲ得ル證券ヲ政府自ラ發行シ、又ヘ一定ノ者ヲシテ發行セシメ、之ニ依り現在國債其ノ他ノ債券ノ發行時期、賣出期間、券面金額等ニ付、貯蓄手段トシテ不便ノアリマス點ヲ補ハムト致スノデアリマス、第三ニ、國民大衆ノ微妙ナル心理ヲ把握シ、所謂浮動購買力ノ吸收ヲ圖ル構想ノ下ニ各種各様ノ方法ヲ實施シ得ルヤウ、一定ノ者ヲシテ新種ノ割増金附證券ヲ發行セシメ、或ハ割増金附預金ヲ取扱ハシメ得ルコトト致シタイト存ズルノデアリマス、改正ノ第二點ハ、貯蓄債券及び報國債券ノ發行償還ニ伴フ手續ノ簡易化ヲ圖タコトデアリマス、國民貯蓄增加ノ爲、貯蓄債券及ビ報國債券ノ發行ハ、愈々增加スペース、改訂シマスルト共ニ、日本勸業銀行本支店所在地ニ於ケル發行並ニ償還登記簿制度ヲ設ケマシテ、社債原アリマス、改正ノ第三點ハ、適正簡易、且

銀行業務又ハ信託業務ノ兼營等ニ關スル法安全ナル有價證券ノ賣買機構ヲ整備セムトスルコトデアリマス、決戰態勢下ニ於キマシテ、戰費及ビ生産力擴充資金等ヲ調達スル爲、國債、貯蓄債券其ノ他ノ有價證券ノレバ、第一點ハ、新種貯蓄方法ノ實施及ビ新種證券ノ發行デアリマス、即チ第一ニ銀行其ノ他ノ所謂貯蓄取扱機關等ニ對シマシテ、政府ハ新種貯蓄ノ取扱ヲナサシメ、或ハ各種ノ貯蓄施設ノ整備ヲ圖ラシムル等、資金ノ吸收ニ關シ必要ナル命令ヲナシ得ルコト致シタノデアリマス、第二ニ、一定ノ預貯金等ニノミ充ツルコトヲ得ル證券ヲ政府自ラ發行シ、又ヘ一定ノ者ヲシテ發行セシメ、之ニ依り現在國債其ノ他ノ債券ノ發行時期、賣出期間、券面金額等ニ付、貯蓄手段トシテ不便ノアリマス點ヲ補ハムト致スノデアリマス、第三ニ、國民大衆ノ微妙ナル心理ヲ把握シ、所謂浮動購買力ノ吸收ヲ圖ル構想ノ下ニ各種各様ノ方法ヲ實施シ得ルヤウ、一定ノ者ヲシテ新種ノ割増金附證券ヲ發行セシメ、或ハ割増金附預金ヲ取扱ハシメ得ルコトト致シタイト存ズルノデアリマス、改正ノ第二點ハ、貯蓄債券及び報國債券ノ發行償還ニ伴フ手續ノ簡易化ヲ圖タコトデアリマス、國民貯蓄增加ノ爲、貯蓄債券及ビ報國債券ノ發行ハ、愈々增加スペース、改訂シマスルト共ニ、日本勸業銀行本支店所在地ニ於ケル發行並ニ償還登記簿制度ヲ設ケマシテ、社債原アリマス、改正ノ第三點ハ、適正簡易、且

ガ、本保険ニ依リマシテ損失ヲ受ケマシタ  
トキハ、政府ニ於テ之ヲ補償致シマスト共  
ニ、利益ヲ得マシタトキハ、之ヲ政府ニ納  
付セシムルコトト致シタ次第アリマス、  
次ニ鹽專賣法中改正法律案ニ付説明申上ゲ  
マス、鹽ガ食料用又工業用トシマシテ、極  
メテ重要ナ物資デアリマスコトハ申ス迄モ  
ナイ所デアリマスルガ、特ニ食料鹽ハ他ニ  
代用品ノナイ、國民生活維持ノ爲、絶對缺  
クコトノ出來ナイ必需物資デアリマスルノ  
デ、之ガ需給ヲ安定セシムルコトハ現下ノ  
緊要事ト存ズル次第デアリマス、從ヒマシ  
テ能フ限リ鹽ノ需給ヲ安定セシムル爲ニ、  
其ノ一方策ト致シマシテ、此ノ際鹽專賣法  
中左ノ四點ニ付改正ヲ行ハムトスル次第デ  
アリマス、先づ改正ノ第一點ハ、現在鹽水  
ハ鹽ノ製造以外ノ用途ニハ供シ得ナイコト  
ニナッテ居ルノデアリマスルガ、鹽ノ用途  
中、鹹水ノ儘ニテ其ノ用ヲ辨ジ得ルモノガ  
アリマスルノデ、是等ノ用途ニハ鹹水ヲ直  
接使用シ得ルヤウニ、鹹水ノ用途制限ヲ緩  
和スルコトニ致シタノデアリマス、次ニ鹽  
又ハ鹹水ノ製造ハ、一箇月以前ニ申告ヲ致  
シマスレバ自由ニ之ヲ廢止シ得ルコトニ  
ナツテ居リマスルノデ、今回之ヲ改メマシテ、  
製造ノ廢止ニハ政府ノ許可ヲ要スルコトニ  
致シタノデアリマス、第三ニ、鹽田ハ其  
ノ性質上海濱ニ位シマスル關係上、高潮、  
海嘯等ノ危險モ少クナインデアリマシテ、  
鹽又ハ鹹水ノ製造事業ノ安定ヲ圖ル爲、是  
等ノ場合ニ罹災補償ノ制度ヲ設クルコトト  
致シタノデアリマス、最後ニ鹽製造者等ノ  
共同活動ヲ促進セシメ、鹽生產ノ増強ヲ圖  
ル爲ニ鹽業團體ノ機構ヲ確立スルコト致  
シタ次第デアリマス、以上七件ノ法律案ニ  
付キマシテハ、何卒御審議ノ上速力ニ御協  
賛ヲ與ヘラレムコトヲ希望致シマス  
○子爵戸澤正己君 只今議題トナリマシタ  
國民貯蓄組合法中改正法律案外六件ハ、十

五名ノ特別委員トシ、其ノ委員ノ指名ヲ講  
長ニ一任スルノ動議ヲ提出致シマス  
○子爵秋園重季君 贊成

○議長(伯爵松平頼義君) 御異議ナイト認  
ニ御異議ゴザイマセヌカ

〔異議ナシト呼フ者アリ〕

○議長(伯爵松平頼義君) 御異議ナイト認  
メマス、特別委員ノ氏名ヲ朗讀致サセマス  
〔高山書記官朗讀〕

國民貯蓄組合法中改正法律案外六件特別  
委員

八爵一條 實孝君	侯爵淺野 長武君
伯爵橋本 實斐君	子爵上原七之助君
河田 烈君	子爵綾小路 護君
富田 健治君	三井清一郎君
米山 梅吉君	下村 宏君
米原 章三君	男爵小畑大太郎君
野村 德七君	元長君
金藏君	眞理君

○議長(伯爵松平頼義君) 日程第八、兵役  
法中改正法律案、日程第九、共通法中改正  
法律案、日程第十、明治三十八年法律第三  
十八號改正法律案、日程第十一、陸軍軍法  
會議法及海軍軍法會議法中改正法律案、政  
府提出、第一回讀會、是等ノ四案ヲ一括シテ  
議題ト爲スコトニ御異議ゴザイマセヌカ  
〔異議ナシト呼フ者アリ〕

兵役法中改正法律案

右

勅旨ヲ奉ジ帝國議會ニ提出ス  
昭和十八年一月十八日

内閣總理大臣兼  
陸軍大臣  
東條英機  
司法大臣  
岩村通世

第五十二條第一項ヲ左ノ如ク改ム  
戸籍法及朝鮮民事令中戸籍ニ關スル規  
定ノ適用ヲ受ケザル者ニシテ徵兵適齡  
ヲ過ギ戸籍法又ハ朝鮮民事令中戸籍ニ  
關スル規定ノ適用ヲ受クル者ノ家ニ入  
リタルモノニ對シテハ徵集ヲ免除ス  
第五十三條ノ二左ニ掲タル者ノ徵集ニ  
關シテハ第二十六條、第二十七條又ハ  
第二十九條ノ規定ニ對シ勅令ヲ以テ別  
段ノ定ヲ爲スコトヲ得

一 戸籍法ノ適用ヲ受クル者ニシテ朝  
鮮、臺灣又ハ帝國外ノ地ニ在留スル  
モノ

二 朝鮮民事令中戸籍ニ關スル規定ノ  
適用ヲ受クル者

第六十九條第二項ヲ左ノ如ク改ム

前項ニ規定スル事務ノ監督ニ付テハ戸  
籍事務ノ監督ニ關スル規定ヲ準用ス

第七十二條 本法中市町村長ニ關スル規  
定ハ市町村長ニ准ズベキ者ニ之ヲ適用  
シタ次第アリマス、以上七件ノ法律案ニ  
付キマシテハ、何卒御審議ノ上速力ニ御協  
賛ヲ與ヘラレムコトヲ希望致シマス

○子爵戸澤正己君 只今議題トナリマシタ  
國民貯蓄組合法中改正法律案外六件ハ、十

兵役法中改正法律案

兵役法中左ノ通改正ス

第九條第二項及第二十三條第一項中「戸  
籍法」ノ下ニ又ハ朝鮮民事令中戸籍ニ關  
スル規定」ヲ加フ

第三十九條第一項第六號中「矯正院法」ノ  
下ニ「又ハ朝鮮矯正院令」ヲ加ヘ同項第五  
號ヲ左ノ如ク改ム

五 少年法ノ定ムル所ニ依リ少年教護  
院 矯正院若ハ病院ニ收容中ナルト  
トキ又ハ朝鮮少年令ノ定ムル所ニ  
依リ朝鮮總督府感化院・朝鮮總督  
府矯正院若ハ病院ニ收容中ナルト  
キ

第五十二條第一項ヲ左ノ如ク改ム  
戸籍法及朝鮮民事令中戸籍ニ關スル規  
定ノ適用ヲ受ケザル者ニシテ徵兵適齡  
ヲ過ギ戸籍法又ハ朝鮮民事令中戸籍ニ  
關スル規定ノ適用ヲ受クル者ノ家ニ入  
リタルモノニ對シテハ徵集ヲ免除ス

第五十三條ノ二左ニ掲タル者ノ徵集ニ  
關シテハ第二十六條、第二十七條又ハ  
第二十九條ノ規定ニ對シ勅令ヲ以テ別  
段ノ定ヲ爲スコトヲ得

一 戸籍法ノ適用ヲ受クル者ニシテ朝  
鮮、臺灣又ハ帝國外ノ地ニ在留スル  
モノ

二 朝鮮民事令中戸籍ニ關スル規定ノ  
適用ヲ受クル者

第六十九條第二項ヲ左ノ如ク改ム

前項ニ規定スル事務ノ監督ニ付テハ戸  
籍事務ノ監督ニ關スル規定ヲ準用ス

第七十二條 本法中市町村長ニ關スル規  
定ハ市町村長ニ准ズベキ者ニ之ヲ適用  
シタ次第アリマス、以上七件ノ法律案ニ  
付キマシテハ、何卒御審議ノ上速力ニ御協  
賛ヲ與ヘラレムコトヲ希望致シマス

○子爵戸澤正己君 只今議題トナリマシタ  
國民貯蓄組合法中改正法律案外六件ハ、十

本法ハ昭和十八年八月一日ヨリ之ヲ施行

スニ適用ス

附則

第九條第二項及第二十三條第一項ノ改正  
規定ハ本法施行ノ際徵兵適齡ヲ過ぎ居ル  
者及徵兵適齡ノ者ニシテ其ノ際現ニ朝鮮民  
事令中戸籍ニ關スル規定ノ適用ヲ受クル  
モノ又ハ本法施行後其ノ適用ヲ受クルニ  
至リタルモノ(第三條ノ規定ニ該當スル  
者ヲ除ク)ニ之ヲ適用セズ

前項ノ規定ニ該當スル者ニ付テハ第五十  
二條第一項ノ改正規定ニ拘ラズ仍從前ノ  
例ニ依ル

第五十二條第一項ヲ左ノ如ク改ム  
戸籍法及朝鮮民事令中戸籍ニ關スル規  
定ノ適用ヲ受ケザル者ニシテ徵兵適齡  
ヲ過ギ戸籍法又ハ朝鮮民事令中戸籍ニ  
關スル規定ノ適用ヲ受クル者ノ家ニ入  
リタルモノニ對シテハ徵集ヲ免除ス

第五十三條ノ二左ニ掲タル者ノ徵集ニ  
關シテハ第二十六條、第二十七條又ハ  
第二十九條ノ規定ニ對シ勅令ヲ以テ別  
段ノ定ヲ爲スコトヲ得

一 戸籍法ノ適用ヲ受クル者ニシテ朝  
鮮、臺灣又ハ帝國外ノ地ニ在留スル  
モノ

二 朝鮮民事令中戸籍ニ關スル規定ノ  
適用ヲ受クル者

第六十九條第二項ヲ左ノ如ク改ム

前項ニ規定スル事務ノ監督ニ付テハ戸  
籍事務ノ監督ニ關スル規定ヲ準用ス

第七十二條 本法中市町村長ニ關スル規  
定ハ市町村長ニ准ズベキ者ニ之ヲ適用  
シタ次第アリマス、以上七件ノ法律案ニ  
付キマシテハ、何卒御審議ノ上速力ニ御協  
賛ヲ與ヘラレムコトヲ希望致シマス

○子爵戸澤正己君 只今議題トナリマシタ  
國民貯蓄組合法中改正法律案外六件ハ、十

本法ハ昭和十八年八月一日ヨリ之ヲ施行  
スニ適用ス

附則

第九條第二項及第二十三條第一項ノ改正  
規定ハ本法施行ノ際徵兵適齡ヲ過ぎ居ル  
者及徵兵適齡ノ者ニシテ其ノ際現ニ朝鮮民  
事令中戸籍ニ關スル規定ノ適用ヲ受クル  
モノ又ハ本法施行後其ノ適用ヲ受クルニ  
至リタルモノ(第三條ノ規定ニ拘ラズ仍從前ノ  
例ニ依ル)

第五十二條第一項ヲ左ノ如ク改ム  
戸籍法及朝鮮民事令中戸籍ニ關スル規  
定ノ適用ヲ受ケザル者ニシテ徵兵適齡  
ヲ過ギ戸籍法又ハ朝鮮民事令中戸籍ニ  
關スル規定ノ適用ヲ受クル者ノ家ニ入  
リタルモノニ對シテハ徵集ヲ免除ス

第五十三條ノ二左ニ掲タル者ノ徵集ニ  
關シテハ第二十六條、第二十七條又ハ  
第二十九條ノ規定ニ對シ勅令ヲ以テ別  
段ノ定ヲ爲スコトヲ得

一 戸籍法ノ適用ヲ受クル者ニシテ朝  
鮮、臺灣又ハ帝國外ノ地ニ在留スル  
モノ

二 朝鮮民事令中戸籍ニ關スル規定ノ  
適用ヲ受クル者

第六十九條第二項ヲ左ノ如ク改ム

前項ニ規定スル事務ノ監督ニ付テハ戸  
籍事務ノ監督ニ關スル規定ヲ準用ス

第七十二條 本法中市町村長ニ關スル規  
定ハ市町村長ニ准ズベキ者ニ之ヲ適用  
シタ次第アリマス、以上七件ノ法律案ニ  
付キマシテハ、何卒御審議ノ上速力ニ御協  
賛ヲ與ヘラレムコトヲ希望致シマス

○子爵戸澤正己君 只今議題トナリマシタ  
國民貯蓄組合法中改正法律案外六件ハ、十

本法ハ昭和十八年八月一日ヨリ之ヲ施行

スニ適用ス

附則

第九條第二項及第二十三條第一項ノ改正  
規定ハ本法施行ノ際徵兵適齡ヲ過ぎ居ル  
者及徵兵適齡ノ者ニシテ其ノ際現ニ朝鮮民  
事令中戸籍ニ關スル規定ノ適用ヲ受クル  
モノ又ハ本法施行後其ノ適用ヲ受クルニ  
至リタルモノ(第三條ノ規定ニ拘ラズ仍從前ノ  
例ニ依ル)

第五十二條第一項ヲ左ノ如ク改ム  
戸籍法及朝鮮民事令中戸籍ニ關スル規  
定ノ適用ヲ受ケザル者ニシテ徵兵適齡  
ヲ過ギ戸籍法又ハ朝鮮民事令中戸籍ニ  
關スル規定ノ適用ヲ受クル者ノ家ニ入  
リタルモノニ對シテハ徵集ヲ免除ス

第五十三條ノ二左ニ掲タル者ノ徵集ニ  
關シテハ第二十六條、第二十七條又ハ  
第二十九條ノ規定ニ對シ勅令ヲ以テ別  
段ノ定ヲ爲スコトヲ得

一 戸籍法ノ適用ヲ受クル者ニシテ朝  
鮮、臺灣又ハ帝國外ノ地ニ在留スル  
モノ

二 朝鮮民事令中戸籍ニ關スル規定ノ  
適用ヲ受クル者

第六十九條第二項ヲ左ノ如ク改ム

前項ニ規定スル事務ノ監督ニ付テハ戸  
籍事務ノ監督ニ關スル規定ヲ準用ス

第七十二條 本法中市町村長ニ關スル規  
定ハ市町村長ニ准ズベキ者ニ之ヲ適用  
シタ次第アリマス、以上七件ノ法律案ニ  
付キマシテハ、何卒御審議ノ上速力ニ御協  
賛ヲ與ヘラレムコトヲ希望致シマス

○子爵戸澤正己君 只今議題トナリマシタ  
國民貯蓄組合法中改正法律案外六件ハ、十

本法ハ昭和十八年八月一日ヨリ之ヲ施行

スニ適用ス

附則

第九條第二項及第二十三條第一項ノ改正  
規定ハ本法施行ノ際徵兵適齡ヲ過ぎ居ル  
者及徵兵適齡ノ者ニシテ其ノ際現ニ朝鮮民  
事令中戸籍ニ關スル規定ノ適用ヲ受クル  
モノ又ハ本法施行後其ノ適用ヲ受クルニ  
至リタルモノ(第三條ノ規定ニ拘ラズ仍從前ノ  
例ニ依ル)

第五十二條第一項ヲ左ノ如ク改ム  
戸籍法及朝鮮民事令中戸籍ニ關スル規  
定ノ適用ヲ受ケザル者ニシテ徵兵適齡  
ヲ過ギ戸籍法又ハ朝鮮民事令中戸籍ニ  
關スル規定ノ適用ヲ受クル者ノ家ニ入  
リタルモノニ對シテハ徵集ヲ免除ス

第五十三條ノ二左ニ掲タル者ノ徵集ニ  
關シテハ第二十六條、第二十七條又ハ  
第二十九條ノ規定ニ對シ勅令ヲ以テ別  
段ノ定ヲ爲スコトヲ得

一 戸籍法ノ適用ヲ受クル者ニシテ朝  
鮮、臺灣又ハ帝國外ノ地ニ在留スル  
モノ

二 朝鮮民事令中戸籍ニ關スル規定ノ  
適用ヲ受クル者

第六十九條第二項ヲ左ノ如ク改ム

前項ニ規定スル事務ノ監督ニ付テハ戸  
籍事務ノ監督ニ關スル規定ヲ準用ス

第七十二條 本法中市町村長ニ關スル規  
定ハ市町村長ニ准ズベキ者ニ之ヲ適用  
シタ次第アリマス、以上七件ノ法律案ニ  
付キマシテハ、何卒御審議ノ上速力ニ御協  
賛ヲ與ヘラレムコトヲ希望致シマス

○子爵戸澤正己君 只今議題トナリマシタ  
國民貯蓄組合法中改正法律案外六件ハ、十

本法ハ昭和十八年八月一日ヨリ之ヲ施行

スニ適用ス

附則

第九條第二項及第二十三條第一項ノ改正  
規定ハ本法施行ノ際徵兵適齡ヲ過ぎ居ル  
者及徵兵適齡ノ者ニシテ其ノ際現ニ朝鮮民  
事令中戸籍ニ關スル規定ノ適用ヲ受クル  
モノ又ハ本法施行後其ノ適用ヲ受クルニ  
至リタルモノ(第三條ノ規定ニ拘ラズ仍從前ノ  
例ニ依ル)

第五十二條第一項ヲ左ノ如ク改ム  
戸籍法及朝鮮民事令中戸籍ニ關スル規  
定ノ適用ヲ受ケザル者ニシテ徵兵適齡  
ヲ過ギ戸籍法又ハ朝鮮民事令中戸籍ニ  
關スル規定ノ適用ヲ受クル者ノ家ニ入  
リタルモノニ對シテハ徵集ヲ免除ス

第五十三條ノ二左ニ掲タル者ノ徵集ニ  
關シテハ第二十六條、第二十七條又ハ  
第二十九條ノ規定ニ對シ勅令ヲ以テ別  
段ノ定ヲ爲スコトヲ得

一 戸籍法ノ適用ヲ受クル者ニシテ朝  
鮮、臺灣又ハ帝國外ノ地ニ在留スル  
モノ

二 朝鮮民事令中戸籍ニ關スル規定ノ  
適用ヲ受クル者

第六十九條第二項ヲ左ノ如ク改ム

前項ニ規定スル事務ノ監督ニ付テハ戸  
籍事務ノ監督ニ關スル規定ヲ準用ス

第七十二條 本法中市町村長ニ關スル規  
定ハ市町村長ニ准ズベキ者ニ之ヲ適用  
シタ次第アリマス、以上七件ノ法律案ニ  
付キマシテハ、何卒御審議ノ上速力ニ御協  
賛ヲ與ヘラレムコトヲ希望致シマス

○子爵戸澤正己君 只今議題トナリマシタ  
國民貯蓄組合法中改正法律案外六件ハ、十

備考  
附則第一項ノ法律番號ハ兵役法中改正

法律ノ公布番號記入ノコト  
明治三十八年法律第三十八號改正法律

案

勅旨ヲ奉ジ帝國議會ニ提出ス  
昭和十八年一月十八日

陸軍軍法會議法及海軍軍法會議法中改正法律案

内閣總理大臣兼  
陸軍大臣 島田繁太郎

明治三十八年法律第三十八號改正法律  
案

俘虜處罰法

第一條 本法ハ俘虜ニシテ罪ヲ犯シタルモノニ之ヲ適用ス

第二條 多衆聚合シテ暴行又ハ脅迫ヲ爲シタル者ハ首魁ハ

若ハ禁錮ニ處シ其ノ他ノ者ハ無期又ハ

一年以上ノ徵役又ハ禁錮ニ處ス

前項ノ罪ヲ犯ス目的ヲ以テ其ノ豫備又

ハ陰謀ヲ爲シタル者ハ一年以上ノ有期

ノ徵役又ハ禁錮ニ處ス

第三條 俘虜ヲ監督シ、看守シ又ハ護送

スル者ヲ殺シタル者ハ死刑ニ處ス

前項ノ罪ヲ犯ス目的ヲ以テ其ノ豫備又

ハ通謀ヲ爲シタル者ハ二年以上ノ有期

ノ徵役又ハ禁錮ニ處ス

第四條 俘虜ヲ監督シ、看守シ又ハ護送

スル者ヲ傷害シ又ハ之ニ對シ暴行若ハ

脅迫ヲ爲シタル者ハ死刑又ハ無期若ハ

二年以上ノ徵役若ハ禁錮ニ處ス

黨與シテ前項ノ罪ヲ犯シタル者ハ首魁

ハ死刑又ハ無期ノ徵役若ハ禁錮ニ處シ

前二項ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ死ニ致シタ

ル者ハ死刑ニ處ス

第五條 俘虜ヲ監督シ、看守シ又ハ護送

スル者ノ命令ニ反抗シ又ハ之ニ服從セ

ザル者ハ死刑又ハ無期若ハ一年以上ノ

徵役若ハ禁錮ニ處ス

黨與シテ前項ノ罪ヲ犯シタル者ハ首魁

ハ死刑又ハ無期ノ徵役若ハ禁錮ニ處シ

其ノ他ノ者ハ死刑又ハ無期若ハ二年以

上ノ徵役若ハ禁錮ニ處ス

第六條 俘虜ヲ監督シ、看守シ又ハ護送

スル者ヲ其ノ面前ニ於テ又ハ公然ノ方

法ヲ以テ侮辱シタル者ハ五年以下ノ徵

役又ハ禁錮ニ處ス

第七條 黨與シテ逃走シタル者ハ首魁ハ

死刑又ハ無期若ハ十年以上ノ徵役若ハ

禁錮ニ處シ其ノ他ノ者ハ無期又ハ

以上ノ徵役又ハ禁錮ニ處ス

第八條 第二條第一項、第三條第一項、

第四條第一項及第二項並ニ前條ノ未遂

罪ハ之ヲ罰ス

第九條 宣誓解放ヲ受ケタル者其ノ宣誓

ニ背キタルトキハ死刑又ハ無期若ハ七

年以上ノ徵役若ハ禁錮ニ處ス

前項ノ者兵器ヲ執リ抗敵シタルトキハ

死刑ニ處ス

第十條 逃走セザル旨ノ宣誓ヲ爲シニニ

背キタル者ハ一年以上ノ有期ノ徵役又

ハ禁錮ニ處シ其ノ他ノ宣誓ニ背キタル

者ハ十年以下ノ徵役又ハ禁錮ニ處ス

第十一條 不從順ノ行爲ヲ目的トシテ黨

ヲ結ビタル者ハ首魁ハ一年以上十年以

下ノ徵役又ハ禁錮ニ處シ其ノ他ノ者ハ

六月以上五年以下ノ徵役又ハ禁錮ニ處

ス

第十二條 第七條ノ規定ハ再び俘虜ト爲

リタル者ノ前ニ俘虜タリシトキ犯シタ

ル罪ニ之ヲ適用セズ

本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

參照

明治三十八年法律第三十八號ハ俘虜處罰ニ關スル法律ナリ

陸軍軍法會議法及海軍軍法會議法中改正法律案

内閣總理大臣兼  
陸軍大臣 島田繁太郎

明治三十八年法律第三十八號改正法律  
案

陸軍軍法會議法中左ノ通改正ス

正法律案

陸軍軍法會議法中左ノ但書ヲ加フ

但シ勅令ノ定ムル所ニ依リ之ヲ奏任

ト爲スコトヲ得

第一條 陸軍軍法會議法中左ノ通改正ス

第四十二條ニ左ノ但書ヲ加フ

但シ勅令ノ定ムル所ニ依リ之ヲ奏任

ト爲スコトヲ得

第二條 海軍軍法會議法中左ノ通改正ス

第四十二條ニ左ノ但書ヲ加フ

但シ勅令ノ定ムル所ニ依リ之ヲ奏任

ト爲スコトヲ得

第三條 本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

附則

(政府委員木村兵太郎君演壇ニ登ル)

○政府委員木村兵太郎君

只今議題ニ相

成リマシタ兵役法及共通法中改正法律案ノ

提出理由ニ付申述べタイト存ジマス、今次

ノ改正ハ、朝鮮同胞ノ服役ニ關聯スル事項

デアリマス、即チ昭和十九年ヨリ朝鮮同胞

ヲ徵集シマシテ、今後長期ニ瓦ルベキ大東

亞戰爭ノ完遂ト、將來國防ノ完璧トヲ期シ

マスルト共ニ、皇民教育ノ徹底ト、時局認

識ノ昂揚トニ依リマシテ、近年頓ニ昂揚セ

セントスルモノデアリマス、朝鮮同胞ニ對

シマシテハ、既ニ昭和十三年以來特別志願

兵トナルノ途ヲ拓カレテアルノデアリマス  
ルガ、之ガ實績ニ徵シマシテモ、徵兵制施

行ノ成績期シテ待ツベキモノガアルト確信  
致シテ居リマス、尙朝鮮ニ徵兵制ヲ施行セ  
ラル、ニ伴ヒマシテ、從來内地人ハ兵役ニ  
服スルノ義務ナキニ至タ後デナケラネバ

朝鮮人ノ家ニ入ルコトガ出来ナカッタノデ  
アリマスガ、今後ハ内地人及朝鮮人相互間  
ニハ、斯クノ如キ制限ヲ必要ト致サナクナ

リマシタノデ、之ニ關スル共通法中改正ヲ  
致シタイト存ズルノデアリマス、本法律案

申上ゲマス、現行俘虜處罰ニ關スル法律ハ、  
日露戰役中明治三十八年二月、當時ノ露國

ニ關スル件改正法律案提出ノ理由ヲ御説明

提出ノ理由ハ概要以上ノ通りデアリマス、  
ヨリ制定セラレタモノガアリマス、現行刑

法制定前ノ舊刑罰體系ニ係リ、其ノ罰目、刑

名、刑期等、規定ノ全般ニ於キマシテ整備

ヲ要スルモノガアリ、一方大東亞戰爭開始

以來、帝國が獲得セル俘虜ハ約三十萬ノ多

キヲ算シ、而モ其ノ民族、國籍、素質等ニ於

テ各異ナルモノガアリマスル上ニ、之ガ取

締ニ當ル人員ハ必要ノ最小限ト致シテ居ル

關係上、俘虜ノ管理取締ハ從前ニ比シマス

ト著シク複雜煩多トナツテ居ルノデアリマ

ス、此ノ間ニ處シ、俘虜ヲ安全且靜謐ニ收容

シテ、帝國が獲得セル俘虜ハ約三十萬ノ多

キヲ算シ、而モ其ノ民族、國籍、素質等ニ於

テ各異ナルモノガアリマスル上ニ、之ガ取

締ニ當ル人員ハ必要ノ最小限ト致シテ居ル

關係上、俘虜ノ管理取締ハ從前ニ比シマス

ト著シク複雜煩多トナツテ居ルノデアリマ

ス、此ノ間ニ處シ、俘虜ヲ安全且靜謐ニ收容

シテ、帝國が獲得セル俘虜ハ約三十萬ノ多

キヲ算シ、而モ其ノ民族、國籍、素質等ニ於

テ各異ナルモノガアリマスル上ニ、之ガ取

締ニ當ル人員ハ必要ノ最小限ト致シテ居ル

關係上、俘虜ノ管理取締ハ從前ニ比シマス

ト著シク複雜煩多トナツテ居ルノデアリマ

ス、此ノ間ニ處シ、俘虜ヲ安全且靜謐ニ收容

シテ、帝國が獲得セル俘虜ハ約三十萬ノ多

キヲ算シ、而モ其ノ民族、國籍、素質等ニ於

テ各異ナルモノガアリマスル上ニ、之ガ取

締ニ當ル人員ハ必要ノ最小限ト致シテ居ル

等ニ對スル殺傷、脅迫及ビ侮辱、竝ニ不從順ノ行爲ヲ目的トスル結黨ノ各所爲ヲ罰スル規定ヲ設ケタルコトノ一點ニ歸スルノデアリマス、以上ガ本法律案提出ノ理由及ビ内容ノ要旨ニアリマス、何卒御審議ノ上速カニ御協賛アラムコトヲ希望致シマス

○議長(伯爵松平頼壽君) 嶋田海軍大臣(國務大臣嶋田繁太郎君演壇ニ登る)

○國務大臣(嶋田繁太郎君) 只今議題トナリマシタ陸軍法會議法及海軍軍法會議法中改正法律案提出ノ理由ヲ御説明申上ダマス、政府ニ於キマシテハ、夙ニ各廳勤務職員ノ優遇ニ付キマシテ考究中デアリマスルガ、其ノ中、判任官ニ付キマシテモ、重要ノ職務ニ當リ事務練熟優等ナ者ハ、特ニ之ヲ奏任官トナシ得ルコトニ致シタイ考ヲ任官タルコトハ、陸軍軍法會議法及海軍軍法會議法ニソレド<sup>ク</sup>規定セラレテ居リマス

關係上、今回右法律ノ關係條項ヲ改正致シマシテ、錄事ニ對シマシテモ、一般官吏優遇ノ趣旨ニ均霑セシメタイト考ヘル次第デアリマス、以上ガ本法律案ヲ提出スル所以デアリマス、何卒御審議ノ上速カニ御協賛アラムコトヲ希望致シマス

○子爵戸澤正己君 只今日程ニ上リマシタ兵役法中改正法律案外三件ノ特別委員ヲ二名トシ、其ノ委員ノ指名ヲ議長ニ一任スルノ動議ヲ提出致シマス

○議長(伯爵松平頼壽君) 賛成

○子爵秋田重季君 戸澤子爵ノ動議ニ御異議ゴザイマセスカ

(小野寺書記官朗讀)

兵役法中改正法律案外三件特別委員

侯爵西郷 従徳君 伯爵松木 宗隆君

子爵伊東二郎丸君 子爵松平 保男君

織田 萬君 男爵千田 嘉平君  
坂西利八郎君 柴田善三郎君  
男爵柴山 昌生君 遠藤柳作君  
出光 佐三君 岩元 達一君

○議長(伯爵松平頼壽君) 日程第十二、在滿日本人ノ身分ニ關スル滿洲國裁判ノ效力ニ關スル法律案、日程第十三、戰時刑事特別法中改正法律案、政府提出、第一回讀會、是等ノ二案ヲ一括シテ議題ト爲スコトニ御異議ゴザイマセスカ

〔異議ナシト呼フ者アリ〕

○議長(伯爵松平頼壽君) 御異議ナイト認メス、岩村司法大臣

勅旨ヲ奉ジ帝國議會ニ提出ス

昭和十八年一月十八日

右

在滿日本人ノ身分ニ關スル滿洲國裁判ノ效力ニ關スル法律案

内閣總理大臣 東條 英機  
司法大臣 岩村 通世  
大東亞大臣 青木 一男

第七條ノ三 戰時ニ際シ國政ヲ變亂スルトシテ人ニ對シ暴行又ハ脅迫ヲ加ヘタル者ハ十年以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス

刑法第二百八條第二項ノ規定ハ前項ノ暴行ノ罪ニ付テハ之ヲ適用セズ

第七條ノ四 戰時ニ際シ國政ヲ變亂シ其ノ他安寧秩序ヲ紊亂スルコトヲ目的トシテ著シク治安ヲ害スペキ事項ヲ宣傳シタル者ノ罰亦前條ニ同シ

第七條ノ五 第七條第三項乃至第五項又ハ前二條ノ罪ヲ犯シタル者自首シタルトキハ其ノ刑ヲ減輕又ハ免除ス

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

(國務大臣岩村通世君演壇ニ登る)

○國務大臣(岩村通世君) 只今上程ニ相成リマシタ在滿日本人ノ身分ニ關スル滿洲國裁判ノ效力ニ關スル法律案外一件ニ付キマシテ、提案ノ理由ヲ御説明申上ダマス、御承知ノ通り滿洲國ニ居住致シマスル日本内地人ノ數ハ逐年増加ノ一途ヲ辿リ殊ニ最近ニ於キマシテハ開拓民其ノ他、一家一族ヲ擧げテ渡満永住スル者ガ多キヲ加ヘツ、アルノデアリマス、是等ノ在滿内地人ガ、隣居廢

戰時刑事特別法中改正法律案

第七條第六項ヲ削ル

第七條ノ二 戰時ニ際シ國政ヲ變亂スルコトヲ目的トシテ人ヲ傷害シ、逮捕シ又ハ監禁シタル者ハ一年以上ノ有期ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス因テ人ヲ死ニ致シタル者ハ死刑又ハ無期若ハ十年以上ノ懲役若ハ禁錮ニ處ス

戰時ニ際シ國政ヲ變亂スルコトヲ目的トシテ人ニ對シ暴行又ハ脅迫ヲ加ヘタル者ハ十年以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス

第七條ノ三 戰時ニ際シ國政ヲ變亂スルコトヲ目的トシテ騒擾ノ罪其ノ他治安ヲ害スペキ事項ヲ實行ニ關シ協議ヲ爲シ又ハ其ノ實行ヲ煽動シタル者ハ七年以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス

第七條ノ四 戰時ニ際シ國政ヲ變亂シ其ノ他安寧秩序ヲ紊亂スルコトヲ目的トシテ著シク治安ヲ害スペキ事項ヲ宣傳シタル者ノ罰亦前條ニ同シ

第七條ノ五 第七條第三項乃至第五項又ハ前二條ノ罪ヲ犯シタル者自首シタルトキハ其ノ刑ヲ減輕又ハ免除ス

附則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

(國務大臣岩村通世君演壇ニ登る)

○國務大臣(岩村通世君) 只今上程ニ相成リマシタ在滿日本人ノ身分ニ關スル滿洲國裁判ノ效力ニ關スル法律案外一件ニ付キマシテ、提案ノ理由ヲ御説明申上ダマス、御承知ノ通り滿洲國ニ居住致シマスル日本内地人ノ數ハ逐年増加ノ一途ヲ辿リ殊ニ最近ニ於キマシテハ開拓民其ノ他、一家一族ヲ擧げテ渡満永住スル者ガ多キヲ加ヘツ、アルノデアリマス、是等ノ在滿内地人ガ、隣居廢家、親族會相續又ハ遺言ニ付爲シタル裁判又ハ處分ハ非訟事件手續法ニ相當スル規定アル場合ニ限り裁判所ガ同法ニ依リテ爲シタルモノト同一ノ效力ヲ有ス

右 戰時刑事特別法中改正法律案

勅旨ヲ奉ジ帝國議會ニ提出ス

昭和十八年一月十八日

内閣總理大臣 東條 英機  
司法大臣 岩村 通世

亂ヲ目的トスル殺人ノ罪ノ處罰ニ付キマシテハ、既ニ戰時刑事特別法中ニ必要ナル規定ガ設ケラレテ居ルノアリマスルガ、新ニ國政變亂ノ目的ヲ以テ人ノ身體又ハ自由ニ害ヲ加フル罪ニ付特別ノ規定ヲ設クルト共ニ、同一ノ目的ニ出デタル治安ヲ害スベキ事項ヲ宣傳シタル所爲ヲモ處罰スルコト致シ、以テ現行刑罰法規ヲ整備擴充シテ、戰時下治安ノ確保ニ遺憾ナキヲ期シタ次第アリマス、尙本案ニ於キマシテハ、  
曩ニ當院ニ於テ御要望ノアリマシタ趣旨ハ十分ニ實致シマシテ、之ヲ採り入レテアル積リデゴザイマス、何卒此ノ點モ御諒承ヲ願ヒタイト存ジマス、何卒慎重御審議ノ上何レモ協賛ヲ與ヘラレムコトヲ切望致シマス

○子爵戸澤正己君 只今上程セラレマシタ在満日本人ノ身分ニ關スル滿洲國裁判ノ效力ニ關スル法律案外一件ノ特別委員ノ數ヲ十五名トシ、其ノ委員ノ指名ヲ議長ニ一任スルノ動議ヲ提出致シマス

○子爵秋田重季君 賛成

○議長(伯爵松平賴壽君) 戸澤子爵ノ動議ニ御異議ゴザイマセヌカ

(「異議ナシ」ト呼フ者アリ)

○議長(伯爵松平賴壽君) 御異議ナイト認メマス、特别委員ノ氏名ヲ朗讀致サセマス

(高山書記官朗讀)

在満日本人ノ身分ニ關スル滿洲國裁判ノ效力ニ關スル法律案外一件特別委員

公爵岩倉具榮君 侯爵小村捷治君

伯爵柳澤義光君 子爵秋月種英君

子爵舟橋清賢君 小山松吉君

小原直君 男爵井田磐補君

内田重成君 男爵周布兼道君

黒崎定三君 男爵村田保定君

○議長(伯爵松平賴壽君) 日程第十四、飼料配給統制法中改正法律案 日程第十五、飼料配給統制法中改正法律案 日程第十六、硫酸アンモニア増産及配給統制法中改正法律案

昭和四年法律第九號中改正法律案 日程第十三案ヲ括シテ議題ト爲スコトニ御異議ハゴザイマセヌカ

〔異議ナシ」ト呼フ者アリ〕

右 勅旨ヲ奉ジ帝國議會ニ提出ス

○議長(伯爵松平賴壽君) 御異議ナイト認メマス、井野農林大臣

昭和十八年一月十八日 勅旨ヲ奉ジ帝國議會ニ提出ス

右 勅旨ヲ奉ジ帝國議會ニ提出ス

昭和十八年一月十八日 勅旨ヲ奉ジ帝國議會ニ提出ス

○國務大臣(井野碩哉君) 只今上程ニ相成  
〔國務大臣井野碩哉君演壇ニ登ル〕

第一條第一項中「本法施行後五年以内」ヲ  
第四條中「本法施行ノ日ヨリ五年間」ヲ  
「本法施行ノ日ヨリ十年間」ニ改ム

本法ハ大東亞戰爭終了後一年内ニ之ヲ  
廢止スルモノトス

附則 第三項ヲ削ル

昭和四年法律第九號中改正法律案

右 勅旨ヲ奉ジ帝國議會ニ提出ス

昭和十八年一月十八日 勅旨ヲ奉ジ帝國議會ニ提出ス

昭和四年法律第九號中改正法律案外二件ニ付キマシテ、提案ノ理由ヲ御説明致シマス、先づ飼料配給統制法中改正法律案ニ付御説明ヲ致シマス、飼料配給統制法ハ、事業ヲ行ハシムルコトヲ目的トスルモノデ、政府ノ適當ト認ムル者ヲシテ、飼料ノ買入、賣渡、其ノ他飼料ノ配給統制上、必要ナル事項ヲ行ハシムルコトヲ目的トスルモノデ、農林大臣井野碩哉君

昭和四年法律第九號中改正法律案外二件ニ付キマシテ、昭和十三年第七十三回帝國議會ノ協賛ヲ經マシテ、同年十月施行セラレタルモノデアリマスルガ、其ノ施行期間ニ付キマシテハ、當時ノ情勢ニ即應致シ、一應

五箇年ト定メラレタノデアリマス、從ヒマシテ本法ハ、昭和十八年十月ヲ以テ期間満了スルノデアリマスルガ、大東亞戰爭終了後迄之ヲ延長スルコトト致シタ伊存ズルノデアリマス、次ニ昭和四年法律第九號中改正法律案ニ付キマシテ、御説明ヲ申上ゲマス、現在馬ノ傳染性貧血ニ罹リタル馬ヲ殺處分致シマシタル場合ニハ、昭和四年法律第九號第二條ニ依リ、殺ス時ノ馬ノ評價額ト、其ノ屍體ノ評價額トノ差額ノ三分ノ一ニ相當スル手當金ヲ交付スルコトトナツテ居リマスルガ、之ヲ二分ノ一ニ引上ゲムトスルモノデアリマス、近時本病ハ多發ノ傾向ニアリマシテ、軍事並ニ産業上ニ及ス影響少ナカラヌモノガアリマスノデ、之ガ防遏ノ徹底ヲ期シマスコトハ、現時局下ニ於キマシテ誠ニ肝要デアリマス、然ルニ現在殺處分セラレルノ馬ノ大多數ハ、尙相當ノ能力ヲ有シ、比較的高度ノ經濟的價値ヲ有シテ居リマスノデ、殺處分ハ馬所有者ニ取り苦痛トスル所デアリマシテ、延イテハ法律ノ嚴正ナル施行ニ支障ヲ來シ、本病防遏ノ不徹底ヲ招來スルニ至ル虞ガアリマスガ故ニ、殺手當金交付率ヲ二分ノ一ニ引上ゲ、本病防遏ノ徹底ヲ圖ラムトスルモノデアリマス、次ニ硫酸アンモニア増産及配給統制法中改正法律案ニ付テ御説明ヲ致シマス、硫酸アンモニア増産及配給統制法ハ、昭和十三年法律第七十號ヲ以テ、實施ニ相成タノデアリマスルガ、同法ハ、我ガ國肥料ノ大宗タル硫酸アンモニアノ供給ヲ確保シ、農業生産ノ確保ト、銑後農村經濟ノ安定ニ資スルト共ニ、軍需工業トシテノ硫酸アンモニア製造業ノ確立ヲ圖ル目的ヲ以チマシテ、同法施行後五年以内ニ、硫酸アン

モニア製造設備ノ新設又ハ増設ヲ爲シタル者ニ對シ、一定年間、諸稅ノ免除、及ビ器具機械ノ輸入稅ノ免除、其ノ他諸般ノ保護特典ヲ與フルト共ニ、必要ニ應ジ、硫酸アンモニアノ製造業者及ビ日本肥料株式會社ニ對シ、增產ノ命令ヲ爲スコトトシ、以テ硫酸アンモニアノ生産力ノ擴充ヲ圖ルコト致シタノデアリマス、同法施行以來、硫酸ノ製造設備ノ新設モ進捗中デアリマスルガ、硫酸アンモニア製造設備ノ擴充ヲ圖リマスコトハ、大東亞戰爭下、農業生產確保上愈、緊要ト相成リマシタノデ、從來同法施行五年以内ニ硫酸アンモニア製造設備ヲ新設又ハ増設致サネバ、諸稅ノ免除等、本法ノ特典ヲ受ケルコトガ出來ナイコトト相成ツテ居リマシタノフ、更ニ其ノ期間ヲ五年延長シ、本法施行後十年以内ニ硫酸アンモニア製造設備ノ新設又ハ増設ヲ爲ス者ニ對シ、從來通り諸般ノ特典ヲ與フルコト致シタノデアリマス、何卒御審議ノ上速行

○議長(伯爵松平頼壽君) 日程第十七、商工經濟會法案、日程第十八、商工組合法案、日程第十九、商工組合中央金庫法中改正法律案、政府提出、第一讀會、是等ノ三案ヲ一括シテ議題ト爲スコトニ御異議ハゴザイマセスカ  
 ○〔異議ナシ〕ト呼フ者アリ  
 ○議長(伯爵松平頼壽君) 御異議ナイト認メマス、岸商工大臣  
 勅旨ヲ奉ジ帝國議會ニ提出ス  
 昭和十八年一月十八日  
 内閣總理大臣 東條英機  
 大藏大臣 賀屋興宣  
 商工大臣 岸信介  
 内務大臣 湯澤三千男  
 商工經濟會法案  
 第一條 商工經濟會ハ國民經濟ノ總力ヲ最モ有效ニ發揮セシムル爲國策ニ協力シ、產業經濟ノ圓滑ナル連絡ヲ圖ルト共ニ其ノ改善向上ニ努ムルコトヲ目的トス  
 ○子爵秋田重季君 贊成  
 ○議長(伯爵松平頼壽君) 戸澤子爵ノ動議ニ御異議ハゴザイマセスカ  
 〔「異議ナシ」ト呼フ者アリ〕  
 ○議長(伯爵松平頼壽君) 御異議ナイト認メマス、特別委員ノ氏名ヲ朗讀致サセマス  
 ○小野寺書記官朗讀  
 飼料配給統制法中改正法律案外二件特別委員  
 侯爵徳川 賴貞君 伯爵後藤 一藏君  
 子爵三島 通陽君 子爵本多 忠晃君  
 安井 英二君 男爵稻田 昌植君  
 男爵岩村 一木君 赤池 濃君

第三條 商工經濟會ノ地區ハ道府縣ノ區域ニ依ル  
 本法ニ於テ産業經濟トハ第五條第一號ニ掲タル事業ニ關スル産業經濟ヲ謂フ  
 第二條 商工經濟會ハ法人トス  
 第三條 商工經濟會ノ地區ハ道府縣ノ區域ニ依ル  
 本法ニ於テ産業經濟トハ第五條第一號ニ掲タル事業ニ關スル産業經濟ヲ謂フ  
 第四條 商工經濟會ハ其ノ目的ヲ達スル爲左ニ掲タル事業ヲ行フ  
 第七條 商工經濟會ノ定款ニハ左ニ掲グ  
 一、當該地區ニ於ケル産業經濟ニ關スル事項ヲ記載スベシ  
 二、當該地區ニ於ケル産業經濟ノ運営又ハ整備ニ關スル連絡

三、當該地區内ニ於ケル產業經濟ノ改善向上ニ關スル施設  
 四、產業經濟ニ關スル調查及研究  
 五、前各號ニ掲タルモノノ外商工經濟會ノ目的ヲ達スルニ必要ナル事業  
 六、役員ニ關スル規定  
 七、會議ニ關スル規定  
 八、會計ニ關スル規定  
 九、支部ニ關スル規定  
 第五條 商工經濟會ノ會員タル資格ヲ有スル者ハ左ニ掲タル者ニシテ地方長官ノ指定スルモノトス  
 一、當該地區内ニ營業所、工場又ハ事業場ヲ有シ商業、交易業、工業、礦業、金融業、電氣事業、交通運輸業又ハ土木建築業ヲ營ム者  
 二、前號ニ掲タル事業ヲ營ム者ヲ以テ組織スル團體ニシテ當該地區内ニ事務所ヲ有スルモノ  
 三、前號ニ掲タル團體ノ外當該地區内ニ事務所ヲ有スル産業經濟ニ關スル團體  
 第六條 主務大臣ハ命令ノ定ムル所ニ依リ前條ノ規定ニ依リ會員タル資格ヲ有スル者ニ對シ商工經濟會ノ設立ヲ命ズベシ  
 前項ノ規定ニ依ル設立ノ命令アリタルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ創立總會ト開キ定款ノ他商工經濟會ノ設立ニ必要ナル事項ヲ定メ主務大臣ノ認可ヲ受クベシ  
 第一項ノ規定ニ依リ設立ヲ命ゼラレタル者主務大臣ノ指定スル期限迄ニ設立ノ認可ヲ申請セザルトキハ主務大臣ハ定款ノ作成ノ他設立ニ關シ必要ナル處

第十二條 商工經濟會ハ左ノ役員ヲ置クベシ  
 一人 會頭 理事 若干人  
 一人 監事 若干人  
 一人 評議員 若干人  
 商工經濟會ニハ前項ノ役員ノ外定款ノ定ムル所ニ依リ副會頭二人以内又ハ理事長一人ヲ置クコトヲ得  
 第十三條 會頭ハ商工經濟會ヲ代表シ會務ヲ總理ス  
 副會頭ハ會頭ヲ輔佐シ豫め會頭ノ定ムル順位ニ依リ會頭事故アルトキハ其ノ職務ヲ代理シ會頭缺員ノトキハ其ノ職務ヲ行フ  
 理事長ハ會頭及副會頭ヲ輔佐シ會務ヲ掌理シ會頭及副會頭共ニ事故アルトキ

ハ會頭ノ職務ヲ代理シ會頭及副會頭共ニ缺員ノトキハ會頭ノ職務ヲ行フ  
理事ハ會頭、副會頭及理事長ヲ輔佐シ  
會務ヲ分掌シ豫メ會頭ノ定ムル順位ニ依リ會頭、副會頭及理事長共ニ事故ア  
ルトキハ會頭ノ職務ヲ代理シ會頭、副會頭及理事長共ニ缺員ノトキハ會頭ノ職務ヲ行フ  
監事ハ商工經濟會ノ業務及財產ノ狀況ヲ監査ス  
評議員ハ會頭ノ諮詢ニ對シ答申シ又ハ  
會頭ニ對シ意見ヲ具申ス

第十四條 會頭ハ會頭銓衡委員ノ推薦シタル者ノ中ヨリ地方長官ノ意見ヲ徵シ  
主務大臣之ヲ命ズ

前項ノ會頭銓衡委員ハ當該商工經濟會ノ地區内ニ於ケル產業經濟ニ關シ經驗アル者及學識アル者ノ中ヨリ地方長官之ヲ命ズ

副會頭、理事長及理事ハ當該商工經濟會ノ地區内ニ於ケル產業經濟ニ關シ經驗アル者及學識アル者ノ中ヨリ地方長官ノ承認ヲ受ケ會頭之ヲ命ズ

監事ハ命令ノ定ムル所ニ依リ評議員之ヲ選任ス

評議員ハ評議員銓衡委員ノ推薦シタル者ノ中ヨリ會頭之ヲ命ズ

前項ノ評議員銓衡委員ハ會員及會員タ

ル法人ノ業務ヲ執行スル役員ノ中ヨリ

地方長官ノ承認ヲ受ケ會頭之ヲ命ズ

第十五條 商工經濟會ノ役員ノ任期ハ左

ノ通トス 會頭 三年 副會頭 三年 理事 三年 監事 二年 評議員 二年

会頭必要アリト認ムルトキハ任期中ト

雖モ地方長官ノ承認ヲ受ケ副會頭、理事長又ハ理事ヲ解任スルコトヲ得

第十六條 商工經濟會ニ總會ヲ置ク

通常總會ハ毎年一回會頭之ヲ招集ス

會頭必要アリト認ムルトキハ何時ニテモ臨時總會ヲ招集スルコトヲ得

第十七條 左ニ掲タル事項ハ總會ノ議決ヲ經ベシ

一 定款ノ變更

二 收支豫算

三 第二十四條ノ規定ニ依ル賦課金ノ賦課徵收方法

四 其ノ他命令ヲ以て定ムル事項

第十八條 會員ハ總會ニ於テ各一個ノ議

決權ヲ有ス但シ第五條第二號ノ會員ニ付テハ定款ノ定ムル所ニ依リ一人ニ付

十個ヲ超エザル範圍内ニ於テ二個以上ノ議決權ヲ有セシムルコトヲ得

第十九條 總會ノ議長ハ會頭ヲ以テ之ニ充ツ

所ニ依リ定款ニ違反シタル會員ニ對シ過怠金ヲ課スルコトヲ得

第二十條 總會ハ會員三分ノ一以上出席スルニ非ザレバ之ヲ開クコトヲ得ズ

總會ノ議決ハ出席者ノ議決權ノ過半數ニ依リ可否同數ナルトキハ議長之ヲ決

定款ノ變更ノ議決ハ會員ノ半數以上出席シ出席者ノ議決權ノ三分ノ二以上ヲ以テ之ヲ爲ス

會員ハ代理人ヲ以テ議決權ヲ行フコトヲ得此ノ場合ニ於テハ之ヲ出席ト看做

前項ノ代理人ノ資格其ノ他代理人ニ關スル事項ハ定款ヲ以テ之ヲ定ムルコトヲ得

第二十一條 商工經濟會ハ定款ノ定ムルコトヲ得

前項ノ規定ニ依ル徵收金ノ先取特權ノ順位ハ市町村其ノ他ニ準ズベキモノ

ノ順位ハ市町村トアルハ町村制ヲ施行セザル地ニ在リテハ之ニ准ズベキモノトス

第一項ノ規定ニ依ル徵收金ノ先取特權ノ順位ハ市町村トアルハ町村制ヲ施行セザル地ニ在リテハ之ニ准ズベキモノトス

第二十二條 商工經濟會ハ定款ノ定ムル所ニ依リ使用料及手數料ヲ徵收スルコトキハ商工經濟會ニヨリ其ノ事業ニ關シ報告ヲ徵シ又ハ商工經濟會ノ業務ノ状況若ハ帳簿書類其ノ他ノ物件ヲ検査スルコトヲ得

第三十三條 行政官廳ハ商工經濟會ニ於ケル業務及會計ニ關シ監督上必要ナル命令ヲ發シ又ハ處分ヲ爲スコトヲ得

第三十四條 行政官廳必要アリト認ムルトキハ商工經濟會ニヨリ其ノ事業ニ關シ報告ヲ徵シ又ハ商工經濟會ノ業務ノ状況若ハ帳簿書類其ノ他ノ物件ヲ検査スルコトヲ得

第三十五條 總會若ハ總代會ノ議決又ハ役員ノ行爲方法令若ハ定款ニ違反シ又ハハ公益ヲ害スト認ムルトキハ行政官廳

ハ總會若ハ總代會ノ議決ヲ取消シ又ハ役員ヲ解任スルコトヲ得

第三十六條 商工經濟會ハ主務大臣ノ命令ニ因リテ解散ス

第三十七條 商工經濟會ノ解散及清算ニ關シ必要ナル事項ハ勅令ヲ以テ之ヲ定

前五條ノ規定ハ前項ノ總代會ニ之ヲ準用ス

參與ハ支部ノ事務ニ參與ス

支部長ハ商工經濟會ノ監事以外ノ役員中ヨリ地方長官ノ承認ヲ受ケ會頭之ヲ命ズ

參與ハ會頭ノ承認ヲ受ケ支部長之ヲ命ズ

中ヨリ地方長官ノ承認ヲ受ケ會頭之ヲ命ズ

參與ハ會頭ノ承認ヲ受ケ支部長之ヲ命ズ

第三十八條 本法ニ基キテ發スル勅令ニ違反シ登記ヲ爲スコトヲ忽リ又ハ不正ノ登記ヲ爲シタルトキハ會頭、副會頭、理事長又ハ理事ヲ千圓以下ノ過料ニ處ス。

第三十九條 第十一條第二項ノ規定ニ違反シ名稱中ニ商工經濟會ナル文字ヲ用ヒタル者ハ千圓以下ノ過料ニ處ス。

第四十條 権太ニ於テ本法ヲ適用スルニ付必要ナル事項ニ關シテハ勅令ヲ以テ特例ヲ設クルコトヲ得。

#### 附則

第四十一條 本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム。

第四十二條 商工會議所法ハ之ヲ廢止ス。

第四十三條 商工會議所法ニ依リ設立セラレ本法施行ノ際現ニ存スル商工會議所ハ本法施行後ト雖モ仍有續スルモノトス。

第四十四條 前條第一項ノ商工會議所ハ規定ヲ適用ス。

前項ノ商工會議所ニハ商工會議所法ノ規定ヲ適用セズ。

右  
勅旨ヲ奉シ帝國議會ニ提出ス  
昭和十八年一月十八日

農林大臣	東條英機
大藏大臣	井野碩哉
商工大臣	賀屋興宣
内務大臣	岸信介
湯澤三千男	

第七條 統制組合ハ國民經濟ノ總力ヲ最モ有效ニ發揮セシムル爲商業、工業又ハ鑑業ノ統制ヲ圖リ又ハ之ガ爲ニスル經營ヲ行ヒ且當該事業ニ關スル國策ノ遂行ニ協力スルコトヲ目的トス。

第八條 統制組合ハ一定地區ニ於テ同種又ハ二種以上ノ事業別ニ之ヲ設立ス。第九條 統制組合ハ其ノ目的ヲ達スル爲左ニ掲グル事業ヲ行フ。

一 組合員及組合員タル團體ヲ組織スル者ノ當該事業ニ關スル統制指導。

二 組合員及組合員タル團體ヲ組織スル者ノ取扱品ノ仕入、販賣、保管其ノ他組合員及組合員タル團體ヲ組織スル者ノ當該事業ニ關スル統制ノ爲スル施設。

三 當該事業ニ關スル調査及研究

四 組合員及組合員タル團體ヲ組織スル者ノ當該事業ニ關スル検査

五 前各號ニ掲グルモノノ外統制組合ノ目的ヲ達スルニ必要ナル事業

ムル所ニ依リ地區及組合員タル資格ヲ定メ其ノ地區内ニ於テ組合員タル資格ヲ有スル者ニ對シ統制組合ノ設立ヲ命ズルコトヲ得。

第六條 行政官廳當該事業ノ統制ヲ圖ル爲必要アリト認ムルトキハ命令ノ定期メ其ノ地圖内ニ於テ組合員タル資格ヲ有スル者ニ對シ統制組合ノ設立ヲ命ズルコトヲ得。

第七條 當該事業ニ關スル統制組合ノ設立ヲ命ズル事項ヲ定メ理事長及監事ヲ選任シ行政官廳ノ認可ヲ受クベシ。

第八條 當該事業ニ關スル統制組合ノ設立ヲ命ズル事項ヲ定メ理事長及監事ヲ選任シ設立。

第五十五條乃至第五十八條ノ規定ハ

保管事業ヲ行フ統制組合ニ之ヲ準用ス但シ施設組合倉庫證券トアルハ統

制組合倉庫證券トス

第十條 統制組合ノ組合員タル資格ヲ有スル者ハ左ニ掲グル者ニシテ定款ヲ以テ定ムルモノトス

二 當該地區内ニ於テ當該事業ヲ營ム者ヲ以テ組織スル團體

一 當該地區内ニ於テ當該事業ヲ營ム者ヲ以テ組織スル團體

三 第一號ニ掲グル者及前號ニ掲グル團體ヲ以テ組織スル團體又ハ前號ニ掲グル團體ヲ以テ組織スル團體

四 第一號ニ掲グル者ヲ除クノ外當該地區内ニ於テ當該事業ヲ行フ者ニシテ行政官廳ノ指定シ又ハ統制組合（組合設立當時ニ於テハ發起人）ニ於テ行政官廳ノ認可ヲ受ケタルモノ

五 第二條 當該地區内ニ於テ當該事業ヲ營ム者ヲ以テ組織スル團體

六 第三條 當該地區内ニ於テ當該事業ヲ營ム者ヲ以テ組織スル團體

七 第四條 當該地區内ニ於テ當該事業ヲ營ム者ヲ以テ組織スル團體

八 第五條 當該地區内ニ於テ當該事業ヲ營ム者ヲ以テ組織スル團體

九 第六條 當該地區内ニ於テ當該事業ヲ營ム者ヲ以テ組織スル團體

十 第七條 當該地區内ニ於テ當該事業ヲ營ム者ヲ以テ組織スル團體

十一 第八條 當該地區内ニ於テ當該事業ヲ營ム者ヲ以テ組織スル團體

十二 第九條 當該地區内ニ於テ當該事業ヲ營ム者ヲ以テ組織スル團體

十三 第十條 當該地區内ニ於テ當該事業ヲ營ム者ヲ以テ組織スル團體

十四 第十一條 當該地區内ニ於テ當該事業ヲ營ム者ヲ以テ組織スル團體

十五 第十二條 當該地區内ニ於テ當該事業ヲ營ム者ヲ以テ組織スル團體

十六 第十三條 當該地區内ニ於テ當該事業ヲ營ム者ヲ以テ組織スル團體

十七 第十四條 當該地區内ニ於テ當該事業ヲ營ム者ヲ以テ組織スル團體

十八 第十五條 當該地區内ニ於テ當該事業ヲ營ム者ヲ以テ組織スル團體

十九 第十六條 當該地區内ニ於テ當該事業ヲ營ム者ヲ以テ組織スル團體

二十 第十七條 當該地區内ニ於テ當該事業ヲ營ム者ヲ以テ組織スル團體

ノ認可ヲ申請セザルトキハ行政官廳ハ 定款ノ作成、理事長及監事ノ任命其ノ 他設立ニ關シ必要ナル處分ヲ爲スコト ヲ得	第十三條 統制組合ノ定款ニハ左ニ掲グ ル事項ヲ記載スベシ
一 目的	第二名稱
二 地區	三 事務所ノ所在地
四 組合員タル資格ニ關スル規定	五 會議ニ關スル規定
五 會計ニ關スル規定	六 組合員ノ權利義務ニ關スル規定
七 事業及其ノ執行ニ關スル規定	八 役員ニ關スル規定
九 會議ニ關スル規定	十 會計ニ關スル規定
第十三條第一項ノ規定ニ依リ組合員 ヲシテ出資ヲ爲サシムル統制組合ノ定 款ニハ前項各號ニ掲グル事項ノ外左ニ 掲グル事項ヲ記載スベシ	第十三條第一項ノ規定ニ依リ組合員 ヲシテ出資ヲ爲サシムル統制組合ノ定 款ニハ前項各號ニ掲グル事項ノ外左ニ 掲グル事項ヲ記載スベシ
一 出資ヲ爲スベキ組合員ノ範囲、出 資一口ノ金額及其ノ拂込ノ方法	二 剩餘金ノ處分及損失補填ニ關スル 規定
三 準備金ノ額及其ノ積立ノ方法	第十四條 統制組合ハ勅令ノ定ムル所ニ 依リ設立ノ登記ヲ爲スニ因リテ成立ス ル時
第十四條 統制組合ハ勅令ノ定ムル所ニ 依リ設立ノ登記ヲ爲スニ因リテ成立ス ル時	第十五條 統制組合成立シタルトキハ其 ノ組合員タル資格ヲ有スル者ハ總テ其 ノ統制組合ノ組合員トス
第十六條 統制組合ニハ左ノ役員ヲ置ク ベシ	第十九條 重要產業團體令ニ依ル統制組 (以下統制會ト稱ス)ノ會員タル統制組 合ノ理事長ハ前項第一項ノ規定ニ拘ラ ズ當該事業ニ關シ經驗アル者及學識ア ル者ノ中ヨリ當該統制會ノ會長(當該
理事長	一人
理事	若干人
監事	二人
統制組合ニハ前項ノ役員ノ外定款ノ定 理事長	統制組合ハ行政官廳ノ諸問ニ對シ答申 スベシ
理事	統制組合ハ行政官廳ノ諸問ニ對シ答申 スベシ
監事	統制組合ハ行政官廳ノ諸問ニ對シ答申 スベシ
統制組合ニハ前項ノ役員ノ外定款ノ定 理事長	統制組合ハ其ノ組合員及組 合員タル團體ヲ組織スル者ニ對シ當該

二 第三十九條又ハ第三十一條ノ規定ニ 拘ラズ當該統制會ノ會長ノ爲ス ヲ命ズ	三 其ノ他命令ヲ以テ定ムル事項 法
前項ノ規定ニ依リ統制會ノ會長ノ爲ス ヲ命ズ	第十三條 理事長ハ少クトモ毎年一回 認可ヲ受クルニ非ザレバ其ノ效力ヲ生 ゼズ
統制組合ノ理事長ノ任命ハ行政官廳ノ 事務ヲ總理ス	第十七條 理事長ハ統制組合ヲ代表シ組 合事務ヲ總理ス
理事ハ理事長ヲ輔佐シ組合事務ヲ分掌 シ豫メ理事長ノ定ムル順位ニ依リ理事 長事故アルトキハ其ノ職務ヲ代理シ理 事長缺員ノトキハ其ノ職務ヲ行フ	第十八條 理事長ハ當該事業ニ關シ經驗 アル者及學識アル者ノ中ヨリ總會ニ於 テ之ヲ選任ス
但シ組合設立當時ノ理事長ハ當該事業 ニ關シ經驗アル者及學識アル者ノ中ヨ リ創立總會ニ於テ之ヲ選任ス	第十九條 理事長ハ當該事業ニ關シ經驗 アル者及學識アル者ノ中ヨリ理事長ヲ 選任ス
理事及評議員ハ當該事業ニ關シ經驗ア ル者及學識アル者ノ中ヨリ理事長ヲ 選任ス	第二十條 統制組合ノ役員ノ任期ハ左ノ 通トス
監事	理事長 三年 監事 二年 評議員 二年
監事	監事 二年
評議員	評議員 二年
監事	監事 二年
第二十六條 理事長特別ノ事由アリト認 ム場合ニ於テ行政官廳ノ認可ニ統制 會ノ會員タル統制組合ニ在リテハ當該統 制會ニ以上アル場合ヲ除クノ外當該統 制會ノ會長ノ承認ヲ受ケタルトキハ ム場合ニ於テ行政官廳ノ認可ニ統制 會ノ會員タル統制組合ニ在リテハ當該統 制會ニ以上アル場合ヲ除クノ外當該統 制會ノ會長ノ承認ヲ受ケタルトキ亦同ジ	第二十五條 總會ノ決議ハ出席シタル組 合員ノ議決權ノ過半數ヲ以テ之ヲ爲ス 超エザル範圍内ニ於テ二個以上ノ議決 權ヲ有セシムルコトヲ得
第二項ノ規定ニ依ル理事ノ解任ハ行政 官廳ノ認可ヲ受クルニ非ザレバ其ノ效 力ヲ生ゼズ	第二十六條 理事長特別ノ事由アリト認 ム場合ニ於テ行政官廳ノ認可ニ統制 會ノ會員タル統制組合ニ在リテハ當該統 制會ニ以上アル場合ヲ除クノ外當該統 制會ノ會長ノ承認ヲ受ケタルトキハ ム場合ニ於テ行政官廳ノ認可ニ統制 會ノ會員タル統制組合ニ在リテハ當該統 制會ニ以上アル場合ヲ除クノ外當該統 制會ノ會長ノ承認ヲ受ケタルトキ亦同ジ
第二項ノ規定ニ依ル理事ノ解任ハ行政 官廳ノ認可ヲ受クルニ非ザレバ其ノ效 力ヲ生ゼズ	第二十七條 理事長ハ命令ノ定ムル所ニ 依リ財產目錄、貸借對照表、事業報告 書及剩餘金處分案ヲ通常總會ニ提出シ テ其ノ承認ヲ求ムベシ
ノ規定ニ拘ラズ當該統制會ノ會長ノ承 認ヲ受クルニ非ザレバ其ノ效力ヲ生ゼ ズ	第二十八條 統制組合ハ當該事業ニ關 スル事項ニ付行政官廳ニ建議スルコトヲ 得
第二十一條 統制組合ニ總會ヲ置ク但シ 定款ノ定ムル所ニ依リ總會ニ代ルベキ 總代會ヲ設クルコトヲ得	第二十九條 統制組合ハ其ノ組合員及組 合員タル團體ヲ組織スル者ニ對シ當該
第二十二條 本法中別ニ規定スルモノノ 外左ニ掲グル事項ハ總會ノ議決ヲ經ベ シ	第三十條又ハ第三十一條ノ規定ニ 拘ラズ當該統制會ノ會長ノ爲ス ヲ命ズ
一 定款ノ變更	第三十一條 理事長ハ少クトモ毎年一回 認可ヲ受クルニ非ザレバ其ノ效力ヲ生 ゼズ

事業ニ關スル事項ノ調査ヲ爲ス爲必要ナル資料ノ提出ヲ求ムルコトヲ得  
前項ノ規定ニ依リ資料ノ提出ヲ求メラレタル者ハ遲滞ナク之ヲ提出スペシ  
第三十條 統制組合ハ定款ノ定ムル所ニ依リ其ノ組合員ニ對シ經費ヲ賦課スルコトヲ得

第三十一條 統制組合ハ其ノ事業ヲ行フ爲特ニ必要アルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ行政官廳ノ認可ヲ受ケ其ノ組合員ノ全部又ハ一部ニ對シ前條ノ規定ニ依リ賦課金ノ外特別ノ賦課金ヲ課スルコトヲ得

第三十二條 統制組合ハ定款ノ定ムル所ニ依リ定款又ハ統制規程ニ違反シタル組合員ニ對シ過怠金ヲ課スルコトヲ得

第三十三條 第三十條若ハ第三十一条ノ規定ニ依ル賦課金又ハ過怠金ヲ滯納スル者アル場合ニ於テ統制組合ノ請求アルトキハ市町村へ市町村稅ノ例ニ依リ之ヲ處分ス此ノ場合ニ於テ統制組合ハ其ノ徵收金額ノ百分ノ四ヲ市町村ニ交付スベシ

前項中町村トアルハ町村制ヲ施行セザル地ニ在リテハ之ニ準ズベキモノトス第一項ノ規定ニ依ル徵收金ノ先取特權ノ順位ハ市町村其ノ他之ニ準ズベキモノノ徵收金ニ次ギ其ノ時效ニ付テハ市町村稅ノ例ニ依ル

第三十四條 統制組合ハ定款ノ定ムル所ニ依リ使用料及手數料ヲ徵收スルコトヲ得

第三十五條 第九條第一項第二號ニ掲ぐる事業ヲ行フ統制組合ハ定款ノ定ムル所ニ依リ其ノ組合員ノ全部又ハ一部ヲシテ出資ヲ爲サシムルコトヲ得

前項ノ使用料及手數料ノ徵收ニ關シテハ民事訴訟ヲ提起スルコトヲ得

前項ニ規定スルコトヲ得

第三十六條 前條第一項ノ規定ニ依リ出資ヲ爲サシムル場合ニ於テハ當該組合員ハ出資一口以上ヲ有スペシ  
第三十七條 第三十五條第一項ノ規定ニ依リ出資ヲ爲ス組合員ノ責任ハ第三十條及第三十一條ノ規定ニ依ル費用負擔ノ外其ノ出資額ヲ限度トス  
第三十八條 締制組合ハ其ノ組合員又ハ組合員タル團體ヲ組織スル者ノ當該事業ニ關スル統制規程ヲ設定スベシ  
第三十九條 定款ノ變更竝ニ統制規程ノ設定及變更ハ行政官廳ノ認可ヲ受クルニ非ザレバ其ノ效力ヲ生ゼス

行政官廳前項ノ規定ニ依リ統制規程ノ設定又ハ變更ノ認可ヲ爲シタルトキハ其ノ事務所、營業所、工場、車業場等其ノ他の場所ニ臨檢シ業務ノ狀況若ハ帳簿書類、設備其ノ他ノ物件ヲ検査セシムルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ當該官吏ヲシテ臨檢査セシムル場合ニ於テハ其ノ身分ヲノ旨ヲ公示スベシ

第四十条 統制組合ノ組合員又ハ組合員タル團體ヲ組織スル者ハ當該統制組合ノ統制規程ニ依ルベシ

第四十一條 統制組合統制規程ニ基キ製造、加工又ハ販賣ノ數量、販賣價格、加工料金其ノ他ノ命令ノ定ムル事項ニ付決定ヲ爲シタルトキハ遲滞ナク之ヲ得

行政官廳ニ届出ヅベシ

行政官廳必要アリト認ムルトキハ前項ノ決定ノ變更又ハ取消ヲ爲スコトヲ得

必要ナル處分ヲ爲シ特ニ必要アルトキハ之ヲ沒收スルコトヲ得

第四十二条 統制組合ハ定款ノ定ムル所ニ依リ定款ノ違反ニ係ル取扱品ニシテ

行政官廳必要アリト認ムルトキハ監事ヲ科トス

トキハ統制組合ノ役員又ハ使用人ヲシテ組合員及組合員タル團體ヲ組織スル者ノ業務若ハ財產ノ狀況又ハ帳簿書類、設備其ノ他ノ物件ヲ検査セシムルコトヲ得

第三十六條 前條第一項ノ規定ニ依リ出資ヲ爲サシムル統制組合ハ出資ヲ引受拂込ヲ爲サシムベシ

第三十七條 第三十五條第一項ノ規定ニ依リ出資ヲ爲ス組合員ノ責任ハ第三十條及第三十一條ノ規定ニ依ル費用負擔ノ外其ノ出資額ヲ限度トス  
第三十八條 締制組合ハ其ノ組合員又ハ組合員タル團體ヲ組織スル者ノ當該事業ニ關スル統制規程ヲ設定スベシ  
第三十九條 定款ノ變更竝ニ統制規程ノ設定及變更ハ行政官廳ノ認可ヲ受クルニ非ザレバ其ノ效力ヲ生ゼス

行政官廳前項ノ規定ニ依リ統制規程ノ設定又ハ變更ノ認可ヲ爲シタルトキハ其ノ事務所、營業所、工場、車業場等其ノ他の場所ニ臨檢シ業務ノ狀況若ハ帳簿書類、設備其ノ他ノ物件ヲ検査セシムルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ當該官吏ヲシテ臨檢査セシムル場合ニ於テハ其ノ身分ヲノ旨ヲ公示スベシ

第四十条 統制組合第一項ノ規定ニ依リ定款ノ變更ノ認可ヲ受クルニ非ザレバ其ノ身分ヲノ旨ヲ公示スベシ

第四十一條 統制組合ノ組合員又ハ組合員タル團體ヲ組織スル者ハ當該統制組合ノ統制規程ニ依ルベシ

第四十二條 統制組合ハ定款ノ定ムル所ニ依リ定款ノ違反ニ係ル取扱品ニシテ

行政官廳必要アリト認ムルトキハ前項ノ決定ノ變更又ハ取消ヲ爲スコトヲ得

必要ナル處分ヲ爲シ特ニ必要アルトキハ之ヲ沒收スルコトヲ得

第四十三条 統制組合必要アリト認ムルトキハ監事ヲ科トス

トキハ統制組合ノ役員又ハ使用人ヲシテ組合員及組合員タル團體ヲ組織スル者ノ業務若ハ財產ノ狀況又ハ帳簿書類、設備其ノ他ノ物件ヲ検査セシムルコトヲ得

第三十六條 前條第一項ノ規定ニ依リ出資ヲ爲サシムル統制組合ハ出資ヲ引受拂込ヲ爲サシムベシ

第三十七條 第三十五條第一項ノ規定ニ依リ出資ヲ爲ス組合員ノ責任ハ第三十條及第三十一條ノ規定ニ依ル費用負擔ノ外其ノ出資額ヲ限度トス  
第三十八條 締制組合ハ其ノ組合員又ハ組合員タル團體ヲ組織スル者ノ當該事業ニ關スル統制規程ヲ設定スベシ  
第三十九條 定款ノ變更竝ニ統制規程ノ設定及變更ハ行政官廳ノ認可ヲ受クルニ非ザレバ其ノ效力ヲ生ゼス

行政官廳前項ノ規定ニ依リ統制規程ノ設定又ハ變更ノ認可ヲ爲シタルトキハ其ノ事務所、營業所、工場、車業場等其ノ他の場所ニ臨檢シ業務ノ狀況若ハ帳簿書類、設備其ノ他ノ物件ヲ検査セシムルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ當該官吏ヲシテ臨檢査セシムル場合ニ於テハ其ノ身分ヲノ旨ヲ公示スベシ

第四十条 統制組合第一項ノ規定ニ依リ定款ノ變更ノ認可ヲ受クルニ非ザレバ其ノ身分ヲノ旨ヲ公示スベシ

第四十一條 統制組合ノ組合員又ハ組合員タル團體ヲ組織スル者ハ當該統制組合ノ統制規程ニ依ルベシ

第四十二條 統制組合ハ定款ノ定ムル所ニ依リ定款ノ違反ニ係ル取扱品ニシテ

行政官廳必要アリト認ムルトキハ前項ノ決定ノ變更又ハ取消ヲ爲スコトヲ得

必要ナル處分ヲ爲シ特ニ必要アルトキハ之ヲ沒收スルコトヲ得

第四十三条 統制組合必要アリト認ムルトキハ監事ヲ科トス

ヲシテ監査ノ結果ヲ報告セシムルコトヲ得

第四十八条 行政官廳ハ理事長ノ行爲法令又ハ法令ニ基キテ爲ス處分ニ違反シタルトキ、公益ヲ害シタルトキ其ノ他當該事業ノ統制運營上理事長ヲ不適當ナリト認ムルトキハ之ヲ解任スルコトヲ得

行政官廳ハ理事、監事又ハ評議員ノ行為が法令若ハ法令ニ基キテ爲ス處分ニ違反シタルトキ又ハ公益ヲ害シタルトキハ統制組合ノ理事長ノ行爲が法令又ハ法令ニ基キテ爲ス行政官廳ノ處長ヲ不適當ナリト認ムルトキハ之ヲ解任スルコトヲ得

統制組合ノ會長ハ當該統制組合ノ會員タル統制組合（二以上ノ統制組合ニ所屬スルノ外其ノ他當該事業ノ統制運營上理事長ヲ不適當ナリト認ムルトキハ之ヲ解任スルコトキハ統制組合ヲ除ク）ノ理事長ノ行爲が法令又ハ法令ニ基キテ爲ス行政官廳ノ處長ヲ不適當ナリト認ムルトキハ之ヲ解任スルコトヲ得

前項ノ解任ハ行政官廳ノ認可ヲ受クルニ非ザレバ其ノ效力ヲ生ゼス

統制組合ノ理事長缺ケタル場合ニ於テ行政官廳當該事業ノ統制運營上特に必要アリト認ムルトキハ第十八條第一項ノ規定ニ拘ラズ當該事業ニ關シ經驗アル者及學識アル者ノ中ヨリ理事長ヲ任命スルコトヲ得

第五十条 統制組合ハ行政官廳ノ命令ニ對シ必要アリト認ムルトキハ統制組合ニ對シ必要ナル處分ヲ爲シ特ニ必要ナル事項ヲ統制規程ノ變更ニ他必要ナル事項ヲ命じ又ハ定款若ハ統制規程ノ變更ヲ爲スコトヲ得

第五十一条 統制組合ハ行政官廳ノ命令ニ對シ必要アリト認ムルトキハ統制組合ニハ所得稅、法人稅及營業稅ヲ課セズ

第五十二条 施設組合ニ關する事項ノ施設組合ハ組合員ノ事業ノ業務及會計ニ關シ監督上必要ナル命令ヲ發シ又ハ處分ヲ爲スコトヲ得

行政官廳必要アリト認ムルトキハ監事ヲ科トス

第五十三條 施設組合ハ商業、工業又ハ  
鑄業ニ屬スル事業ヲ營ム者ヲ以テ之ヲ  
設立ス

第五十四條 施設組合ハ其ノ目的ヲ達ス  
ル爲左ニ掲グル事業ヲ行フ

一 組合員ノ取扱品ノ仕入、保管、運  
搬、加工若ハ販賣又ハ組合員ノ爲ノ  
註文ノ引受

二 組合員ノ事業ニ關スル共同設備ノ  
設置

三 前二號ニ掲グルモノノ外施設組合  
ノ目的ヲ達スルニ必要ナル事業

施設組合ハ前項ノ事業ノ外組合員ニ對  
スル事業資金ノ貸付、組合員ノ爲ニス  
ル其ノ事業上ノ債務ノ保證又ハ組合員  
ノ賃金ノ受入ヲ併セ行フコトヲ得

第一項第二號ニ掲グル組合ノ共同設備  
ハ組合員ノ利用ニ支障ナキ場合ニ限り  
組合員ニ非ザル者ヲシテ命令ノ定ムル  
所ニ依リ之ヲ利用セシムルコトヲ得

第五十五條 保管事業ヲ行フ施設組合ハ  
行政官廳ノ許可ヲ受ケ組合員ノ寄託物  
ニ付倉荷證券ヲ發行スルコトヲ得

前項ノ許可ヲ受ケタル施設組合ハ組合  
員タル寄託者ノ請求ニ因リ寄託物ノ倉  
荷證券ヲ交付スルコトヲ要ス

第五十六條 前條第一項ノ許可ヲ受ケタ  
ル施設組合ノ作成スル倉荷證券ニハ施  
設組合倉庫證券ナル文字ヲ記載スルコ  
トヲ要ス

及質入證券又ハ倉荷證券ニハ施設組合  
倉庫證券ナル文字ヲ記載スルコトヲ得  
ズ

第五十七條 施設組合倉庫證券ノ發行ア  
リタル寄託物ノ保管期間ハ寄託ノ日ヨ

リ六月以内トス  
前項ノ寄託物ノ保管期間ハ六月ヲ限度  
トシ之ヲ更新スルコトヲ得但シ更新ノ  
際ニ於ケル證券ノ所持人組合員ニ非ザ  
ルトキハ組合員ノ利用ニ支障ナキ場合  
ニ限ル

第五十八條 商法第六百四十六條乃至第六  
百四十九條及第六百二十四條乃至第六百  
二十六條ノ規定ハ施設組合ガ施設組合  
倉庫證券ヲ發行シタル場合ニ之ヲ準用  
ス

前項ノ規定ハ商法第六百四十六條乃至第六  
百四十九條及第六百二十四條乃至第六百  
二十六條ノ規定ハ施設組合ガ施設組合  
倉庫證券ヲ發行シタル場合ニ之ヲ準用  
ス

第五十九條 施設組合ヲ設立セントスル  
トキハ組合員タラントスル者全員設立  
者ト爲リ定款其ノ他必要ナル事項ヲ定  
メ行政官廳ノ認可ヲ受クベシ

第六十條 施設組合ノ定款ニハ左ニ掲グ  
ル事項ヲ記載スベシ

一 目的

二 名稱

三 事務所ノ所在地

四 組合員タル資格ニ關スル規定

五 組合員ノ加入及脱退ニ關スル規定

六 出資一口ノ金額及其ノ拂込ノ方法

七 剰餘金ノ處分及損失補填ニ關スル  
規定

八 準備金ノ額及其ノ積立ノ方法

九 組合員ノ權利義務ニ關スル規定

十 事業及其ノ執行ニ關スル規定

十一 役員ニ關スル規定

十二 會議ニ關スル規定

十三 會計ニ關スル規定

十四 存立ノ時期又ハ解散ノ事由ヲ定  
メタルトキハ其ノ時期又ハ事由

第五十一条 施設組合ニハ理事及監事ヲ  
置クベシ

第五十二条 第十四條第一項、第二十條  
第一項、第二十一條第一項(但書ヲ除  
ク)、第二十二條乃至第二十五條、第二  
十七條、第三十條、第三十二條、第三  
十四條、第三十六條、第三十七條、第

理事又ハ監事ハ何時ニテモ總會ノ決議  
ヲ以テ之ヲ解任スルコトヲ得

第六十二條 組合員ハ出資一口以上ヲ有  
スベシ

第六十三條 組合員タル資格ヲ有スル者  
ハ組合員ノ四分ノ三以上ノ同意ヲ得テ  
施設組合ニ加入スルコトヲ得

第六十四條 組合員ハ命令ノ定ムル所ニ  
依リ一定ノ期間前ニ豫告ヲ爲シ施設組  
合ノ承諾ヲ得タル場合ニハ事業年度ノ  
終ニ於テ脱退スルコトヲ得

組合ハ正當ノ理由ナクシテ前項ノ承諾  
ヲ拒ムコトヲ得ズ

第六十五条 施設組合ハ左ノ事由ニ因リ  
テ解散ス

一 定款ニ定メタル事由ノ發生

二 總會ノ決議

三 組合ノ合併

四 組合ノ破産

五 第六十六條ノ規定ニ依ル解散ノ命  
令

六 第六十六條ノ規定ニ因ル解散ハ行政官廳ノ認  
可ヲ受クルニ非ザレバ其ノ效力ヲ生ゼ  
ズ

第七十三条 商工組合中央會ノ定款ニハ  
左ニ掲グル事項ヲ記載スベシ

一 目的

二 名稱

三 事務所ノ所在地

四 會員ノ加入及脱退ニ關スル規定

五 資產ニ關スル規定

六 事業及其ノ執行ニ關スル規定

七 役員ニ關スル規定

八 會議ニ關スル規定

九 存立ノ時期又ハ解散ノ事由ヲ定メ  
タルトキハ其ノ時期又ハ事由

第七十四条 商工組合中央會ニハ左ノ役  
員ヲ置クベシ

一 一人

二 若干人

三 監事

四 商工組合中央會ニハ前項ノ役員ノ外定  
款ノ定ムル所ニ依リ副會長二人以内ヲ  
置クコトヲ得

三十九條第一項、第四十四條、第四十  
六條及第四十七條ノ規定ハ施設組合ニ  
之ヲ準用ス

第六十九條 商工組合中央會ハ商工組合  
ノ指導及連絡ヲ圖ル目的ヲ以テ之ヲ設  
立スルコトヲ得

第七十条 商工組合中央會ハ其ノ名稱中  
ニ商工組合中央會ナル文字ヲ用フベシ

第七十條 商工組合中央會ハ全國ヲ通  
ジテ一個トシ其ノ設立ハ命令ノ定ムル  
所ニ依リ行政官廳ノ認可ヲ受クベシ

第七十二條 商工組合中央會ハ商工組合中央會  
ノ會員ト爲ルコトヲ得

前項以外ノ者ト雖モ定款ノ定ムル所ニ  
依リ商工組合中央會ノ會員ト爲ルコト  
ヲ得

第七十三条 商工組合中央會ノ定款ニハ  
左ニ掲グル事項ヲ記載スベシ

一 目的

二 名稱

三 事務所ノ所在地

四 會員ノ加入及脱退ニ關スル規定

五 資產ニ關斯ル規定

六 事業及其ノ執行ニ關スル規定

七 役員ニ關斯ル規定

八 會議ニ關スル規定

九 存立ノ時期又ハ解散ノ事由ヲ定メ  
タルトキハ其ノ時期又ハ事由

第七十四条 商工組合中央會ニハ左ノ役  
員ヲ置クベシ

一 一人

二 若干人

三 監事

四 商工組合中央會ニハ前項ノ役員ノ外定  
款ノ定ムル所ニ依リ副會長二人以内ヲ  
置クコトヲ得

第七十五條 會長及副會長ハ商業、工業

二 第四十四條ノ規定（第六十八條ニ

於テ準用スル場合ヲ含ム）ニ依ル報

告ヲ怠リ又ハ虚偽ノ報告ヲ爲シタル

者

又ハ鑛業ニ關シ經驗アル者及學識アル

者ノ中ヨリ總會ニ於テ之ヲ選任ス但シ

中央會設立當時ノ會長及副會長ハ商

業、工業又ハ鑛業ニ關シ經驗アル者及

學識アル者ノ中ヨリ創立總會ニ於テ之

ヲ選任ス

理事及監事ハ會員又ハ會員タル法人ノ

役員ノ中ヨリ總會ニ於テ之ヲ選任ス但シ

中央會設立當時ノ理事及監事ハ設立

同意者又ハ設立同意者タル法人ノ役員

ノ中ヨリ創立總會ニ於テ之ヲ選任ス

第七十六條 第三條第二項、第四條、第

十四條第一項、第二十一條、第二十二

條乃至第二十五條、第二十七條、第二

十八條、第三十條、第三十九條第一

項、第四十五條乃至第四十七條、第六

十五條及第六十六條ノ規定ハ商工組合

中央會ニ之ヲ準用ス

## 第五章 罰則

第七十七條 第四十條ノ規定ニ違反シタル者ハ二年以下ノ懲役又ハ三千圓以下の罰金ニ處ス

前項ノ罪ヲ犯シタル者ニハ情狀ニ因リ

懲役及罰金ヲ併科スルコトヲ得

第七十八條 左ノ各號ノ一一該當スル者

ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

一 第二十九條第二項ノ規定ニ違反シタル者

二 正當ノ理由ナクシテ第四十三條第一項ノ規定ニ依ル検査ヲ拒ミ、妨ガ

又ハ忌避シタル者

第七十九條 左ノ各號ノ一一該當スル者

ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

一 正當ノ理由ナクシテ第四十四條ノ規定（第六十八條ニ於テ準用スル場合ヲ含ム）ニ依ル當該官吏ノ臨檢

查、尋問、搜索又ハ差押ヲ拒ミ、妨

ゲ又ハ忌避シタル者

第八十六條 第三條第二項ノ規定（第七十六條ニ於テ準用スル場合ヲ含ム）ニ

違反シタル者又ハ第五十六條第二項ノ規定（第九條第三項ニ於テ準用スル場合ヲ含ム）ニ違反シタル者ハ千圓以下

ノ過料ニ處ス

不正ニ併用シタル者、行使ノ目的ヲ以テ證票若ハ検査證ヲ偽造若ハ變造シタル者又ハ偽造若ハ變造ノ證票若ハ検査證ヲ使用シタル者ハ三年以下ノ懲役又

ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

第八十一條 統制組合ノ役員若ハ使用者又ハ其ノ職ニ在リタル者其ノ業務執行ニ關シ知得シタル法人又ハ人ノ業務上ノ祕密ヲ漏泄又ハ竊用シタルトキハ二年以下ノ懲役又ハ二千圓以下の罰金ニ處ス

第八十二條 統制組合ノ役員、清算人又ハ使用人其ノ職務ニ關シ賄賂ヲ收受シ又ハ之ヲ要求若ハ約束シタルトキハ二年以下ノ懲役又ハ三十圓以下の罰金ニ處ス

第八十三條 前條第一項ニ掲タル者ニ對シ賄賂ヲ交付、提供又ハ約束シタルトキハ五年以下ノ懲役又ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第八十四條 第八十九條前二條ノ場合ニ於テハ懲役ハ其ノ法定代理人ニ之ヲ適用ス但シ營業ニ關シ成年者ト同一ノ能力ヲ有スル未年者ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

第八十九條 前二條ノ場合ニ於テハ懲役ノ刑ニ處スルコトヲ得ズ

附 則

第九十條 本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第九十一條 重要物產同業組合法、工業組合法及商業組合法ハ之ヲ廢止ス但シ

重要物產同業組合法ニ付テハ漁業法其ノ他重要

組合法ニ付テハ漁業法其ノ他重要

組合法及商業組合法ハ之ヲ廢止ス但シ

重要物產同業組合法ニ付テハ漁業法其ノ他重要

勅令ヲ以テ指定スル期間ヲ限リ仍存續スルモノトス

前項ニ掲タル組合、聯合會、小組合及中央會ニ付テハ第一項本文ニ掲タル法律ハ同項ノ規定ニ拘ラズ仍其ノ效力ヲ有ス

本法施行前又ハ第二項ノ規定ニ依リ同項ニ掲タル組合、聯合會、小組合又ハ中央會が存續スル期間中ニ爲シタル行爲ニ關スル罰則ノ適用ニ付テハ本法施行後又ハ前項ノ規定ニ依リ效力ヲ有スル第一項本文ニ掲タル法律ガ其ノ效力ヲ失フニ至リタル後ト雖モ仍從前ノ規定ニ依ル

第二項ニ掲タル組合、聯合會、小組合又ハ中央會ニシテ同項ノ勅令ヲ以テ指定期間満了ノ際現ニ存スルモノ（清算申ノモノヲ除ク）ハ當該期間満了ノ際解散スルモノトス

前項ノ規定ニ依ル解散及清算ニ關シ必要ナル事項ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第九十二條 重要產業團體令ニ依ル統制組合ニシテ本法施行ノ際現ニ存スルモノハ本法施行ノ日ニ於テ本法ニ依ル統制組合ト爲リタルモノトス

前項ノ場合ニ於テ重要產業團體令ニ依ル統制組合ノ權利義務ハ本法ニ依ル統制組合ニ於テ之ヲ承繼ス

前項ニ掲タルモノ外登記其ノ他重要產業團體令ニ依ル統制組合ト爲ル

規定ニ依リ本法ニ依ル統制組合ト爲ルニ必要ナル事項ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第四條ノ規定ハ第一項ノ規定ニ依ル統制組合ノ成立ニ付テハ之ヲ適用セズ

第九十三條 第九十一條第二項ニ掲タル組合、聯合會及小組合ハ定款其ノ他商

業組合ト爲ルニ必要ナル事項ヲ定メ行

政官廳ノ認可ヲ受ケタル下キハ商工組合

合ト爲ルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ同項ニ掲タル組合、聯合會又ハ小組合ノ權利義務ハ商工組合ニ於テ之ヲ承繼ス

第一項ノ規定ニ依リ同項ニ掲タル組合、聯合會又ハ小組合ガ商工組合ト爲リタルトキハ其ノ組合若ハ小組合ノ組合員又ハ其ノ聯合會ノ所屬ノ組合、聯合會若ハ工業者ノ出資ハ當該商工組合ニ對スル出資ト看做ス

前項ノ場合ニ於テ第一項ニ掲タル組合、聯合會又ハ小組合ニ對スル出資ノ持分ノ上ニ存在スル出資ノ持分ノ上ニ存在ス

第一項ノ場合ニ於テ商工組合ト爲リタル同項ニ掲タル組合ガ保證責任ノ組合ナルトキハ當該商工組合成立ノ際ニ於ケル組員ハ當該商工組合成立前ニ生ジタル當該組合ノ債務ニ付テハ工業組合法第十八條ノ二又ハ商業組合法第九條ノ規定ニ依ル責任ヲ免ルルコトナシ

前項ノ責任ハ同項ノ商工組合成立後二年以内ニ請求又ハ請求ノ豫告ヲ爲ザル債權者ニ對シテハ當該商工組合成立後二年ヲ經過シタルトキハ消滅ス

前五項ニ掲タルモノノ外第一項ニ掲タル組合、聯合會及小組合ガ同項ノ規定ニ依リ商工組合ト爲ルニ必要ナル事項ハ命令ヲ以ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第九十四條 行政官廳必要アリト認ムルトキハ第九十一條第二項ニ掲タル組合又ハ聯合會ニ對シ統制組合ト爲ルベキコトヲ命ズルコトヲ得前項ノ規定ニ依ル命令ヲ受ケタル組合又ハ聯合會ハ定款其ノ他統制組合ト爲ルニ必要ナル事項ヲ定メ行政官廳ノ認可ヲ受クベシ前項ニ掲タル組合又ハ聯合會行政官廳ノ指定スル期限迄ニ前項ノ認可ヲ申請

セザルトキハ行政官廳ハ定款ノ作成其ノ他當該組合又ハ聯合會ガ統制組合ト爲ルニ必要ナル處分ヲ爲スコトヲ得

前條第二項乃至第七項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第九十五條 第十四條ノ規定ハ前二條ノ規定ニ依ル商工組合ノ成立ニ之ヲ適用ス

第九十六條 行政官廳當該事業ノ統制上必要アリト認ムルトキハ第九十一條第二項ニ掲タル組合又ハ聯合會ニ對シ同條第三項ノ規定ニ拘ラズ解散ヲ命ズルコトヲ得

前項ノ規定ニ依ル命令ヲ受ケタル組合又ハ聯合會ハ其ノ命令アリタル時解散スルモノトス此ノ場合ニ於テ必要アルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ當該組合又ハ聯合會ノ權利義務ハ行政官廳ノ指定スル統制組合ト之ヲ承繼スルモノト爲スコトヲ得

第九十一條 第六項ノ規定ハ第一項ノ規定ニ依ル解散ノ場合ニ、第九十三條第三項乃至第六項ノ規定ハ前項後段ノ場合ニ之ヲ準用ス

第九十七條 本法ニ定ムルモノノ外本法ノ施行ニ關シ必要ナル事項ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第九十八條 商工組合第九十二條乃至第九十六條ノ規定ニ依リ承繼シタル不動産ニ關スル權利ノ取得ニ付登記ヲ受クル場合ニ於テハ其ノ登録税ノ額ハ不動産ノ價格ノ千分ノ三トス但シ登録税法ニ依リ算出シタル登録税ノ額ガ本法ニ依リ算出シタル税額ヨリ少キトキハ其ノ額ニ依ル

第九十九條 第九十一條第二項ニ掲タル組合、聯合會又ハ小組合ガ第九十三條ノ規定ニ依リ商工組合ト之ヲ加フ

第一百三條 特別法人税法中左ノ通改正ス

第二條中第二號ヲ第一號ノ二トシ同條ニ左ノ一號ヲ加フ

爲リ又ハ第九十六條第二項ノ規定ニ依リ解散シ同項ノ規定ニ依リ權利義務ノ承繼アリタルトキハ所得税法、法人税法及臨時利得税法又ハ特別法人税法ノ適用ニ關シテハ此等ノ法人ハ之ヲ合併ニ因リテ消滅シタル法人又ハ特別ノ法人ト看做シ商工組合ハ之ヲ合併ニ因リテ設立シタル法人又ハ特別ノ法人ト看做ス

第一百條 商工組合ガ第九十二條乃至第九十六條ノ規定ニ依リ承繼シタル財産ニ付テハ法人税法ニ依ル所得、臨時利得税法ニ依ル利益又ハ特別法人税法ニ依ル剩餘金ノ計算上之ヲ益ニ算入セズ

第一百條 本法施行ノ際現ニ第三條第一項又ハ第七十條ニ掲タル名稱ヲ其ノ名稱中ニ用フルモノハ本法施行後六月以降ニ其ノ名稱ヲ變更スルコトヲ要ス

第八十六條ノ規定ハ前項ノ期間内同項ニ掲タルモノニ之ヲ適用セズ

第五十七條第一項及第五十八條中施設

第一項第二項本文及第三條ノ三條ノ八第一項第二項本文及第三條ノ九「ヲ」商工組合法第五十五條第二項第三項及第五十六條乃至第五十八條ニ、

第二十一條第二項中「商業組合法第三條ノ六第二項第三項、第三條ノ七、第三條ノ八第一項及第三條ノ九中商業組合倉庫證券トアルハ」ヲ「同法第五十六條、同條同項但書中「同法第三條ノ七、第三條ノ八第一項及第三條ノ九中商業組合倉庫證券トアルハ」ニ改ム

第五十九條 第二項第一項中「商工組合中央金庫ハノ下ニ「商工組合」ヲ加フ

第三條第一項、第三項及第四項中「商業組合聯合會」ノ上ニ「統制組合」ヲ組合員トスル統制組合」ヲ加ヘ同條第二項中「前項ノ聯合會」ヲ「前項ノ組合、聯合會」ニ改ム

第七條第一項中「政府」ノ下ニ「商工組合」ヲ加フ

第二十七條第一項但書中「其ノ半數以上ハ」ノ下ニ「商工組合」ヲ加フ

第二十八條第一項第六號中「商業組合」ノ上ニ「商工組合」ヲ加フ

二 総制組合(所屬ノ組合員ヲシテ出資ヲ爲サシメザルモノヲ除ク)

第一百四條 登録税法中左ノ通改正ス  
「工業組合法」ヲ「商工組合法、工業組合法」ニ改ム

第一百五條 印紙税法中左ノ通改正ス  
第四條第一項第十二號中「工業組合」ヲ「商工組合、工業組合」ニ改ム

第一百六條 食糧管理法中左ノ通改正ス  
第二十一條第二項中「商業組合法第三條ノ六第二項第三項、第三條ノ七、第三條ノ八第一項及第三條ノ九中商業組合倉庫證券トアルハ」ヲ「同法第五十六條、同條同項但書中「同法第三條ノ七、第三條ノ八第一項及第三條ノ九中商業組合倉庫證券トアルハ」ニ改ム

第五十九條 第二項第一項及第五十八條中施設組合倉庫證券トアルハ」ニ改ム

第六條ノ二 商工組合中央金庫法中左ノ通改正ス  
第六條ノ二 商工組合中央金庫ノ資本金ヲ千四百萬圓增加シ之ヲ十四萬口ニ分

第八條ノ二 政府ハ第六條ノ二ノ規定ニ依ル資本金ノ増加ノ爲千萬圓ヲ商工組合中央金庫ニ出資ス

第六條ノ二ノ規定ニ依ル増加資本金ニ

付テハ組合又ハ聯合會ハ其ノ出資額ニ  
對シ出資スペキコトト爲リタル當初ニ  
於テ出資額ノ五分ノ一ヲ拂込ミ爾後十  
年間ニ其ノ殘餘ヲ拂込ムモノトス

第二十八條ノ三 第二十八條第一項第一  
號又ハ第二號ノ規定ニ依リ商工組合中  
央金庫ヨリ貸付ヲ受ケタル組合又ハ聯  
合會ガ解散シタル場合ニ於テハ左ノ各  
號ニ掲グル法人ニシテ商工組合中央金  
庫ニ於テ主務大臣ノ認可ヲ受ケタルモ  
ノハ同項第一號及第二號ノ規定ノ適用  
ニ付テハ之ヲ所屬組合又ハ所屬聯合會  
ト看做ス

一 當該組合又ハ聯合會ノ構成員(構  
成員ノ構成員ヲ含ム以下同ジ)タリ  
シ者ノ全部又ハ一部ヲ以テ組織スル  
法人

二 當該組合又ハ聯合會ノ構成員タリ  
シ者ノ全部又ハ一部ト其ノ他ノ者ト  
ヲ以テ組織セラレ當該組合又ハ聯合  
會ノ主タル事業設備ヲ取得シタル法  
人

三 前各號ニ掲グル法人ニ準ズル法人  
ニシテ命令ヲ以テ定ムルモノ

第二十九條第一項ニ左ノ一號ヲ加フ  
四 前號ニ掲グル組合若ハ聯合會ニシ  
テ解散シタルモノ(以下解散組合ト  
稱ス)ノ構成員タリシ者ノ全部若ハ  
一部ヲ以テ組織ベル會社、解散組合ノ  
構成員タリシ者ノ全部若ハ一部ト其  
ノ他ノ者トヲ以テ組織セラレ解散組  
合ノ主タル事業設備ヲ取得シタル會  
社又ハ法令、法令ニ基ク命令若ハ行  
政官廳ノ指導若ハ斡旋ニ基キ事業ノ  
統制ノ必要上設立シタル會社ニ對シ  
主務大臣ノ認可ヲ受ケ短期貸付ヲ爲  
スコト

○國務大臣(岸信介君) 商工經濟會法案、  
商工組合法案並ニ商工組合中央金庫法中改  
正法律案ノ三法案ノ提案ノ理由ヲ御説明致  
シマス、先づ商工經濟會法案ニ付テ申上ゲ  
マス  
〔副議長候爵佐佐木行忠君議長席ニ著  
ク〕  
降局下決戰體制確立ノ爲、國民經濟ノ總力  
ヲ戰力増強ノ目的ニ集中致シマシテ、之ヲ  
最モ有效ニ發揚セシムルコトガ緊急ノ要務  
デアルコトハ、申ス迄モナイスデアリマス  
ガ、之ガ爲ニハ、國內產業經濟ノ組織ヲ整  
備強化シ、以テ戰爭遂行力ノ強化ニ寄與セ  
シムルコト最モ肝要ナリト存ズルノデアリ  
マス、產業組織ノ整備確立ニ付キマシテハ、  
曩ニ統制會制度ノ實施ニ依リマシテ、重要  
產業部門ニ對シテソレハ、業種別ニ、生產、  
配給、消費ヲ縱ニ貫ク統制組織ヲ完備致シ、  
其ノ下部機構並ニ統制會外ノ業種ニ於ケル  
各種組合モ、今般議會ニ提案致シテ居リマ  
スル商工組合法ガ實施セラル、ニ至リマス  
レバ、整備セラル、ノデアリマスルガ、是  
等各業種、業態ヲ打ッテ一丸トシテ、綜合  
的團體ヲ結成スルコトニ依ッテ、異業種、  
異業態ヲ通ズル全體的調整ヲ圖リ、以テ總  
力發揮體制ノ完璧ヲ期セムトルノガ、本  
法制定ノ第一ノ目的デアリマス、次ニ現下  
の統制經濟ハ、府縣ノ行政ヲ通ジテ地域的  
ニ實施サレツ、アルノデアリマシテ、而モ  
是等產業經濟運營ノ實相ハ、府縣ノ特性ニ  
第三十九條中「九月迄及十月ヨリ」ヲ削

ル  
第四十九條中「三十事業年度間」ヲ「昭和  
二十七年三月ヲ以テ終ル事業年度迄」ニ  
改ム  
附則 本法施行ノ期日ハ各規定ニ付勅令ヲ以テ  
之ヲ定ム

應ジマシテソレム相違致シテ居ルノデア  
リマスガ故ニ、府縣經濟行政ト表裏一體ヲ  
爲ス綜合的地方產業團體ヲ整備シ、官民一  
致シテ府縣經濟行政ノ迅速且的確ナル徹底  
ヲ圖リマスト共ニ、地方產業全般ノ實情ヲ  
明確ニシ、以テ統制經濟ノ運營ヲ圓滑ナラ  
シムトスルノガ、本法制定ノ第二ノ目的  
デアリマス、最後ニ各地方產業經濟ハ、ソ  
レゾレ其ノ地方ノ特殊事情ニ基キマシテ發  
達向上シテ參ッタノデアリマスルガ、其ノ  
各地方ノ持ツ特殊性ヲ遺憾ナク發揮セシム  
マシテ、產業經濟ノ改善向上ニ努メシム  
地方經濟團體ヲ設立シ、以テ國家產業經濟  
力ノ向上ニ資セシムトスルノガ本法制定  
ノ第三ノ目的デアリマス、以上ノ三ツガ本  
法制定ノ理由デアリマスルガ、本法制定ニ依  
リマシテ、從來ノ地域的綜合經濟團體タル  
商工會議所ニ關スル商工會議所法ハ、同時  
ニ之ヲ廢止セムトスルノデアリマス、次ニ  
商工組合法案ニ付テ御説明致シマス、重要  
產業部門ニ於キマシテハ、既ニ統制會制  
度ニ依リマシテ、其ノ上部統制組織ヲ整備  
致シタノデアリマスルガ、其ノ下部門竝ニ  
商工組合法案ニ付テ御説明致シマス、重要  
產業部門ニ於キマシテハ、重要產業  
團體令ニ依ル統制組合、各種組合法ニ依  
ル商業組合、工業組合、同業組合等、各種ノ  
組合制度ガ存在スルノデアリマシテ、是等  
組合制度ハ、現下ノ經濟情勢ニ徵シマスルニ、  
何レモ一長一短ノ弊ガアルノデアリマス、  
茲ニ於キマシテ商工鑄業ニ關スル完全ナ  
ル統制團體トシテ新タニ統制組合制度ヲ  
設ケ、之ニ依リマシテ商工鑄業部門ノ統制  
機構ヲ整備セムトスルノガ、本法制定ノ第一  
ノ目的デアリマス、本法制定ノ第二ノ目的  
致シマシテハ、現下ノ經濟情勢ニ鑑ミマ  
シテ、各種產業部門ノ能率昂揚ヲ一層推進  
致サネバナラヌノデアリマスルガ、他面中小  
經營ノ長所ヲモ活用スルコトヲ必要トスル  
場合モアリマスルノデ、中小企業ノ爲ノ共

同經營組織ト致シマシテ、施設組合ヲ設  
ケムトスルモノデアリマス、右ノ統制組合  
及施設組合ノ指導、連絡ヲ圖ル中央機關ト  
致シマシテ、商工組合中央會ヲ設立セムト  
スルノガ、本法ヲ制定致サムトスル第三ノ  
目的デアリマス、次ニ商工組合中央金庫法  
中改正法律案ニ付テ御説明致シマス、商工  
組合中央金庫ハ、商業組合、工業組合等、  
商工業關係組合ニ對スル金融ノ圓滑ヲ圖ル  
コトヲ目的トシテ設立セラレタノデアリマ  
スルガ、設立後、商業組合、工業組合等ノ  
飛躍的增加ト相俟テ、其ノ業務モ急速ニ擴  
充サレテ參リマシタノデ、既ニ商工債券ノ  
發行餘力モ僅少ト相成ツテ居ルノデアリマ  
ス、然ルニ後ニ申上ゲマスル通り、從來ノ  
組合ヲ改組設立シタル會社、其ノ他統制ノ  
必要上設立シタル會社等ニ對シマシテモ、  
資金ノ融通ヲ行フ必要ガアリマスルノデ、將  
來本金庫ノ所要資金ハ急激ニ增加スルモノ  
ト豫想セラル、ノデアリマス、從ヒマシテ  
商工組合中央金庫ノ現在ノ資本金ヲ以テ致  
シマシテハ、到底利用者ノ需要ニ應ズルコ  
トハ困難ト認メラレマスルノデ、商工組合  
次ニ商工組合中央金庫ハ、現在商工業關係  
組合ニ對シテノミ資金ヲ貸付ケ得ル建前ニ  
ナツテ居ルノデアリマスルガ、近時產業整備  
ノ必要ニ基キマシテ、商工業關係組合中ニ  
於キマシテモ、組合ヲ改組シテ會社形態等  
ニ移行スルモノガ尠カラザル狀況デアリマ  
ス、從ヒマシテ從來商工組合中央金庫ニ所  
屬シテ居ル商工業關係組合ニシテ、改組ニ  
依ッテ加入者タル資格ヲ喪失シタルモノニ  
對シマシテモ、貸付ノ繼續ヲ認メマスルト  
共ニ、商工組合中央金庫ニ所屬シテ居ラナ  
カツタ組合、又ハ聯合會ガ改組設立シタ會  
社等ニ對シマシテモ、將來中小商業トシ  
テ金融ノ必要ヲ生ジマシタ際ニハ、短期ノ



第六條第一項第十一號但書中「產金振興  
債券」ヲ削ル

重要鑛物增産法中改正法律案

右

勅旨ヲ奉ジ帝國議會ニ提出ス

昭和十八年一月十八日

重要鑛物增産法中改正法律案

内閣總理大臣 東條 英機

厚生大臣 小泉 親彦

商工大臣 岸 信介

内務大臣 湯澤三千男

重要鑛物增産法中改正法律案

重要鑛物増産法中改正ス

第一條ノ二 政府ノ指定スル地域（以下

指定地域ト稱ス）ニ於ケル政府ノ指定

スル鑛物（以下指定鑛物ト稱ス）ヲ目的

トスル鑛業權者事業ニ著シ又ハ休業

シタル事業ヲ繼續セントスルトキハ命

令ノ定ムル所ニ依リ政府ノ許可ヲ受ク

ベシ但シ第三條ノ規定ニ依ル命令アリ

タル場合ヘ此ノ限ニ在ラズ

政府必要アリト認ムルトキハ前項ノ許

可ニ條件ヲ附スルコトヲ得

第一條ノ三 指定地域ニ於ケル指定鑛物

ヲ目的トスル鑛業權者休業シタルトキ

ヘ命令ノ定ムル所ニ依リ其ノ旨ヲ政府

ニ届出ヅベシ

第一條ノ四 指定地域ニ於ケル指定鑛物  
ヲ目的トスル鑛業權者第一條ノ二第一  
項ノ規定ニ違反シ許可ヲ受ケズシテ事  
業ニ著手シ若ハ休業シタル事業ヲ繼續

シ又ハ同條第二項ノ條件ニ違反シタル  
トキハ政府ハ鑛業權ヲ取消スコトヲ

得  
第一條ノ五 指定地域ニ於ケル指定鑛物  
ヲ目的トスル試掘權ノ存續期間ヘ進行  
ヲ停止スルモノトス

第一條ノ六 政府ハ期間、鑛物又ハ地域  
ヲ指定シテ鑛業又ハ砂鑛業ノ出願ヲ禁

止シ又ハ制限スルコトヲ得

接鑛區トノ間ノ鑛區ノ増減ニ伴ヒ必要ナ  
ルヲ「重要鑛物ノ增産ヲ圖ル爲必要トス  
ル」ニ改ム

第十七條ノ二 鑛業權ハ本法ノ定ムル所  
ニ從ヒ之ニ使用權ヲ設定スルコトヲ得

第十七條ノ三 使用權者ヘ使用鑛區ニ於  
テ鑛物ヲ掘採シ及之ヲ取得スル權利ヲ  
有ス

第十七條ノ四 本法ニ規定シタル使用權  
者ノ権利義務ヘ使用權ト共ニ移轉ス

鑛業法若ハ砂鑛法ノ規定ニシテ使用權  
者ノ鑛業若ハ砂鑛業ニ關シ適用若ハ準  
用スベキモノニ依ル鑛業權者ノ権利義  
務又ハ當該規定ヲ使用權者ノ鑛業者ハ  
砂鑛業ニ關シ適用若ハ準用シタル場合  
ニ於ケル當該規定ニ依ル使用權者ノ權  
利ノ定ムル所ニ依リ政府ノ許可ヲ受ク  
ベシ但シ第三條ノ規定ニ依ル命令アリ  
タル場合ヘ此ノ限ニ在ラズ

政府必要アリト認ムルトキハ前項ノ許  
可ニ條件ヲ附スルコトヲ得

第一條ノ五 指定地域ニ於ケル指定鑛物  
ヲ目的トスル鑛業權者休業シタルトキ  
ヘ命令ノ定ムル所ニ依リ其ノ旨ヲ政府

ニ届出ヅベシ

第一條ノ六 使用權ハ相續、讓渡、強  
制執行及滯納處分ノ目的タルノ外權利

ノ目的タルコトヲ得ズ

第一條ノ七 使用權ノ存續ハ一定期間

ヲ限ルモノトス

第十七條ノ八 左ニ掲グル事項ハ之ヲ  
登録ス

第一條ノ九 前條第一項ニ掲タル事項  
ハ相續及鑛業權消滅又ハ存續期間滿了  
ニ因ル使用權ノ消滅ノ場合ヲ除クノ外  
登録ヲ爲スニ非ザレバ其ノ效力ヲ生ゼ  
此ノ限ニ在ラズ

第十七條ノ十 使用權ハ其ノ登録前當該  
鑛業權ニ付登録ヲ爲シ又ハ當該鑛業權  
ノ屬スル鑛業財團ニ付登記ヲ爲シタル  
抵當權者ニ對シテモ其ノ效力ヲ生ズ  
前項ノ抵當權アルトキハ使用權者ハ鑛  
業權者ニ對シ支拂フベキ使用料ヲ供託  
スルコトヲ要ス但シ抵當權者ノ同意ヲ  
得タルトキハ此ノ限ニ在ラズ

第十七條ノ十一 使用權ヲ設定セントス  
前項ノ場合ニ於テハ抵當權者ハ供託金  
ニ對シテモ其ノ權利ヲ行フコトヲ得  
斯ルコトヲ要ス但シ抵當權者ノ同意ヲ  
得タルトキハ此ノ限ニ在ラズ

第十七條ノ十二 鑛業權者使用鑛區ニ該  
當スル部分ニ付鑛區ノ分合、減區又ハ  
増減區ヲ出願セントスルトキハ使用權  
者ノ承諾ヲ受クベシ

第十七條ノ十三 使用料ガ鑛產物ノ價格  
ノ變動其ノ他ノ事由ニ因リ著シク不相  
符合ニ於テハ相手方ハ正當ノ理由ナクシ  
テ其ノ承諾ヲ拒ムコトヲ得ズ

第十七條ノ十四 使用鑛區ハ之ヲ增減ス  
ルコトヲ得

第十七條ノ十五 第二項及第十七條ノ十五  
ノ十四第二項及第十七條ノ十五第二  
項ニ於テ準用スル場合ヲ含ム）又ハ

第十七條ノ十六 第二項（第十七條ノ  
第一項ニ於テ準用スル場合ヲ含ム）

第十七條ノ十七 第二項（第十七條ノ  
第一項ニ於テ準用スル場合ヲ含ム）

第十七條ノ十八 第二項（第十七條ノ  
第一項ニ於テ準用スル場合ヲ含ム）

第十七條ノ十九 第二項（第十七條ノ  
第一項ニ於テ準用スル場合ヲ含ム）

第十七條ノ二十 第二項（第十七條ノ  
第一項ニ於テ準用スル場合ヲ含ム）

第十七條ノ二十一 第二項（第十七條ノ  
第一項ニ於テ準用スル場合ヲ含ム）

第十七條ノ二十二 第二項（第十七條ノ  
第一項ニ於テ準用スル場合ヲ含ム）

第十七條ノ二十三 第二項（第十七條ノ  
第一項ニ於テ準用スル場合ヲ含ム）

第十七條ノ二十四 第二項（第十七條ノ  
第一項ニ於テ準用スル場合ヲ含ム）

第十七條ノ二十五 第二項（第十七條ノ  
第一項ニ於テ準用スル場合ヲ含ム）

當ト爲リタルトキハ當事者ハ將來ニ向  
テ其ノ増減ヲ請求スルコトヲ得此ノ場

合ニ於テハ相手方ハ正當ノ理由ナクシ  
テ其ノ承諾ヲ拒ムコトヲ得ズ

第十七條ノ二十四 使用鑛區ハ之ヲ增減ス  
ルコトヲ得

第十七條ノ十一ノ規定ハ前項ノ場合ニ  
之ヲ準用ス

第十七條ノ十五 使用權ノ移轉（相續ニ  
ノ使用權消滅ニ付テハ命令ノ定ムル所  
ニ依リ政府ノ許可ヲ受クベシ

第十七條ノ十六 第四條、第五條、第七  
條及第十三條乃至第十五條ノ規定ハ使  
用權ノ設定、使用鑛區ノ增減及使用權  
ノ行使ニ伴ヒ必要ナル事業設備ノ使用  
ノ行使ノ規定ハ第五條第二項ノ規定ニ依ル  
規定ニ依ル使用權ノ移轉ノ許可ニ之ヲ  
準用ス

第十七條ノ十七 第四條、第五條、第七  
條及第十三條乃至第十五條ノ規定ハ使  
用鑛區ノ增減及使用權ノ行使ニ伴ヒ必要  
ナル事業設備ノ使用ノ規定ニ依ル  
規定ニ依ル使用權ノ移轉ノ許可ニ之ヲ  
準用ス

第十七條ノ十八 第二項（第十七條ノ  
第一項ニ於テ準用スル場合ヲ含ム）

第十七條ノ十九 第二項（第十七條ノ  
第一項ニ於テ準用スル場合ヲ含ム）

第十七條の二十 第二項（第十七條ノ  
第一項ニ於テ準用スル場合ヲ含ム）

第十七條の二十一 第二項（第十七條ノ  
第一項ニ於テ準用スル場合ヲ含ム）

第十七條の二十二 第二項（第十七條ノ  
第一項ニ於テ準用スル場合ヲ含ム）

第十七條の二十三 第二項（第十七條ノ  
第一項ニ於テ準用スル場合ヲ含ム）

第十七條の二十四 第二項（第十七條ノ  
第一項ニ於テ準用スル場合ヲ含ム）

第十七條の二十五 第二項（第十七條ノ  
第一項ニ於テ準用スル場合ヲ含ム）

第十七條の二十六 第二項（第十七條ノ  
第一項ニ於テ準用スル場合ヲ含ム）

第十七條の二十七 第二項（第十七條ノ  
第一項ニ於テ準用スル場合ヲ含ム）

第十七條の二十八 第二項（第十七條ノ  
第一項ニ於テ準用スル場合ヲ含ム）

第十七條の二十九 第二項（第十七條ノ  
第一項ニ於テ準用スル場合ヲ含ム）

第十七條の三十 第二項（第十七條ノ  
第一項ニ於テ準用スル場合ヲ含ム）

第十七條の三十一 第二項（第十七條ノ  
第一項ニ於テ準用スル場合ヲ含ム）

第十七條の三十二 第二項（第十七條ノ  
第一項ニ於テ準用スル場合ヲ含ム）

第十七條の三十三 第二項（第十七條ノ  
第一項ニ於テ準用スル場合ヲ含ム）

第十七條の三十四 第二項（第十七條ノ  
第一項ニ於テ準用スル場合ヲ含ム）

第十七條の三十五 第二項（第十七條ノ  
第一項ニ於テ準用スル場合ヲ含ム）

第十七條の三十六 第二項（第十七條ノ  
第一項ニ於テ準用スル場合ヲ含ム）

第十七條の三十七 第二項（第十七條ノ  
第一項ニ於テ準用スル場合ヲ含ム）

第十七條の三十八 第二項（第十七條ノ  
第一項ニ於テ準用スル場合ヲ含ム）

第十七條の三十九 第二項（第十七條ノ  
第一項ニ於テ準用スル場合ヲ含ム）

第十七條の四十 第二項（第十七條ノ  
第一項ニ於テ準用スル場合ヲ含ム）

第十七條の四十一 第二項（第十七條ノ  
第一項ニ於テ準用スル場合ヲ含ム）

第十七條の四十二 第二項（第十七條ノ  
第一項ニ於テ準用スル場合ヲ含ム）

第十七條の四十三 第二項（第十七條ノ  
第一項ニ於テ準用スル場合ヲ含ム）

第十七條の四十四 第二項（第十七條ノ  
第一項ニ於テ準用スル場合ヲ含ム）

第十七條の四十五 第二項（第十七條ノ  
第一項ニ於テ準用スル場合ヲ含ム）

第十七條の四十六 第二項（第十七條ノ  
第一項ニ於テ準用スル場合ヲ含ム）

第十七條の四十七 第二項（第十七條ノ  
第一項ニ於テ準用スル場合ヲ含ム）

第十七條の四十八 第二項（第十七條ノ  
第一項ニ於テ準用スル場合ヲ含ム）

第十七條の四十九 第二項（第十七條ノ  
第一項ニ於テ準用スル場合ヲ含ム）

第十七條の五十 第二項（第十七條ノ  
第一項ニ於テ準用スル場合ヲ含ム）

第十七條の五十一 第二項（第十七條ノ  
第一項ニ於テ準用スル場合ヲ含ム）

第十七條の五十二 第二項（第十七條ノ  
第一項ニ於テ準用スル場合ヲ含ム）

第十七條の五十三 第二項（第十七條ノ  
第一項ニ於テ準用スル場合ヲ含ム）

官報號外 昭和十八年一月三十日 貴族院議事速記録第三號 帝國鑛業開發株式會社法中改正法律案外一件 第一讀會 五三

他ノ處分ヲ爲シ若ハ其ノ形質ヲ變更ス  
ルコトヲ得ズ但シ政府ノ許可ヲ受ケタ  
ル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

第一項ノ規定ニ依ル事業設備ノ使用ハ  
其ノ引渡アリタルトキハ爾後其ノ事業  
設備ニ付物權ヲ取得シタル者ニ對シ其  
ノ效力ヲ生ズ

第十七條ノ十七 第四條第五條第七條  
第九條第一項第一號、第十條、第十一  
條第一項及第二項前段、第十三條乃至  
第十五條並ニ前條第二項ノ規定ハ使用  
權ノ讓渡ニ之ヲ準用ス

前項ニ於テ準用スル第四條第二項ノ規  
定ニ依ル申請アリタルトキ又ハ前項ニ  
於テ準用スル第五條第一項ノ規定ニ依  
ル命令アリタルトキハ當該鑛業權者又  
ハ當該使用權者ハ其ノ申請ヲ拒否スル  
旨ノ裁定アル迄前項ニ於テ準用スル  
第十條第二項ノ規定ニ依リ裁定若ハ決  
定ガ其ノ效力ヲ失フ時期迄又ハ使用權  
ノ移轉ノ登錄アル迄當該鑛業權者ハ當  
該使用權ヲ讓渡シ又ハ當該鑛區若ハ當  
出願ヲ爲スコトヲ得ズ

第十七條ノ十八 使用權者使用權ノ存續  
期間ヲ超エテ存續スペキ事業設備ヲ設  
置セントスルトキハ其ノ費用ノ負擔方  
法ニ付鑛業權者ト協議スルコトヲ得  
前項ノ協議調ハズ又ハ協議ヲ爲スコト  
能ハザルトキハ使用權者ハ政府ノ裁定  
ヲ申請スルコトヲ得

前項ノ規定ニ依ル裁定ニ於テ費用ノ全  
部又ハ一部ヲ鑛業權者ガ負擔スペキモ  
ノト定メタル場合ニ於テハ鑛業權者ハ  
使用權者ニ對シ當該鑛區ガ當該使用鑛  
區ニ該當スル區域(當該鑛區ガ砂鑛區ニ  
非ザル場合ニ於テ當該使用鑛區ガ石炭  
ニ在リテハ五萬坪、其ノ他ノ鑛物ニ在  
リテハ五千坪ニ滿タザルトキハ其ノ面

積ニ達スル區域ニシテ當該使用鑛區ヲ  
含ムモノトス以下同ジ)ト其ノ他ノ區  
域ニ分割シ得ルトキハ分割ニ因リ設定  
シタル鑛業權ニシテ當該使用鑛區ニ該  
當スル區域ニ設定シタルモノヲ、分割  
ヲ爲シ得ザルトキハ當該鑛業權ヲ買取  
ルベキコトヲ請求スルコトヲ得此ノ場  
合ニ於テハ前項ノ規定ニ依ル裁定ハ其  
ノ效力ヲ失フ

前項ノ場合ニ於テ買取ノ條件ニ付協議  
調ハズ又ハ協議ヲ爲スコト能ハザルト  
キハ鑛業權者又ハ使用權者若ハ使用權  
者タリシ者ハ政府ノ裁定ヲ申請スルコ  
トヲ得

第八條乃至第十一條ノ規定ハ前項ノ場  
合ニ之ヲ準用ス但シ第十條第二項中裁  
定又ハ決定トアルハ第三項ノ規定ニ依  
ル買取請求及前項ノ規定ニ依ル裁定ト  
ス

第十七條ノ十九 左ノ各號ノ一ニ該當ス  
ル場合ニ於テハ政府ハ使用權ヲ取消ス  
コトヲ得

一 使用權者第十七條ノ十一第二項  
(第十七條ノ十四第二項及第十七條  
ノ十五第二項ニ於テ準用スル場合ヲ  
含ム)又ハ第十七條ノ十六第二項(第  
十七條ノ十七第一項ニ於テ準用スル  
場合ヲ含ム)ノ條件ニ違反シタルト  
キ

二 使用權者登錄ノ日ヨリ六月以内ニ  
事業ニ著手セズ若ハ引續キ六月以上  
休業シタルトキ又ハ施業案ニ依ラズ  
シテ探掘ヲ爲シタルトキ

三 使用權者第十七條ノ二十二ニ於テ  
準用スル鑛業法第四十三條ノ三、第  
七十二條又ハ第七十四條ノ四第三項  
ノ命令ニ從ハザルトキ

四 使用權者他人ヲシテ使用權ヲ使用  
セシタルトキ

五 第十七條ノ十六第一項ノ規定ニ依  
リ使用權ヲ取得シ若ハ使用鑛區ヲ增  
加シ又ハ第十七條ノ十七第一項ノ規  
定ニ依リ使用權ヲ讓受ケタル使用權  
者使用料ノ支拂ヲ一月以上遲滯シタ  
ル場合ニ於テ鑛業權者使用權ノ取消  
ヲ申請シタルトキ

六 政府重要鑛物ノ增產上使用權ノ存  
續ヲ適當ナラズト認ムルトキ

第十七條ノ二十 使用權消滅シタルトキ  
ハ鑛業權者又ハ使用權ノ行使ニ伴ヒ設置シタ  
ル事業設備ヲ時價ヲ以テ賣渡スペキコ  
トヲ請求スルコトヲ得此ノ場合ニ於テ

ハ鑛業權者ハ使用權ノ行使ニ伴ヒ設置シタ  
ル事業設備ヲ時價ヲ以テ賣渡スペキコ  
トヲ請求スルコトヲ得此ノ場合ニ於テ  
ハ使用權者タリシ者ハ正當ノ理由ナク  
シテ其ノ承諾ヲ拒ムコトヲ得ズ

第十七條ノ二十一 第十七條ノ十三又ハ  
前條ノ承諾ヲ拒マレタル者又ハ其ノ承  
諾ヲ得ルコト能ハザル者ハ政府ノ裁定  
ヲ申請スルコトヲ得

前條ノ承諾ヲ拒マレタル者又ハ其ノ承  
諾ヲ得ルコト能ハザル者前項ノ規定ニ  
依ル裁定ヲ申請シタルトキハ使用權者  
タリシ者ハ其ノ申請ヲ拒否スル旨ノ裁  
定アル迄當該事業設備ニ付讓渡其ノ他  
ノ處分ヲ爲シ又ハ其ノ形質ヲ變更スル  
コトヲ得ズ但シ政府ノ許可ヲ受ケタル  
場合ハ此ノ限ニ在ラズ

第十七條ノ二十二 第二條、第三條及第  
三條、第十五條第十六條、第三十八條第  
三十九條、第四十九條、第七十二條乃至  
第七十四條ノ三、第七十四條ノ八乃至第  
七十四條ノ十五、第七十六條乃至第七  
十八條、第九十二條第一項乃至第三項  
及第九十三條並ニ砂鑛法第五條ノ規定  
ハ使用權者ノ鑛業又ハ砂鑛業ニ關シ之ヲ  
準用ス但シ鑛業法第三十八條中主務大  
臣トアルハ政府トシ第七十四條第一項

及第七十四條ノ二第一項中鑛業權消滅  
トアルハ鑛業權消滅ニ因リ使用權消  
滅ノ時トアルハ鑛業權消滅ニ因ル使用  
權消滅ノ時トシ第七十四條ノ二第二項  
中ニ以上ノ鑛區ノ鑛業權者トアルハ二  
以上ノ使用鑛區又ハ二以上ノ鑛區及使

用鑛區ノ使用權者又ハ鑛業權者及使用  
權者トシ第七十四條ノ二第三項中鑛業  
權者其ノ鑛業權者及其ノ後ノ鑛業  
權者トアルハ使用權ノ讓渡、設定又ハ  
消滅アリタルトキハ損害發生ノ時ノ使  
用權者又ハ鑛業權者及其ノ後ニ於ケル  
害發生ノ時ノ鑛業權者トシ第七十四條  
ノ三第二項中鑛業權ヲ讓受ケタル者ト  
アルハ使用權讓渡ノ場合ニ在リテハ使  
用權ノ讓受人、使用權設定ノ場合ニ在  
リテハ鑛業權者トシ鑛業權者トアル  
ハ鑛業權者又ハ使用權者トス

鑛業法第九條第二項本文前段、第十二  
條ノ二、第四十三條ノ三乃至第四十七  
條、第五十條乃至第七十條、第七十四  
條ノ四乃至第七十四條ノ七、第七十五  
條及第八十條乃至第八十條ノ四並ニ砂  
鑛法第六條ノ規定ハ使用權者ノ鑛業ニ  
關シ之ヲ準用ス但シ第七十四條ノ六中  
鑛業權者其ノ鑛業權ヲ讓渡シトアルハ  
使用權者ノ使用權ヲ讓渡シ又ハ消滅  
セシメントシ讓受人トアルハ讓受人又  
ハ鑛業權者トス

砂鑛法第十二條乃至第十八條及第二十  
三條第二項ノ規定ハ使用權者ノ砂鑛業  
ニ關シ之ヲ準用ス

乃至第八十條ノ四、第九十二條第一項乃至第三項及第九十三條竝ニ砂鑄法第五條、第六條、第十二條乃至第十七條及第二十三條第二項ノ規定ハ當該規定ガ使用權者ノ鑄業又ハ砂鑄業ニ關シ準用セラル限度ニ於テ鑄業権者ノ鑄業又ハ砂鑄業ニ關シ之ヲ適用セズ

第十七條ノ二十三 工業労働者最低年齢 法、石油資源開發法及國民勞務手帳法中鑄業権者トアルハ使用權者ノ鑄業ニ關シテハ使用權者トス

第十七條ノ二十四 本法ニ規定スルモノノ外使用權ニ關シ必要ナル事項ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第十七條ノ二十五 鑄業権者使用權者ニ非ザル者ヲシテ鑄業権ヲ使用セシメタルトキハ政府ハ鑄業権ヲ取消スコトヲ得

第十八條中「鑄業権者」ノ下ニ「使用權者、土地所有者又ハ關係人」ヲ加ヘ同條ニ左ノ一項ヲ加フ

鑄業法若ハ砂鑄法ノ規定ニシテ使用權者ノ鑄業若ハ砂鑄業ニ關シ適用若ハ準用スベキモノニ依リ鑄業権者ノ鑄業若ハ砂鑄業ニ關シ爲シタル手續其ノ他ノ行爲又ハ當該規定ヲ使用權者ノ鑄業若ハ砂鑄業ニ關シ適用若ハ準用シタル場合ニ於テ當該規定ニ依リ爲シタル手續其ノ行爲ハ使用權ノ設定又ハ消滅ト共ニ使用權者又ハ鑄業権者ニ對シテモ其ノ效力ヲ有ス但シ鑄業権ノ消滅ニ因ル使用權ノ消滅ノ場合ハ此ノ限ニ在ラズ

第十八條ノ二 主務大臣ハ命令ノ定ムル所ニ依リ本法ニ依リ準用シタル鑄業法ニ依ル職權ノ一部ヲ鑄山監督局長ニ委

第十九條ノ二 詐偽ノ行爲ヲ以テ使用權ヲ得タル者ハ二年以下ノ懲役又ハ三千圓以下ノ罰金ニ處ス

過失ニ因リ使用鑄區外ニ侵掘シタル者ハ二千圓以下ノ罰金ニ處ス

前二項ノ場合ニ於テハ其ノ掘採シタル鑄物ヲ沒收ス若シ其ノ全部又ハ一部ヲ沒收スルコト能ハザルトキハ其ノ價額ヲ追徴ス

第十九條ノ三 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ一年以下ノ懲役又ハ二千圓以下ノ罰金ニ處ス

一 第一條ノ二第一項ノ規定ニ違反シ許可ヲ受ケズシテ事業ニ著手シ又ハ休業シタル事業ヲ繼續シタル者

二 第一條ノ二第二項ノ條件ニ違反シタル者

三 第十七條ノ二十二ニ於テ準用スル鑄業法第四十三條ノ三、第四十五條、第七十二條、第七十三條第一項若ハ砂鑄業法若ハ砂鑄法ノ規定ニ依ル命令ニ違反シタル者

四 第十七條ノ二十二ニ於テ準用スル鑄業法第四十四條又ハ砂鑄法第十六條ノ三第一項若ハ第三項ノ規定ニ依ル命令ニ違反シタル者

五 第十七條ノ二十二ニ於テ準用スル鑄業法第七十三條第二項ノ規定ニ基キテ管理者ノ職務ニ關シ發スル命令ニ違反シタル者

六 第二十條第一號中「第一條第一項」及「同條第二項」ノ下ニ「(第十七條ノ二十二ニ於テ準用スル場合ヲ含ム)」ヲ加ヘ同號ヲ第

七 第二十一條第一號中「第十七條第一項」ノ下ニ「又ハ第十七條ノ二十二ニ於テ準用スル鑄業法第十二條ノ二第一項若ハ砂鑄

法第十八條第一項」ヲ、同條第二號中「第十七條第一項」ノ下ニ「又ハ第十七條ノ二十二ニ於テ準用スル鑄業法第十二條ノ二第一項若ハ砂鑄法第十八條第一項」ヲ、同條第三號中「第十七條第二項」ノ下ニ「(第十七條第一項若ハ砂鑄法第十八條」ヲ、「檢査」ノ下ニ「、搜索又ハ差押」ヲ、同條第三號中「第十七條第二項」ノ下ニ「(第十七條ノ二十二ニ於テ準用スル場合ヲ含ム)」ヲ加ヘ同號ヲ第

八 第十七條ノ十六第四項又ハ第十七條ノ二十一第二項ノ規定ニ違反シ事業設備ノ形質ヲ變更シタル者

九 第二十條ノ二 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

一 第十七條ノ二十二ニ於テ準用スル鑄業法第四十六條、第四十七條又ハ第七十五條乃至第七十八條ノ規定ニ違反シタル者

二 第十七條ノ二十二ニ於テ準用スル鑄業法第七十四條ノ四第三項ノ規定ニ依ル命令ニ違反シタル者

三 第十七條ノ二十二ニ於テ準用スル鑄業法第八十條ノ規定ニ基キテ發スル命令ニ違反シタル者

四 第二十一條第一號中「第十七條第一項」ノ下ニ「又ハ第十七條ノ二十二ニ於テ準用スル鑄業法第十二條ノ二第一項若ハ砂鑄

法第十八條第一項」ヲ、同條第二號中「第十七條第一項」ノ下ニ「又ハ第十七條ノ二十二ニ於テ準用スル鑄業法第十二條ノ二第一項若ハ砂鑄法第十八條第一項」ヲ、同條第三號中「第十七條第二項」ノ下ニ「(第十七條ノ二十二ニ於テ準用スル場合ヲ含ム)」ヲ加ヘ同號ヲ第

五 第二十一條第一號中「第十七條第一項」ノ下ニ「又ハ第十七條ノ二十二ニ於テ準用スル鑄業法第十二條ノ二第一項若ハ砂鑄

手シ若ハ休業シタル事業ヲ繼續シタルモノ若ハ其ノ承繼人タルモノ又ハ此等ノ者ノ承繼人本法施行後引續キ其ノ事業ヲ爲サントスルトキハ本法施行後二月以内ニ第一條ノ二第一項本文ノ規定ニ準ジ其ノ事業ノ繼續ニ付許可ヲ受クベシ

前項ノ規定ニ依リ許可ヲ受クベキ者ハ同項ノ規定ニ依ル許可ノ申請ヲ爲サザリシトキハ同項ノ期間満了ノ日以後、同項ノ規定ニ依ル許可ノ申請ヲ爲シタル場合ニ於テ不許可ノ指令アリタルトキハ其ノ指令ノ日以後引續キ其ノ事業ヲ爲スコトヲ得ズ

第一條ノ二第一項但書及同條第二項ノ規定ハ第二項ノ場合ニ、第一條ノ四ノ規定ハ前二項ノ場合ニ依リ本法施行後一月以内ニ其ノ旨ヲ政府ニ届出ヅベシ

本法施行ノ際現ニ事業ヲ爲ス指定地域ニ於ケル指定鑛物ヲ目的トスル鑛業權者ハ命令ノ定ムル所ニ依リ本法施行後一月以内ニ其ノ旨ヲ政府ニ届出ヅベシ

第三項ノ規定ニ違反シ引續キ事業ヲ爲シタル者又ハ第四項ニ於テ準用スル第一條ノ二第二項ノ條件ニ違反シタル者ハ一年以下ノ懲役又ハ一千圓以下ノ罰金ニ處ス

第五項ノ規定ニ違反シ届出ヲ怠リ又ハ虚偽ノ届出ヲ爲シタル者ハ二千圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十二條第一項ノ規定ハ前二項ノ場合ニ之ヲ準用ス

〔國務大臣岸信介君演壇ニ登ル〕

○國務大臣(岸信介君) 只今議題ト相成リ  
マシタ帝國鑛業開發株式會社法中改正法律案及重要鑛物增產法中改正法律案付テ、提案理由ヲ御説明致シマス、最初ニ帝國鑛

業開發株式會社法中改正法律案ニ付テ御說明申上ダマス、此ノ改正法律案ノ要點ハ、

要スルニ次ノ二點ニ要約セラル、ノデアリマシテ、其ノ第一點ハ、現在金屬鑛業關係ノ國策會社ト致シマシテハ、日本產金振興株式會社ト帝國鑛業開發株式會社トガ存在致シテ居リマスルガ、之ヲ一會社ニ統合シ、其ノ經營能率ノ増進ヲ圖ル目的ノ下ニ、帝國鑛業開發株式會社ヲシテ日本產金振

興株式會社ヲ吸收合併セシメムトシ、之ガ爲必要ナル改正規定ヲ設ケタコトデアリマシテ、其ノ第二點ハ、昨今資材勞力等ノ有効利用ヲ圖ル爲ニハ、金屬鑛業ノ部面ニ於キマシテモ、企業ノ整備ヲ行ハザルヲ得ザル情勢トナツテ參リマシタノデ、合併後ノ帝國鑛業開發株式會社ヲシテ、從來ノ如ク

資源ノ開發竝ニ重要鑛物ノ增産ト云フ積極的事業ノミナラズ、新タニ鑛業ノ整備ニ關スル事業ヲモ行ハシメ得ルヤウ、其ノ目的ニ關スル規定ニ付テ必要ナル改正ヲ加ヘムトスルモノデアリマス、次ニ重要鑛物增產法中改正法律案ニ付テ御説明致シマス、重要鑛物增產法ハ、五年ノ有效期間ヲ附セラレテ居ル臨時立法デアリマシテ、本年六月ヲ以テ一應滿期トナリ效力ヲ失フ豫定ト

鑛業又ハ砂鑛業ノ出願ヲ制限又ハ禁止シ得ルコトナシタルコトデアリマス、是ハ要スルニ出願人ノ徒勞ヲ防グト共ニ、行政事務ノ減量ヲ圖リ、以テ重點主義ト行政事務簡捷化ノ要請ニ應ヘムトスルモノデアリマス、第四ハ、鑛業權及砂鑛權ニ對スル使用權設定ノ途ヲ拓イタコトデアリマス、鑛業權又ハ砂鑛權ヲ他人ニ使用セシムルコトハ、從來無效デアッタノデアリマスガ、今後ハ斯カル使用權ヲ增産達成ノ爲ノ一手法トシテ活用セムトスルモノデアリマス、尤モ

ムトスルモノデアリマス、即チ本法律案ノ内容ノ第一ハ、本法ノ有效期間ヲ今後更ニ五年間延長致シ、結局本法施行後十年間效力ヲ有スルヤウニ改メタルコトデアリマス、以上ノ理由

リマス、斯様ニ取扱ズ從來ノ有效期間ヲ延長致シマスルト共ニ、此ノ間ニ於テ情勢ノ推移ニ依ッテハ、更ニ鑛業法規全般ニ瓦リ再検討ヲ加ヘル等、適切ナル第二段ノ措置ヲ講ズル所存デアリマス、第二ハ、鑛業モ、重點主義ヲ貫徹セムガ爲、指定地域ニ於ケル指定鑛物ヲ目的トスル鑛業權者ノ事

業著手ヲ政府ノ許可ニ係ラシメ、以テ各種生産手段ヲ高能率鑛山ニ集中活用セムトスルモノデアリマシテ、是ト同時ニ、此ノ許可制ヲ實施スル試掘權ノ存續期間ハ、其ノ進行ヲ停止スルコトシ、著手許可制ガ試掘權者ニ酷トナル結果ヲ避ケテ居ルノデアリマス、尙此ノ許可制ヲ實施セムトスル鑛物ノ種類ハ、時局ニ鑑ミマシテ、之ヲ少數ニ限定致シタイト考ヘテ居リマス、第三ハ、出願ノ價値ナキ場合、其ノ他必要ナル場合ニ、一定期間鑛物又ハ地域ヲ指定シテ、鑛業又ハ砂鑛業ノ出願ヲ制限又ハ禁止シ得ルコトナシタルコトデアリマス、是ハ要スルニ出願人ノ徒勞ヲ防グト共ニ、行政事務ノ減量ヲ圖リ、以テ重點主義ト行政事務簡捷化ノ要請ニ應ヘムトスルモノデアリマス、第四ハ、鑛業權及砂鑛權ニ對スル使用權設定ノ途ヲ拓イタコトデアリマス、鑛業權又ハ砂鑛權ヲ他人ニ使用セシムルコトハ、從來無效デアッタノデアリマスガ、今後ハ斯カル使用權ヲ增産達成ノ爲ノ一手法トシテ活用セムトスルモノデアリマス、尤モ

現存致シテ居リマスル石炭山ノ所謂斤先掘シテ活用セムトスルモノデアリマスガ、今後ハ、固ヨリ規定方針ヲ通リ之ヲ整理致シマシテ、是ガ其ノ儘當然使用權ニ移行スルヤウナコトハ許サナイ方針デアリマス、以上ノ理由

○副議長(侯爵佐佐木行忠君) 戸澤子爵ノ動議ニ御異議ゴザイマセヌカ

○副議長(侯爵佐佐木行忠君) 御異議ナイト認メマス、特別委員ノ氏名ヲ朗讀致サセマス

○子爵秋田重季君 贊成

○副議長(侯爵佐佐木行忠君) 戶澤子爵ノ動議ニ御異議ゴザイマセヌカ

○副議長(侯爵佐佐木行忠君) 御異議ナイト認メマス、特別委員ノ氏名ヲ朗讀致サセマス

〔小野寺書記官朗讀〕  
一件特別委員

公爵麿司 信輔君 侯爵嵯峨 實勝君  
伯爵溝口 直亮君 子爵大河内正敏君  
子爵保科 正昭君 子爵柳澤 光治君

大野綠一郎君 男爵伊藤 文吉君  
男爵伊藤 一郎君 村瀬 直養君

男爵宮原 旭君 倉知 鐵吉君  
結城 安次君 内藤 久寛君  
瀧川 儀作君 磯貝 浩君

松本勝太郎君 大西虎之介君

永瀬 寅吉君

○副議長(侯爵佐佐木行忠君) 日程第二十  
二、郵便年金法中改正法律案、日程第二十  
三、航空法中改正法律案、日程第二十四、  
木船保險法案、政府提出、第一讀會、是等  
ノ三案ヲ一括シテ議題ト爲スコトニ御異議

ニ依リマシテ茲ニ帝國鑛業開發株式會社法中改正法律案及重要鑛物增產法中改正法律案ヲ提出致シタ次第デアリマス、何卒御審議ノ上御協賛アラムコトヲ希望致シマス

○子爵戸澤正己君 只今上程セラレマシタ件ノ特別委員ノ數ヲ十九名トシ、其ノ委員ノ指名ヲ議長ニ一任スルノ動議ヲ提出致シマス

帝國鑛業開發株式會社法中改正法律案外一件ノ特別委員ノ數ヲ十九名トシ、其ノ委員ノ指名ヲ議長ニ一任スルノ動議ヲ提出致シマス

ゴザイマセスカ

〔異議ナシト呼フ者アリ〕

○副議長(侯爵佐佐太行忠君) 御異議ナイ  
ト認メマス、寺島遞信大臣

郵便年金法中改正法律案

右 勅旨ヲ奉ジ帝國議會ニ提出ス

昭和十八年一月十八日

内閣總理大臣 東條 英機  
遞信大臣 寺島 健

郵便年金法中改正法律案

郵便年金法中左ノ通改正ス

第三條中「二千四百圓」ヲ「三千六百圓」ニ改ム

附 則

本法ハ昭和十八年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

航空法中改正法律案

右

昭和十八年一月十八日  
内閣總理大臣 東條 英機  
遞信大臣 寺島 健

航空法中改正法律案

右

内閣總理大臣 東條 英機  
递信大臣 寺島 健

航空法中改正法律案

右

内閣總理大臣 東條 英機  
递信大臣 寺島 健

航空法中改正法律案

右

内閣總理大臣 東條 英機  
递信大臣 寺島 健

航空法中改正法律案

航空通信若ハ航空機ノ整備ニ從事スルコトヲ得ス  
航空機職員ハ技倆證明書ヲ有スルコトヲ要ス  
ノ職務ニ從事スル者ハ技倆證明書ノ外  
航空免狀ヲ有スルコトヲ要ス  
第十六條中「技倆證明書ヲ有スル者」ノ下ニ  
ニニシテ航空機ニ搭乗シテ航空機職員ノ  
職務ニ從事スルモノヲ加フ  
第十七條 航空機職員ハ技倆證明書ヲ携  
帶スルニ非サレハ其ノ職務ニ從事スル  
コトヲ得ス

航空機職員ニシテ航空機ニ搭乗シテ其  
ノ職務ニ從事スル者ハ技倆證明書ノ外  
航空免狀ヲ携帶スヘシ  
第十七條ノ二 航空機ニハ航空機職員ヲ  
乗組マシムヘシ  
前項ノ航空機職員ノ定員及其ノ航空免  
狀ノ種類ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム  
第十七條ノ三 航空機長ハ其ノ航空機運  
航ノ安全ニ關シ必要ナル一切ノ措置ヲ  
爲スコトヲ要ス  
航空法中左ノ通改正ス

第三章 乘員〔第三章 航空機職員〕  
ニ改ム  
第五十五條 本法ニ於テ航空機職員トハ航  
空機長、航空機操縦士、航空士、航空  
機關士、航空通信士及航空機整備士  
第十五條ノ二 航空機職員ニ非サレハ航  
空機ニ搭乗シテ其ノ運航ニ從事シ又ハ  
ヲ謂フ  
第十五條ノ一 航空機職員ニ非サレハ航  
空機長、航空機操縦士、航空士、航空  
機內ニ在ル者ノ身體ヲ拘束スルコトヲ  
得  
第十七條ノ六 左ノ各號ノ一一該當スル  
圖ル爲緊急ノ必要アルトキハ其ノ航空  
機内ニ在ル者ノ身體ヲ拘束スルコトヲ  
得  
第十七條ノ五 航空機長ハ運航ノ安全ヲ  
第十九條 第十五條ノ二第一項ノ規定ハ  
飛行場又ハ命令ヲ以テ定ムル場所ニ於  
テ航空機ニ搭乗シテ運航又ハ航空通信  
ノ練習ヲ爲ス者、運航又ハ航空通信ノ  
練習ノ爲航空機職員ト同乗シテ運航又  
ハ航空通信ニ從事スル者及航空通信又  
ハ航空機ノ整備ノ補助ヲ爲ス者ニ之ヲ  
適用セス

第二十條第一項中「乘員引續キ六月以上  
運航ニ從事セサリシトキ」ヲ「航空機職員  
著シク其ノ職務ヲ怠リ若ハ其ノ職務ニ關  
シ重大ナル過失アリタルトキ」ニ、同條第  
三項中「乘員」ヲ「航空機職員」ニ改メ同條  
ニ左ノ一項ヲ加フ  
前二項ノ場合ニ於テ航空免狀トアルハ  
航空免狀ヲ有セサル航空機職員ニ在リ  
テハ技倆證明書トス  
第二十三條ノ二第一項ニ左ノ但書ヲ加フ  
但シ航空ノ安全保持ノ爲特別ノ必要ア  
ル場合ニ於テハ境界ヨリ外方三千メー  
トル」ノ區域内ニ於テ之ヲ指定スルコ  
トヲ得  
一 墜落 衝突、火災、機體又ハ機關  
ノ損傷其ノ他航空機ノ事故アリタル  
ヲ損壊シタルトキ  
三 航空中他ノ航空機又ハ船舶ノ遭難  
不明ト爲リタルトキ  
四 航空機内ニ在ル者死亡シ又ハ行方  
不眞ト爲リタルトキ  
五 豫定ノ著陸ノ場所ニ著陸セス又ハ  
豫定ノ著陸ノ場所以外ノ場所ニ著陸  
シタルトキ  
第六條 第一項中「軍用」ノ下ニ「其ノ他國ノ  
使用」ヲ加フ  
同條第二項中「軍用」ノ下ニ「其ノ他國ノ  
使用」ヲ加フ  
第三十六條 前條ニ規定スル場合ヲ除ク  
ノ外航空機ヲ使用シテ事業ヲ營マント  
スル者ハ命令ノ定ムル所ニ依リ行政官  
廳ノ許可ヲ受クヘシ  
第三十九條中「航空機ノ長」ヲ「航空機長」  
ニ改ム  
第五十六條中「第十五條第一項」ヲ「第十  
五條ノ二第一項」ニ改ム  
第五十六條ノ二 第十七條ノ二ノ規定ニ  
違反シ所定ノ航空機職員ヲ乗組マシメ  
サル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス  
第五十六條ノ三 第十七條ノ六ノ規定ニ  
違反シ報告ヲ爲サス又ハ虚偽ノ報告ヲ  
爲シタル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス  
第六十三條第一項第四號ヲ左ノ如ク改ム  
四 第二十條ノ規定ニ依ル航空免狀又  
ハ技倆證明書ノ返付ヲ怠リタル者  
第六十四條ヲ削ル  
附 則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム  
本法施行ノ際現ニ航空機ヲ使用シテ事業  
ヲ營ム者ハ本法施行ノ日ヨリ三月ヲ限り  
ヲ營ムコトヲ得  
第三十六條ノ改正規定ニ拘ラズ其ノ事業  
ヲ營ムコトヲ得

## 木船保險法案

右

勅旨ヲ奉ジ帝國議會ニ提出ス

昭和十八年一月十八日

内閣總理大臣 東條 英機

遞信大臣 寺島 健

大藏大臣 賀屋 興宣

内務大臣 湯澤三千男

大東亞大臣 青木 一男

木船保險法案

木船保險法

木船保險法案

木船保險法

第一條 本船保險組合ハ木船建造ノ促進

及木船ニ依ル輸送力ノ増強ヲ圖ル爲組

合員ノ所有スル木船（漁船ヲ除ク以下

同ジ）ニ關シ保險ヲ爲スヲ以テ目的ト

保険ノ目的タルベキ木船ハ勅令ヲ以テ

之ヲ定ム

第二條 大船保險組合ハ法人トス

第三條 木船保險組合ニ非ザルモノハ木

船保險組合又ハ之ニ類似スル名稱ヲ用

フルコトヲ得ズ

ノ定款ニハ左ノ事項ヲ記載スベシ

第四條 木船保險組合（以下組合ト稱ス）

二 名稱

三 事務所ノ所在地

四 保険ノ目的

五 役員ニ關スル事項

六 組合員ニ關スル事項

七 準備金ノ積立及管理ノ方法

八 剩餘金處分及不足金填補ノ方法

定款ノ變更ハ主務大臣ノ認可ヲ受クル

ニ非ザレバ其ノ效力ヲ生ゼズ

第五條 組合ニ役員トシテ理事長一人、  
理事五人以上、監事二人以上及評議員  
若干人ヲ置ク第六條 理事長ハ組合ヲ代表シ其ノ事務  
ヲ總理ス理事ハ定款ノ定ムル所ニ依リ理事長ヲ  
輔佐シ組合ノ事務ヲ分掌シ理事長事故  
アルトキハ其ノ職務ヲ代理シ理事長缺

員ノトキハ其ノ職務ヲ行フ

監事ハ組合ノ業務及財産ノ狀況ヲ監査

評議員ハ評議員會ヲ組織ス

第七條 理事長、理事及評議員ハ組合員  
及學識經驗アル者ノ中ヨリ主務大臣之  
ヲ命ズ

監事ハ評議員會ニ於テ之ヲ選任ス

理事長及理事ノ任期ハ四年、監事及評  
議員ノ任期ハ二年トス

第八條 理事長ハ定款ヲ各事務所ニ備置

クベシ

理事長ハ毎事業年度ノ初ニ於テ財產目  
錄、貸借對照表、事業報告書、損益計

算書及剩餘金處分案又ハ不足金填補案

ヲ監事ニ提出シ且之ヲ主タル事務所ニ  
備置クベシ

組合員及組合ノ債權者ハ前二項ニ掲グ

ル書類ノ閲覽ヲ求ムルコトヲ得

第九條 評議員會ハ理事長ノ諮詢ニ對シ  
答申シ又ハ理事長ニ對シ意見ヲ具申ス理事長ハ左ノ事項ニ付テハ評議員會ニ  
諮詢スベシ

第十條 戰爭其ノ他ノ變亂ニ因ル襲

撃、捕獲其ノ他勅令ヲ以テ定ムル事故

スル場合ヲ除クノ外命令ヲ以テ定ムル

時組合ト組合員トノ間ニ當該木船ニ付

保険關係成立スルモノトス

トス

組合員前條第一項ニ規定スル木船ヲ取

得シタルトキハ第十四條第一項ニ規定

スル場合ヲ除クノ外命令ヲ以テ定ムル

時組合ト組合員トノ間ニ當該木船ニ付

保険關係成立スルモノトス

スコトヲ得

第十四條 保險ノ目的タル第十一條第一  
項ニ規定スル木船ノ讓受人ハ命令ヲ以  
テ定ムル時當該木船ニ關スル保險關係シ 本法ニ規定スルモノノ外評議員會ニ關  
シ必要ナル事項ハ命令ヲ以テ之ヲ定  
ム第十條 組合ノ役員其ノ他ノ職員ハ之ヲ  
法令ニ依リ公務ニ從事スル職員ト看做

ム

第十一条 組合ノ成立後ニ於テ保險ノ目  
的タルベキ木船ニシテ命令ヲ以テ定ムルモノヲ取得シタル者ハ命令ヲ以テ定  
ムル時其ノ組合員ト爲ルモノトス第五十二條 及前項ノ規定ニ依リ組合員  
ト爲ル者ヲ除クノ外保險ノ目的タルベ  
キ木船ノ所有者ハ命令ノ定ムル所ニ依  
リ組合ノ組合員ト爲ルコトヲ得第十二條 前條第一項ニ規定スル木船ノ  
所有者第五十二條又ハ前條第一項ノ規  
定ニ依リ組合ノ組合員ト爲リタルトキ  
ハ第十四條第一項ニ規定スル場合ヲ除  
クノ外之ニ因リテ組合ト組合員トノ間  
ニ當該木船ニ付保險關係成立スルモノ  
トス第十六條 組合ハ組合員ヨリ保險料ヲ徵  
收スルノ外定款ノ定ムル所ニ依リ追徵  
金ヲ徵收スルコトヲ得第十七條 組合ハ定款ノ定ムル所ニ依リ  
過怠金ヲ徵收スルコトヲ得第十八條 保險料、追徵金又ハ過怠金ヲ  
滯納スル者アル場合ニ於テ組合ノ請求  
アルトキハ市町村ハ市町村稅ノ例ニ依  
リ之ヲ處分ス此ノ場合ニ於テ組合ハ其  
ノ徵收金額ノ百分ノ四ヲ市町村ニ交付  
スベシ前項中町村トアルハ町村制ヲ施行セザ  
ル地ニ在リテハ之ニ準ズベキモノトス第一項ニ規定スル徵收金ノ先取特權ノ  
順位ハ市町村其ノ他之ニ準ズベキモノ  
ノ徵收金ニ次グモノトス

第十九條 保険料、追徴金又ハ過怠金ヲ

徴収スル権利ハ一年、保険金ノ給付又

ハ保険料ノ還付ヲ受クル権利ハ二年ヲ  
経過シタルトキハ時效ニ因リテ消滅ス

前項ノ時效ノ中斷、停止其ノ他ノ事項

ニ關シテハ民法ノ時效ニ關スル規定ヲ

準用ス

組合ガ定款ノ定ムル所ニ依リテ爲ス保

險料、追徴金又ハ過怠金ノ徵収ノ告知

ハ民法第百五十三條ノ規定ニ拘ラズ時

效中斷ノ效力ヲ有ス

第二十條 組合員ハ損害ノ防止輕減ヲ力

ムコトヲ要ス但シ之ガ爲必要又ハ有

益ナリシ費用ハ組合之ヲ填補ス

第二十一條 組合員ハ定款ノ定ムル所ニ  
依リ保険ノ目的タル木船ノ構造、設備

等ニ付重大ナル變更ヲ加ヘントスルト

キハ豫メ組合ニ通知スベシ

保険ノ目的タル木船ノ危險ガ其ノ構

造、設備等ノ重大ナル變更ニ因リ著シ  
ク増加スル場合ニ於テハ組合ハ組合員

ニ對シ其ノ變更ヲ制限シ其ノ他必要ナ  
ル處置ヲ爲サシムルコトヲ得

第二十二條 組合ハ保険ノ目的タル木船

ニ關シ調査ヲ爲シ又ハ組合員ヲシテ通  
常ノ修繕其ノ他必墮ナル處置ヲ爲サシ  
ムルコトヲ得

第二十三條 左ノ場合ニ於テハ組合ハ勅  
令ノ定ムル所ニ依リ墳補額ニ付墳補ノ  
害ノ防止輕減ヲ怠リタルトキ

一 組合員保険ノ目的タル木船ニ付損  
失ノ防止輕減ヲ怠リタルトキ

二 組合員第二十一條第一項ノ規定ニ  
依ル通知ヲ怠リ又ハ同條第二項ノ規  
定ニ依ル組合ノ指示ニ從ハザルトキ

三 組合員前條ノ規定ニ依ル組合ノ調  
査ヲ拒ミ又ハ組合ノ指示ニ從ハザル  
トキ

各ヲ拒ミ又ハ組合ノ指示ニ從ハザル  
トキ

組合ハ命めノ定ムル所ニ依リテ爲ス保

險料、追徴金又ハ過怠金ノ徵収ノ告知

ハ民法第百五十三條ノ規定ニ拘ラズ時

效中斷ノ效力ヲ有ス

第二十條 組合員ハ損害ノ防止輕減ヲ力

ムコトヲ要ス但シ之ガ爲必要又ハ有

益ナリシ費用ハ組合之ヲ填補ス

第二十一條 組合員ハ定款ノ定ムル所ニ  
依リ保険ノ目的タル木船ノ構造、設備

等ニ付重大ナル變更ヲ加ヘントスルト

キハ豫メ組合ニ通知スベシ

保険ノ目的タル木船ノ危險ガ其ノ構

造、設備等ノ重大ナル變更ニ因リ著シ  
ク増加スル場合ニ於テハ組合ハ組合員

ニ對シ其ノ變更ヲ制限シ其ノ他必要ナ  
ル處置ヲ爲サシムルコトヲ得

第二十二條 組合ハ保険ノ目的タル木船

ニ關シ調査ヲ爲シ又ハ組合員ヲシテ通  
常ノ修繕其ノ他必墮ナル處置ヲ爲サシ  
ムルコトヲ得

第二十三條 左ノ場合ニ於テハ組合ハ勅  
令ノ定ムル所ニ依リ墳補額ニ付墳補ノ  
害ノ防止輕減ヲ怠リタルトキ

一 組合員保険ノ目的タル木船ニ付損  
失ノ防止輕減ヲ怠リタルトキ

二 組合員第二十一條第一項ノ規定ニ  
依ル通知ヲ怠リ又ハ同條第二項ノ規  
定ニ依ル組合ノ指示ニ從ハザルトキ

三 組合員前條ノ規定ニ依ル組合ノ調  
査ヲ拒ミ又ハ組合ノ指示ニ從ハザル  
トキ

款ノ變更ヲ命ジ其ノ他監督上必要ナル  
命令ヲ發シ又ハ處分ヲ爲スコトヲ得

大臣ノ命令ニ違反シ又ハ公益ヲ害スル  
行爲ヲ爲シタルトキハ主務大臣ハ之ヲ  
解任スルコトヲ得

第三十五條 組合ニ付解散ヲ必要トスル  
事由發生シタル場合ニ於テ其ノ處置ニ  
關シテハ別ニ法律ヲ以テ之ヲ定ム

第三十六條 民法第四十四條第一項、第  
五十條、第五十四條、第五十五條及第  
五十七條並ニ非訟事件手續法第三十五  
條第一項ノ規定ハ組合ニ之ヲ準用ス

商法第六百三十七條、第六百四十六條、  
第六百四十九條第一項、第六百五十八  
條、第六百五十九條、第六百六十條、

第六百六十二條、第八百三十三條、第  
八百三十四條第一項、第八百三十六條  
第一項第二項及第八百三十七條乃至第  
八百四十一條ノ規定ハ本船保險ニ之ヲ  
準用ス但シ同法第八百三十四條第一項  
ノ規定中六ヶ月及同法第八百三十六條  
第一項ノ規定中三個月トアルハ命令ヲ  
以テ定ムル期間トス

第三十七條 本法ニ規定スルモノノ外組  
合ニ關シ必要ナル事項ハ命令ヲ以テ之  
ヲ定ム

第三十八條 政府ハ豫算ノ範圍内ニ於テ  
組合ニ對シ組合ノ事務ノ執行ニ關スル  
費用ノ一部ヲ補助スルコトヲ得

第三十九條 保険金ニ關スル決定ニ不服  
アル者ハ木船保險審査會ニ審査ヲ請求  
シ其ノ決定ニ不服アルトキハ通常裁判  
所ニ訴ヲ提起スルコトヲ得

第四十条 組合ハ命めノ定ムル所ニ依  
リ登記ヲ爲スベシ

前項ノ規定ニ依リ登記スペキ事項ハ登  
記ノ後ニ非ザレバ之ヲ以テ第三者ニ對  
抗スルコトヲ得ズ

第三十條 組合ニハ所得稅、法人稅及營  
業稅ヲ課セズ

第三十一條 組合ガ本法ニ基キテ爲ス登  
記ヲ付テハ登錄稅ヲ課セズ

第三十二條 木船保險ニ關スル書類ニハ  
印紙稅ヲ課セズ

第三十三條 主務大臣必要アリト認ムル  
トキハ組合ニ對シ業務及財產ノ狀況ニ  
關シ報告ヲ爲サシメ、検査ヲ爲シ、定

期トシテハ監督上必要ナル事項ハ命め  
ノ定ムル所ニ依リ登記ヲ爲ス

第三十四條 本法ニ規定スルモノノ外木船  
保險審査會ニ審査ヲ請求

シ其ノ決定ニ不服アルトキハ通常裁判  
所ニ訴ヲ提起スルコトヲ得

第三十五條 本法ニ基キテ發スル命令  
ニ依リ認可ヲ受クベキ場合ニ於テ其  
ノ認可ヲ受ケザルトキ

二 第三十三條ノ規定ニ依ル報告ヲ爲  
サズ若ハ虚偽ノ報告ヲ爲シタルトキ、

テハ之ヲ裁判上ノ請求ト看做ス  
本法ニ規定スルモノノ外木船保險審査  
會ニ關シ必要ナル事項ハ命めヲ以テ之  
ヲ定ム

第四十條 組合ノ爲シタル保險料、追徴  
金若ハ過怠金ノ賦課若ハ徵収ノ處分又  
ル滯納處分ニ不服アル者ハ主務大臣ニ  
訴願シ又ハ行政裁判所ニ出訴スルコト  
ヲ得

八第十八條第一項及第二項ノ規定ニ依  
ル事由發生シタル場合ニ於テ其ノ處置ニ  
關シテハ別ニ法律ヲ以テ之ヲ定ム

第三十一条 組合ハ命めノ定ムル所ニ依  
リ責任準備金ヲ積立ツベシ

第三十二条 組合ハ命めノ定ムル所ニ依  
リ準備金ヲ積立ツベシ

第三十三条 組合ハ命めノ定ムル所ニ依  
リ責任準備金ヲ積立ツベシ

第三十四条 組合ハ命めノ定ムル所ニ依  
リ責任準備金ヲ積立ツベシ

第三十五条 組合ハ命めノ定ムル所ニ依  
リ責任準備金ヲ積立ツベシ

第三十六条 組合ハ命めノ定ムル所ニ依  
リ責任準備金ヲ積立ツベシ

第三十七条 組合ハ命めノ定ムル所ニ依  
リ責任準備金ヲ積立ツベシ

第三十八条 組合ハ命めノ定ムル所ニ依  
リ責任準備金ヲ積立ツベシ

第三十九条 組合ハ命めノ定ムル所ニ依  
リ責任準備金ヲ積立ツベシ

第四十条 組合ハ命めノ定ムル所ニ依  
リ責任準備金ヲ積立ツベシ

第四十一条 組合ハ命めノ定ムル所ニ依  
リ責任準備金ヲ積立ツベシ

第四十二条 組合ハ命めノ定ムル所ニ依  
リ責任準備金ヲ積立ツベシ

第四十三条 組合ハ命めノ定ムル所ニ依  
リ責任準備金ヲ積立ツベシ

第四十四条 組合ハ命めノ定ムル所ニ依  
リ責任準備金ヲ積立ツベシ

第四十五条 組合ハ命めノ定ムル所ニ依  
リ責任準備金ヲ積立ツベシ

第四十六条 組合ハ命めノ定ムル所ニ依  
リ責任準備金ヲ積立ツベシ

第四十七条 組合ハ命めノ定ムル所ニ依  
リ責任準備金ヲ積立ツベシ

第四十八条 組合ハ命めノ定ムル所ニ依  
リ責任準備金ヲ積立ツベシ

第四十九条 組合ハ命めノ定ムル所ニ依  
リ責任準備金ヲ積立ツベシ

第五十条 組合ハ命めノ定ムル所ニ依  
リ責任準備金ヲ積立ツベシ

第五十一条 組合ハ命めノ定ムル所ニ依  
リ責任準備金ヲ積立ツベシ

第五十二条 組合ハ命めノ定ムル所ニ依  
リ責任準備金ヲ積立ツベシ

第五十三条 組合ハ命めノ定ムル所ニ依  
リ責任準備金ヲ積立ツベシ

第五十四条 組合ハ命めノ定ムル所ニ依  
リ責任準備金ヲ積立ツベシ

同條ノ規定ニ依ル検査ヲ拒ミ、妨ゲ

若ハ忌避シタルトキ又ハ同條ノ規定ニ依ル命令若ハ處分ニ違反シタルトキ

キ  
四十五條

事長、理事又ハ監事ヲ五百圓以下ノ過

第八條ノ規定ニ違反シ書類ヲ備置  
カザルトキ、其ノ書類ニ記載スベキ

事項ヲ記載セズ若ハ不正ノ記載ヲ爲シタルトキ又ハ正當ノ事由ナクシテ

其ノ閲覽ヲ拒ミタルトキ

違反シ評議員會ニ諮詢セズ又ハ書類若ハ意見書ヲ提出セザルトキ

一 定款又ハ第十六條第二項ノ規定ニ基キテ發スル勅令ニ違反シ追徵金又

ハ過怠金ヲ徵收シタルトキ  
四 第二十八條ノ規定ニ違反シ準備金

ノ積立テザルトキ

ニ違反シ登記ヲ爲スエトモ怠リ又ハ  
不正ノ登記ヲ爲シタルトキ

十六條 第三條ノ規定ニ違反シ木船  
保險組合又ハ之ニ類似スル名稱ヲ用ヒ  
ノ者ハ五百圓以下ヲ罰料ニ處ス

九十九者ハ五百圓以下ノ過料ニ處ス  
四十七條 本法ヲ朝鮮又ハ臺灣ニ施行  
レ場合ニ於テ必要ナレ規定ハ助令ヲ

以テ之ヲ定ム

附則

之定主務大臣ハ保険ノ目的タル

キ木船ニシテ命令ヲ以テ定ムルモノ  
ノ所有者ニ對シ命令ノ定ムル所ニ依リ

附  
則

組合ノ設立ヲ命ズ  
前項ノ規定ニ依ル組合ノ設立ノ命令アリタルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ定款其ノ他組合ノ設立ニ必要ナル事項ヲ定メ主務大臣ノ認可ヲ受クヘシ  
第五十條　主務大臣前條第二項ノ認可ヲ爲ストキハ同條第一項ニ規定スル木船ノ所有者及學識經驗アル者ノ中ヨリ理事長、理事及評議員ヲ命ズ  
評議員ノ任命アリタルトキハ評議員會ニ於テ遲滯ナク監事ノ選任ヲ爲スベシ  
第五十一條　前條第二項ノ規定ニ依ル監事ノ選任アリタルトキハ理事長、理事及監事ノ全員ハ設立ノ登記ヲ爲スペシ  
組合ハ前項ノ登記ヲ爲スニ因リテ成立ス

第五十二條　第四十九條第一項ニ規定スル木船ノ所有者ハ組合成立シタルトキ之ニ因リテ其ノ組合員ト爲ルモノトス  
第五十三條　第四十九條第二項ノ規定ニ依ル認可申請ナキ場合ニ於テ組合ノ設立ニ關シ必要ナル事項ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第五十四條　損害保險國營再保險法中左ノ通改正ス

第一條第二項中「前項」ヲ「第一項」ニ改メ同條第一項ノ次ニ左ノ一項ヲ加フ  
政府ハ前項ニ定ムルモノノ外本法ニ依リ木船保險組合ノ爲ス保險ノ再保險ヲ行フ

第三條中「保險會社」ノ下ニ「又ハ木船保險組合」ヲ加フ

第四條第一項中「保險會社」ノ基ク填補ノ責任ノ下ニ「又ハ木船保

ノ責任」ヲ加フ

同條第二項中「保險會社」ノ下ニ「又ハ木船保險組合」ヲ加フ  
第五條乃至第八條、第十三條第一項及第十四條中「保險會社」ノ下ニ「又ハ木船保險組合」ヲ加フ  
第六條ニ左ノ一項ヲ加フ  
木船保險組合第十三條第一項ノ規定ニ依ル報告ヲ怠リ又ハ虚偽ノ報告ヲ爲シタルトキハ其ノ理事長其ノ他ノ業務ヲ執行スル役員亦前項ニ同ジ  
第五十五條　損害保險國營再保險特別會計法中左ノ通改正ス  
第二條中「保險會社」ノ下ニ「又ハ木船保險組合」ヲ加フ

（國務大臣寺島健君演壇ニ登ル）  
○國務大臣（寺島健君）只今議題トナリマシタ郵便年金法中改正法律案外二件ノ、提案ノ理由ヲ御説明申上ゲマス、先づ郵便年金法中改正法律案ニ付テ申上ゲマス、現下我が國經濟情勢ノ推移ニ鑑ミマシテ、國民厚生施設タル郵便年金制度ノ機能ヲ益、昂揚セシメマスルト共ニ、併セテ現トノ喫緊ノ要務デアリマスル長期貯蓄ノ増強ヲ圖ル爲、郵便年金最高制限額ノ引上げヲナサムトスルモノデアリマス、御承知ノ如ク郵便年金ノ最高制限額ハ、大正十五年本制度創設ノ際二千四百圓ト定メラレマシテ、爾來會情勢、經濟事情ノ變遷ニ鑑ミマスレバ、ノデアリマス、併シナガラ其ノ後ニ於ケル社會情勢、經濟事情ノ變遷ニ鑑ミマスレバ、最高制限額ヲ引上げルコトヲ適當ト存ズル

マスルニトハ、戰時財政經濟ノ運營ヲ圓滑健全ナラシムル上ニ於テ正ニ國家的要務アルト存ズルノデアリマシテ、郵便年金制度ノ如ク此ノ時局ノ要求ニ副フ施設ニ付キガ適切デアルト考ヘルノデアリマス、是等ノ點ヲ考へ合ハセマシテ、現在ノ郵便年金最高制限額二千四百圓ヲ三千六百圓ニ改ムル爲、茲ニ本改正法律案ヲ提出致シタ次第デアリマス、次ニ航空法中改正法律案ニ付テ申上ダマス、高速度交通機關トシテノ航空機ノ重要性ハ、近時著シク高メラレテ居ルノデアリマシテ、大東亞建設戰完遂ノ爲我ガ航空力ノ飛躍的増強發展ヲ圖リ、以テ遺憾ナク其ノ使命ヲ達成セシメマスルコトガ、現下最モ緊要ナル國策ノ一つデアルコトハ皆様御承知ノ通リデアリマス、之ガ爲政府ニ於キマシテモ、航空機生産力ノ擴充、航空要員ノ增强、大東亞航空路ノ整備モ稱スベキ現行航空法ハ、必ずシモ今日ノ實狀ニ副ハザル點ガアルノデアリマス、本案ハ是等ノ點ニ鑑ミマシテ、現行航空法中ニ一部改正ヲ施シ、第一ニハ、航空機職員ニ關スル規定ヲ擴充整備致シマシテ、其ノ資格責任等ヲ一層明確ナラシメ、運航能率ノ向上及び航空事故ノ防止ニ資スルコトトシ、第二ニハ、飛行場周圍ニ認メラレテ居リマスル特別地域ノ指定範圍ヲ擴張致シマシテ、航空機ノ大型化及ビ高速化ニ盲目著陸施設ノ發達ニ順應シテ航空ノ安全ヲ圖ル上ニ遺憾ナキヲ期スルコトトシ、更ニ第三ニハ、航空保安上及び國防上ノ必要ニ基キ、

航空機使用事業ヲ一般ニ許可制トスルモノ  
デアリマス、最後ニ木船保険法案ニ付テ申  
上ゲマス、大東亞戰爭ヲ完遂スル爲ニハ、  
軍事的ニモ經濟的ニモ先づ海上輸送力ノ增  
強ヲ圖ルコトノ緊要ナルコトハ更メテ申述  
ブル迄モナイ所デアリマシテ、政府ハ諸般  
ノ方途ヲ講ジテ船舶ノ運航能率ヲ向上セシ  
メ、現有船腹ヲ最高度ニ活用スルト共ニ、計  
畫造船ノ方策ヲ劃定シ、鋟意新船ノ建造ニ  
努力シツ、アルノデアリマスガ、現下ノ諸情勢  
ニ鑑ミルトキハ、船腹ノ擴充ノ爲ニハ、鋼船  
ト併行シテ能フ限り木船ノ建造ヲ促進シ、  
海上輸送力ノ増強ニ資スルコトガ極メテ緊要  
トナツテ參ツタノデアリマス、然ルニ海運ノ運  
營ニ最モ密接ナル關係ニ在ル所ノ海上保險  
支障ヲ招來スル虞ガアルノデアリマス、此  
シテ、現狀ノ儘デヘ、木船ノ建造ヲ促進シ、  
木船ニ依ル計畫輸送ヲ遂行致ス上ニ多大ノ  
制度ハ、從來木船ニ付テハ不備デアルノミラ  
ズ、實情ニ即セザル憾ガ多々アルノデアリマ  
ス、本制度ノ實施ニ當リマシテハ、事業  
運營ニ關スル諸般ノ施策ヲモ併行的ニ實施  
リ、能フ限リ之ヲ低廉ナラシムル考デアリ  
マス、本制度ノ實施ニ當リマシテハ、事業  
運營費ヲ國家ニ於テ補助スル等ノ方法ニ依  
リ、能フ限リ之ヲ低廉ナラシムル考デアリ  
マス、本制度ノ實施ニ當リマシテハ、事業  
運營ニ關スル諸般ノ施策ヲモ併行的ニ實施  
スルコトトシ、且海難ノ防止、海員ノ素質  
向上等、各般ノ政策ヲ綜合的ニ運用シ、以  
テ所期ノ目的達成ニ萬遺憾ナキヲ期スル所  
存デアリマス、何卒三案トモ御審議ノ上速  
カニ御協賛アラムコトヲ希望致シマス

○子爵戸澤正己君　只今日程ニ上リマシタ  
郵便年金法中改正法律案外二件ハ、十二名  
ノ特別委員トシ、其ノ委員ノ指名ヲ議長ニ  
トスルノ動議ヲ提出致シマス

○子爵秋田重季君　賛成

（高山書記官朗讀）

○副議長（侯爵佐佐木行忠君）　御異議ナイ  
動議ニ御異議ゴザイマセヌカ

ト認メマス、特別委員ノ氏名ヲ朗讀致サセ  
マス

（異議ナシト呼フ者アリ）

○副議長（侯爵佐佐木行忠君）　御異議ナイ  
動議ニ御異議ゴザイマセヌカ

ト認メマス、特別委員ノ氏名ヲ朗讀致サセ  
マス

（高山書記官朗讀）

郵便年金法中改正法律案特別委員

侯爵黒田　長禮君　伯爵大木　喜福君

子爵秋田　重季君　子爵秋元　春朝君  
出淵　勝次君　男爵久保田敬一君  
坂野鉄次郎君  
唐澤　俊樹君　用澤　義鋪君  
磯野　庸幸君　秋田　三一君

○副議長（侯爵佐佐木行忠君）　日程第二十  
五、自動車交通事業法中改正法律案、政府  
提出、第一讀會、八田鐵道大臣

勅旨ヲ奉ジ帝國議會ニ提出ス

昭和十八年一月十八日

内閣總理大臣　東條　英機  
大藏大臣　鈴木　嘉明  
鐵道大臣　八田　嘉明  
内務大臣　湯澤三千男  
興宣

○自動車交通事業法中改正法律案  
自動車交通事業法中左ノ通改正ス

第十條第一項第三號中「運輸ニ關スル協  
定」ノ下ニ「又ハ共同經營」ヲ加ヘ同項中  
第四號ヲ削リ第五號ヲ第四號トシ第六號  
ヲ第五號トス

同條第二項中「及第三號」ヲ削リ同條ニ左  
ノ一項ヲ加フ

主務大臣又ハ地方長官ハ物資輸送ノ  
確保ヲ期スル爲必要アリト認ムルト  
キハ貨物自動車運送事業者ニ對シ物  
品ノ種類、數量、運賃其ノ他ノ運送  
條件ヲ定メ物品ノ運送ヲ命ズルコトヲ  
得

第十六條ノ七中「貨物自動車ノ整備ヲ圖  
ル爲必要アリト認ムルトキハ」ヲ「貨物自  
動車運送事業ノ施設ノ整備ヲ圖ル爲其ノ  
他特別ノ事情ニ依リ必要アリト認ムルト  
キハ」ニ改ム

第十六條ノ八中但書ヲ削ル

第十六條ノ十　自動車運送事業組合ハ旅  
客自動車運輸事業、旅客自動車運送事  
業又ハ貨物自動車運送事業（以下自動  
車運送事業ト總稱ス）ノ總力ヲ最モ有  
効ニ發揮セシムル爲自動車運送事業ノ  
統制指導ヲ圖リ又ハ之ガ爲ニスル經營

官（東京府ニ在リテハ警視總監トス）ト  
ス」ニ改ム

第十六條ノ二中「一般」ヲ「他入」ニ改ム  
第十六條ノ三中「又ハ地方長官（東京府ニ  
ニ（東京府ニ在リテハ警視總監トス以下本章中之ニ同  
ジ）」ヲ削ル

第十六條ノ四中「又ハ地方長官」ヲ削ル  
第十六條ノ六第一項中「地方長官」ノ下ニ「又  
ハ共同經營」ヲ加ヘ同項中第三號ヲ削  
リ第四號ヲ第三號トシ第五號ヲ第四號ト  
ス

同條第二項中「及第三號」ヲ削リ同條ニ左  
ノ一項ヲ加フ

主務大臣又ハ地方長官ハ物資輸送ノ  
確保ヲ期スル爲必要アリト認ムルト  
キハ貨物自動車運送事業者ニ對シ物  
品ノ種類、數量、運賃其ノ他ノ運送  
條件ヲ定メ物品ノ運送ヲ命ズルコトヲ  
得

第十六條ノ七中「貨物自動車ノ整備ヲ圖  
ル爲必要アリト認ムルトキハ」ヲ「貨物自  
動車運送事業ノ施設ノ整備ヲ圖ル爲其ノ  
他特別ノ事情ニ依リ必要アリト認ムルト  
キハ」ニ改ム

第十六條ノ八中但書ヲ削ル

第十六條ノ十　自動車運送事業組合ハ旅  
客自動車運輸事業、旅客自動車運送事  
業又ハ貨物自動車運送事業（以下自動  
車運送事業ト總稱ス）ノ總力ヲ最モ有  
効ニ發揮セシムル爲自動車運送事業ノ  
統制指導ヲ圖リ又ハ之ガ爲ニスル經營

（高山書記官朗讀）

郵便年金法中改正法律案特別委員

侯爵黒田　長禮君　伯爵大木　喜福君

十三條ノ二中主務大臣トアルハ地方長  
官ニ關シテハ、普通保險ニアリマシテハ元受保  
主ノ相互保險組合タル木船保險組合ヲ設立  
セシメテ保険ヲ行ハシメ、尙之ガ再保險ニ  
セシメテ、普通保險ニアリマシテハ元受保

ノ遂行ニ協力スルコトヲ目的トス

組合ハ法人トス

第十六條ノ十一 自動車運送事業組合ハ

一定地區ニ於テ前條第一項ニ掲タル事業ノ種類別ニ其ノ事業者ヲ以テ之ヲ設立ス但シ特別ノ事情アルトキハ二種以上ノ事業者ヲ以テ之ヲ設立スルコトヲ得

第十六條ノ十二 自動車運送事業組合ハ

其ノ目的ヲ達スル爲左ニ掲タル事業ヲ行フ

二 組合員ノ事業ノ整備確立

三 組合員ノ事業ニ關スル指導、調査及研究

四 組合員ノ事業ニ關スル検査

組合ハ前項ノ事業ノ外自動車運送事業ノ統制指導ノ爲必要アルトキハ左ニ掲

一 組合員ノ事業ニ必要ナル資金ノ貸付

二 組合員ノ事業ニ必要ナル資金ノ貸入、共同設備ノ設置其ノ他組合員ノ事業ニ關スル共同施設

三 前各號ニ掲タルモノノ外必要ナル

前項ノ組合ノ共同施設ハ組合員ノ利用ニ支障ナキ場合ニ限り組合員ニ非ザル者ヲシテ命令ノ定ムル所ニ依リ之ヲ利用セシムルコトヲ得

第二項第三號ノ事業ハ主務大臣ノ認可ヲ受クルニ非ザレバ之ヲ行フコトヲ得ズ

第十六條ノ十三 主務大臣ハ自動車運送

事業組合ヲ設立セシメントスルトキハ

命令ノ定ムル所ニ依リ地區ヲ定メ其ノ地區内ニ於テ組合員タル資格ヲ有スル者ニ對シ組合ノ設立ヲ命ズベシ

前項ノ規定ニ依ル組合ノ設立ノ命令アリタルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ創立總會ヲ開キ之ニ諸リテ定款其ノ他組合ノ設立ニ必要ナル事項ヲ定メ監事ヲ選任シ主務大臣ノ認可ヲ受クベシ

第一項ノ規定ニ依リ組合ノ設立ヲ命ぜラレタル者主務大臣ノ指定スル期限迄ニ其ノ設立ノ認可ヲ申請セザルトキハ

主務大臣ハ定款ノ作成、監事ノ任命其ノ他組合ノ設立ニ關シ必要ナル處分ヲ爲スコトヲ得

第十六條ノ十四 自動車運送事業組合ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ設立ノ登記ヲ爲スニ因リテ成立ス

第十六條ノ十五中「第十六條ノ十三ノ規定ニ依ル」ヲ削ル

第十六條ノ十六 自動車運送事業組合ノ定款ニハ左ニ掲タル事項ヲ記載スベシ

一 目的

二 名稱

三 地區

四 事務所ノ所在地

五 組合員ニ關スル規定

六 事業及其ノ執行ニ關スル規定

七 役員ニ關スル規定

八 會議ニ關スル規定

九 會計ニ關スル規定

第十六條ノ十七 自動車運送事業組合ニハ左ノ役員ヲ置クベシ

理事長 一人

若干人

監事

若干人

理事長ハ組合ヲ代表シ組合事務ヲ總理

監事ハ組合ヲ監督シ組合ノ事業ノ狀況ヲ報告シ組合ノ監事ヲシテ財產ノ狀況ヲ報告セシムベシ

第十六條ノ二十二 自動車運送事業組合ノ理事長ハ毎年總會ニ組合ノ事業ノ狀況ヲ報告シ組合ノ監事ヲシテ財產ノ狀況ヲ報告セシムベシ

第十六條ノ二十三 自動車運送事業組合ハ定款ノ定ムル所ニ依リ其ノ組合員ニ對シ經費ヲ賦課シ過怠金ヲ課スルコトヲ得ズ

第十六條ノ二十四 前條ノ規定ニ依ル賦課金又ハ過怠金ヲ滯納スル者アル場合ニ於テ自動車運送事業組合ノ請求アルトキハ市町村ハ市町村ノ例ニ依リ之ヲ處分ス此ノ場合ニ於テ組合ハ其ノ徵收金額ノ百分ノ四ヲ市町村ニ交付スベシ

第十六條ノ二十 自動車運送事業組合ハ組合員ノ事業ニ關スル統制規程ヲ定ムベシ

組合員ハ當該組合ノ統制規程ニ依ルベシ

前項中町村トアルハ町村制ヲ施行セザル地ニ在リテハ之ニ準ズベキモノトス

第一項ノ規定ニ依ル徵收金ノ先取特權ノ順位ハ市町村其ノ他のニ準ズベキモノノ徵收金ニ次ギ其ノ時效ニ付テハ市町村稅ノ例ニ依ル

第十六條ノ二十一 左ニ掲タル事項ハ總會ニ諸リ自動車運送事業組合ノ理事長

之ヲ決ス

二 定款ノ變更

三 收支豫算並ニ賦課金ノ額及徵收方

前項ノ規定ニ依ル組合ノ理事長ノ處分ス

ハ主務大臣ノ認可ヲ受クルニ非ザレバ其ノ效力ヲ生ゼズ

第十六條ノ二十二 自動車運送事業組合ノ理事長ハ毎年總會ニ組合ノ事業ノ狀況ヲ報告シ組合ノ監事ヲシテ財產ノ狀況ヲ報告セシムベシ

第十六條ノ二十三 自動車運送事業組合ハ定款ノ定ムル所ニ依リ其ノ組合員ニ對シ經費ヲ賦課シ過怠金ヲ課スルコトヲ得ズ

組合ハ其ノ事業ヲ行フ爲特ニ必要アルトキハ主務大臣ノ認可ヲ受ケ其ノ組合員ノ全部又ハ一部ニ對シ前項ノ規定ニ依ル賦課金ノ外特別ノ賦課金ヲ課スルコトヲ得

第十六條ノ二十四 前條ノ規定ニ依ル賦課金又ハ過怠金ヲ滯納スル者アル場合ニ於テ自動車運送事業組合ノ請求アルトキハ市町村ハ市町村ノ例ニ依リ之ヲ處分ス此ノ場合ニ於テ組合ハ其ノ徵收金額ノ百分ノ四ヲ市町村ニ交付スベシ

第十六條ノ二十 自動車運送事業組合ハ組合員ノ事業ニ關スル統制規程ヲ定ムベシ

前項中町村トアルハ町村制ヲ施行セザル地ニ在リテハ之ニ準ズベキモノトス

第一項ノ規定ニ依ル徵收金ノ先取特權ノ順位ハ市町村其ノ他のニ準ズベキモノノ徵收金ニ次ギ其ノ時效ニ付テハ市町村稅ノ例ニ依ル

第十六條ノ二十五 自動車運送事業組合

ハ使用料及手數料ヲ徵收スルコトヲ得  
前項ノ使用料及手數料ノ徵收ニ關シテ  
ハ民事訴訟ヲ提起スルコトヲ得  
第十六條ノ二十六 自動車運送事業組合

又ハ使用人ヲシテ組合員ノ業務若ハ財  
産ノ状況又ハ帳簿書類、設備其ノ他ノ  
物件ヲ検査セシムルコトヲ得  
組合前項ノ規定ニ依リ役員又ハ使用人  
ヲシテ検査セシムル場合ニ於テハ其ノ  
身分ヲ示ス證票ヲ携帯セシムベシ

第十六條ノ二十七 政府ハ自動車運送事  
業ノ總力ヲ最モ有效ニ發揮セシムル爲  
特ニ必要アリト認ムルトキハ自動車運  
送事業組合ニ對シ命令ノ定ムル所ニ依  
リ豫算ノ範圍内ニ於テ自動車運送事業  
ノ統制指導ニ要スル費用ノ一部ヲ補助  
スルコトヲ得

第十六條ノ二十八 主務大臣ハ必要アリ  
ト認ムルトキハ自動車運送事業組合ニ  
對シ定款、統制規程、收支豫算、賦課  
金ノ額若ハ徵收方法ノ變更又ハ必要ナ  
ル事業ノ施行ヲ命ジ其ノ他監督上必要  
ナル命令ヲ發シ又ハ處分ヲ爲スコトヲ  
得

第十六條ノ二十九 地方長官ハ自動車運  
送事業組合ノ役員ノ行爲ガ法令又ハ法  
令ニ基キテ爲ス處分ニ違反シタルト  
キ、公益ヲ害シタルトキ其ノ他事業ノ  
執行上當該役員ヲ不適當ナリト認ムル  
トキハ之ヲ解任スルコトヲ得

第十六條ノ三十 自動車運送事業組合ハ  
主務大臣ノ命令ニ因リテ解散ス  
第十六條ノ三十一 自動車運送事業組合  
聯合會ハ自動車運送事業ノ總力ヲ最モ

有效ニ發揮セシムル爲其ノ會員ノ事業  
ノ統制指導ヲ圖リ又ハ之ガ爲ニスル經  
營ヲ行ヒ且自動車運送事業ニ關スル國  
策ノ立案及遂行ニ協力スルコトヲ目的  
トス

聯合會ハ法人トス

第十六條ノ三十二 自動車運送事業組合  
聯合會ハ第十六條ノ十第一項ニ掲グル  
事業ノ種類別ニ之ヲ設立シ全國ヲ通ジ  
テ一個トス但シ特別ノ事情アルトキハ  
二種以上ノ事業ニ付之ヲ設立スルコト  
ヲ得

第十六條ノ三十三 自動車運送事業組合  
聯合會ハ其ノ目的ヲ達スル爲左ニ掲グ  
ル事業ヲ行フ

一 自動車運送事業ニ關スル政府ノ計  
畫ニ對スル參畫

二 自動車運送事業ニ關スル調査及研  
究

三 會員ノ事業ニ關スル統制指導

四 會員ノ事業ニ關スル統制指導

聯合會ハ前項ノ事業ノ外其ノ會員ノ事  
業ノ統制指導ノ爲必要アルトキハ左ニ  
掲グル事業ヲ併セ行フコトヲ得

一 會員ノ事業ニ必要ナル物ノ購入、  
共同設備ノ設置其ノ他會員ノ事業ニ  
關スル共同施設

二 前號ニ掲グルモノノ外必要ナル事  
業

前項ノ聯合會ノ共同施設ハ會員ノ利用  
ニ支障ナキ場合ニ限り會員ニ非ザル者  
ヲシテ命令ノ定ムル所ニ依リ之ヲ利用  
セシムルコトヲ得

第二項第二號ノ事業ハ主務大臣ノ認可  
ヲ受クルニ非ザレバ之ヲ行フコトヲ得

聯合會ニハ左ノ役員ヲ置クベシ

會長 一人

理事 若干人

評議員 若干人

監事 若干人

聯合會ニハ前項ノ役員ノ外定款ノ定ム  
ル所ニ依リ理事長一人ヲ置クコトヲ得

會長ハ聯合會ヲ代表シ會務ヲ總理ス  
理事長ハ會長ヲ輔佐シ會務ヲ掌理シ會  
長事故アルトキハ其ノ職務ヲ代理シ會  
長缺員ノトキハ其ノ職務ヲ行フ

理事ハ會長及理事長ヲ輔佐シ會務ヲ分  
掌シ豫メ會長ノ定ムル順位ニ依リ會長  
及理事長共ニ事故アルトキハ會長ノ職  
務ヲ代理シ會長及理事長共ニ缺員ノト  
キハ會長ノ職務ヲ行フ

監事ハ聯合會ノ業務及財產ノ狀況ヲ監  
查ス

評議員ハ會長ノ諮詢ニ答申シ又ハ會長  
ニ對シ意見ヲ具申ス

會長、理事長及理事ノ任期ハ三年、監  
事及評議員ノ任期ハ二年トス

會長、理事長又ハ理事ト監事トハ相兼  
ヌルコトヲ得ズ

第十六條ノ三十五 自動車運送事業組合  
ニ關スル規定ハ第十六條ノ十乃至第十  
六條ノ十二及第十六條ノ十七乃至第十  
六條ノ十九ノ規定ヲ除クノ外自動車運  
送事業組合聯合會ニ之ヲ準用ス但シ第  
十六條ノ二十一及第十六條ノ二十二中  
自動車運送事業組合ノ理事長又ハ組合  
ノ理事長トアルハ聯合會ノ會長トシ第  
十六條ノ二十九中地方長官トアルハ主  
務大臣トス

第五十二條第三號中「第十六條ノ十三第  
一項」ヲ下ニ「及第十六條ノ三十七ニ於テ  
シ以下第十六條ノ三十八迄順次三條宛繰

下ダ

第十六條ノ三十五 自動車運送事業組合  
ニ關スル規定ハ第十六條ノ十乃至第十  
六條ノ十二及第十六條ノ十七乃至第十  
六條ノ十九ノ規定ヲ除クノ外自動車運  
送事業組合聯合會ニ之ヲ準用ス但シ第  
十六條ノ二十一及第十六條ノ二十二中  
自動車運送事業組合ノ理事長又ハ組合  
ノ理事長トアルハ聯合會ノ會長トシ第  
十六條ノ二十九中地方長官トアルハ主  
務大臣トス

第五十二條第三號中「第十六條ノ十三第  
一項」ヲ下ニ「及第十六條ノ三十七ニ於テ  
シ以下第十六條ノ三十八迄順次三條宛繰

準用スル同條同項ヲ加フ

第五十八條第一項中「理事、監事、假理事」ヲ「役員、使用人」ニ改ム

第五十九條ノ二 自動車運送事業組合ノ組合員又ハ自動車運送事業組合聯合會ノ會員統制規程ニ基キテ爲シタル組合又ハ聯合會ノ處分ニ違反シタルトキハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

第五十九條ノ三 自動車運送事業組合ノ組合員又ハ自動車運送事業組合聯合會ノ會員第十六條ノ二十六第一項又ハ第十六條ノ三十七ニ於テ準用スル同條同項ノ検査ヲ妨げタルトキハ五百圓以下ノ過料ニ處ス

第五十九條ノ四 自動車運送事業組合聯合會ノ會員ガ自動車運送事業組合ナルトキハ第五十九條ノ二ノ規定ハ其ノ行為ヲ爲シタル組合ノ役員又ハ使用人ニ、前條ノ規定ハ其ノ行為ヲ爲シタル組合ノ役員ニ之ヲ適用ス

第六十條 左ノ場合ニ於テハ自動車運送事業組合又ハ自動車運送事業組合聯合會ノ役員又ハ清算人ヲ五百圓以下ノ過料ニ處ス

一本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ依リ認可又ハ許可ヲ受ケテ爲スペキ事項ヲ之ヲ受ケズシテ爲シタルトキ

二 一本法ニ基キテ爲シタル處分（第十條ノ三十七ニ於テ準用スル第十六條ノ十三第一項ノ規定ニ基キテ爲シタル處分ヲ除ク）ニ違反シタルトキ

三 行政官廳又ハ總會ニ對シ不實ノ申立ヲ爲シ又ハ事實ヲ隱蔽シタルトキ

四 本法ニ依リ行政官廳ノ徵スル報告ヲ差出サズ又ハ監査員ノ監査ヲ妨げ

五 第十六條ノ三十九ノ規定ニ基キテ發スル勅令ニ依ル登記ヲ爲スコトヲ

六 第十六條ノ四十ノ規定ニ基キテ發スル勅令ニ違反シタルトキ

第一條 本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第二條 従前ノ第十六條ノ三、第十六條ノ四又ハ第十六條ノ八ノ規定ニ依リテノ四又ハ第十六條ノ八ノ規定ニ依リテ

第三條 本法施行ノ際現ニ本法ニ依リ新ニ免許ヲ受ケバキモノト爲リタル事業ヲ營ム者ハ本法施行後三月内ニ限り其ノ事業ヲ營ムコトヲ得此ノ期間内ニ事業經營ノ免許申請ヲ爲ストキハ免許又ハ免許ノ拒否ノ日迄亦同ジ

第四條 本法施行ノ際現ニ存スル自動車運送事業組合ハ本法ニ依リ設立ヲ命ゼ

モノノ成立シタル時解散ス

ラレタル組合ニシテ地區ヲ同ジクスル

業組合及自動車運送事業組合聯合會ニ付テハ仍從前ノ規定ヲ適用ス

第五條 本法施行前從前ノ規定ニ依リテ處罰スベカリシ行爲ニ付テハ仍從前ノ規定ニ依ル

第六條 印紙稅法中左ノ通改正ス

第四條第一項第十二號中「自動車運送事業組合、自動車運送事業組合聯合會」ヲ削ル

○國務大臣（八田嘉明君）只今上程セラレマシタ自動車交通事業法中改正法律案ニ付テ、御説明ヲ申上げタイト存ジマス、自動車輸送力ヲ確保致シマスルコトガ、戰力増強ノ上ニ極メテ重要デアリマスルコトハ、改メテ申上げル迄モナイ所デアリマス、政府ニ於キマシテハ、從來トモ諸般ノ施策ヲ講ジ、銳意爲シタル處分、手續其ノ行為ハ同様ノ改正規定ニ依リテ之ヲ爲シタルモノト看做ス

○子爵戸澤正己君 只今議題トナリマシテ、規定ノ整備ヲ行ハムトスルモノデアリマス、何卒御審議ノ上速カニ御協賛ヲ賜ラムコトヲ御願ヒ致シマス

○子爵秋田重幸君 賛成

○副議長（侯爵佐佐木行忠君）戸澤子爵ノ動議ニ御異議ゴザイマセヌカ

○子爵秋田重幸君 賛成

○副議長（侯爵佐佐木行忠君）戸澤子爵ノ動議ニ御異議ゴザイマセヌカ

○子爵秋田重幸君 賛成

自動車運送事業ノ免許、運賃、料金其ノ他事業計畫變更ノ認可等ノ權限ヲ、鐵道大臣直屬ト致シマシテ、事業ノ統一的且綜合的ナル統制運營ヲ圖リ得ルヤウニ改メムトスルモノデアリマス、第二ニハ、主務大臣又ハ地方長官ハ、物資輸送ノ確保ヲ期シマスル為ニ、特ニ必要アリト認ムルトキハ、貨物自動車運送事業者ニ對シマシテ運送ノ實施命令ヲナシ得ルコトト致スノデアリマス、第三ニハ、補助制度ノ改正デアリマシテ、貨物自動車運送事業者ニ對スル補助ノ範圍ヲ擴張致シマスト共ニ、新タニ自動車運送事業組合聯合會ニ對シマシテモ補助金ヲ交付シ得ルコトト致シタインデアリマス、第四ニハ、自動車運送事業組合及同聯合會ノ目的、設立方法、役員ノ選任方法等ヲ改ムルト共ニ、組合理事長及聯合會會長ニ統制權限ヲ付與致シマシテ、國策輸送ノ徹底ヲ期シ得ルヤウニ致シタインデアリマス、以上ノ外、之ニ關聯致シマシテ、規定ノ整備ヲ行ハムトスルモノデアリマス、何卒御審議ノ上速カニ御協賛ヲ賜ラムコトヲ御願ヒ致シマス

○子爵戸澤正己君 只今議題トナリマシテ、規定ノ整備ヲ行ハムトスルモノデアリマス、何卒御審議ノ上速カニ御協賛ヲ賜ラムコトヲ御願ヒ致シマス

○子爵秋田重幸君 賛成

自動車運送事業ノ免許、運賃、料金其ノ他事業計畫變更ノ認可等ノ權限ヲ、鐵道大臣直屬ト致シマシテ、事業ノ統一的且綜合的ナル統制運營ヲ圖リ得ルヤウニ改メムトスルモノデアリマス、第二ニハ、主務大臣又ハ地方長官ハ、物資輸送ノ確保ヲ期シマスル為ニ、特ニ必要アリト認ムルトキハ、貨物自動車運送事業者ニ對シマシテ運送ノ實施命令ヲナシ得ルコトト致スノデアリマス、第三ニハ、補助制度ノ改正デアリマシテ、貨物自動車運送事業者ニ對スル補助ノ範圍ヲ擴張致シマスト共ニ、新タニ自動車運送事業組合聯合會ニ對シマシテモ補助金ヲ交付シ得ルコトト致シタインデアリマス、第四ニハ、自動車運送事業組合及同聯合會ノ目的、設立方法、役員ノ選任方法等ヲ改ムルト共ニ、組合理事長及聯合會會長ニ統制權限ヲ付與致シマシテ、國策輸送ノ徹底ヲ期シ得ルヤウニ致シタインデアリマス、以上ノ外、之ニ關聯致シマシテ、規定ノ整備ヲ行ハムトスルモノデアリマス、何卒御審議ノ上速カニ御協賛ヲ賜ラムコトヲ御願ヒ致シマス

○子爵戸澤正己君 只今議題トナリマシテ、規定ノ整備ヲ行ハムトスルモノデアリマス、何卒御審議ノ上速カニ御協賛ヲ賜ラムコトヲ御願ヒ致シマス

○子爵秋田重幸君 賛成

○副議長(侯爵佐佐木行忠君) 日程第二十  
六、薬事法案、日程第二十七、船員保險法中  
改正法律案、政府提出、第一讀會、是等ノ三  
案ヲ一括シテ議題トスルコトニ御異議ゴザ  
イマセスカ

〔異議ナシ〕ト呼フ者アリ)

○副議長(侯爵佐佐木行忠君) 御異議ナイ  
ト認メマス、小泉厚生大臣

勅旨ヲ奉ジ帝國議會ニ提出ス  
昭和十八年一月十八日

内閣總理大臣 東條 英機

農林大臣 井野 碩哉  
厚生大臣 小泉 親彦  
内務大臣 湯澤三千男

薬事法案

第一章 總則

第一條 本法ハ薬事衛生ノ適正ヲ期シ國  
民體力ノ向上ヲ圖ルヲ以テ目的トス

第二章 藥劑師

第二條 藥劑師ハ調劑、醫藥品ノ供給其  
ノ他薬事衛生ヲ掌リ國民體力ノ向上ニ  
寄與スルヲ以テ其ノ本分トス

第三條 藥劑師タラントスル者ハ勅令ノ  
定ムル所ニ依リ主務大臣ノ免許ヲ受ク  
ルコトヲ要ス

第四條 左ノ各號ノ一一ニ該當スル者ニ對  
シテハ薬劑師免許ヲ與ヘズ

一 六年ノ懲役又ハ禁錮以上ノ刑ニ處  
セラレタル者

二 未成年者、禁治產者、準禁治產者、

精神病者、瘡痏者又ハ盲者

第五條 左ノ各號ノ一一ニ該當スル者ニ對  
シテハ薬劑師免許ヲ與ヘザルコトアル

第一項乃至第三項ノ處分ハ主務大臣之  
ヲ行フ

第八條 主務大臣ハ命令ノ定ムル所ニ依  
リ薬劑師ヲシテ醫藥品ノ取扱其ノ他藥  
事衛生ニ關シ必要ナル事項ノ修習ヲ爲  
サシムルコトヲ得

ベシ

一 六年未滿ノ懲役又ハ禁錮ニ處セ  
ラレタル者

二 薬事ニ關シ罰金ニ處セラレタル者

三 前二號ニ該當スル者ヲ除クノ外藥  
事ニ關シ不正ノ行爲アリタル者

第六條 厚生省ニ藥劑師名簿ヲ備ヘ藥劑  
師免許ニ關スル事項ヲ登錄ス

第七條 藥劑師第四條各號ノ一一ニ該當ス  
ルトキハ其ノ免許ヲ取消スベシ

藥劑師第五條各號ノ一一ニ該當シ又ハ藥  
劑師タルノ品位ヲ損スル行爲アリタル  
トキハ免許ヲ停止スルコトアルベシ其ノ  
事免許前ニ係ル場合亦同ジ

前項ノ取消處分ヲ受ケタル者ト雖モ改  
悛ノ情顯著ナルトキハ再免許ヲ與フル  
コトアルベシ

第一項ノ取消處分ヲ受ケタル者ニ付第  
四條第二號ノ原因止ミタルトキ亦同ジ

前項前段ノ規定ニ依リ再免許ヲ受ケタ  
ル者主務大臣ノ定ムル期間内ニ於テ第

徵收、監督、會員ノ懲戒其ノ他ニ關シ  
必要ナル事項ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム  
第四章 藥局及調劑

第十四條 藥局ヲ開設セントスル者ハ命  
令ノ定ムル所ニ依リ地方長官ノ許可ヲ  
受クベシ

藥局ハ命令ノ定ムル所ニ依リ薬劑師ヲ  
シテ之ヲ管理セシムベシ

第十五條 藥劑師ニ非ザレバ販賣又ハ授  
與ノ目的ヲ以テ調劑ヲ爲スコトヲ得ズ

第十六條 藥劑師販賣又ハ授與ノ目的ヲ  
以テ調劑ヲ爲ス場合ハ藥局ニ於テ之ヲ  
爲スベシ但シ命令ヲ以テ別段ノ定ヲ爲  
シタル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

第十七條 藥局ニ於テ調劑ニ從事スル藥  
劑師ハ命令ノ定ムル所ニ依リ道府縣  
藥劑師會ノ會員トス

藥劑師ニ非ザルモ藥劑師免許ヲ受クル  
資格ヲ有スル者ハ命令ノ定ムル所ニ依  
リ之ヲ道府縣藥劑師會ノ會員タラシム  
ルコトヲ得ルモノトス

第十八條 藥劑師ハ醫師、齒科醫師又ハ  
獸醫師ノ處方箋ヲ交付シタル醫師、齒科  
藥劑師ハ處方箋中疑ハシキ廉アルトキ  
ハ其ノ處方箋ヲ交付シタル醫師、齒科

醫師又ハ獸醫師ニ質シ證明ヲ得ルニ非  
ザレバ調劑ヲ爲スコトヲ得ズ

第十九條 藥劑師調劑ヲ爲シタルトキハ  
遲滯ナク調劑ニ關スル事項ヲ調劑錄ニ  
記載スベシ

第二十條 主務大臣ハ命令ノ定ムル所ニ  
依リ調劑報酬ニ關シ必要ナル命令ヲ發  
手續、區域、機關、經費ノ負擔及其ノ外

第二十一條 前七條ニ規定スルモノノ外  
藥局及調劑ニ關シ必要ナル事項ハ命令  
スルコトヲ得

ヲ以テ之ヲ定ム

第五章 醫藥品

第一十二條 醫藥品ノ製造業ヲ行ハント  
スル者ハ命令ノ定ムル所ニ依リ主務大臣ノ許可ヲ受クベシ但シ命令ヲ以テ別段ノ定ヲ爲シタル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

醫藥品製造業者ハ醫藥品ノ性狀品質ヲ適正ナラシムル爲命令ノ定ムル所ニ依リ薬劑師ヲ置クベシ但シ命令ヲ以テ別段ノ定ヲ爲シタル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

第二十六條 日本藥局方ニ收載セル醫藥品ハ其ノ性狀品質日本藥局方ノ所定ニ適合スルニ非ザレバ之ヲ販賣若ハ授與シ又ハ販賣若ハ授與輸入、移入、貯藏若ハ陳列スルコトヲ得ズ

主務大臣ハ前項ニ規定スルモノノ外醫藥品ノ設備及管理、製品ノ封緘其ノ他製造ニ關シ必要ナル事項ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

前三項ノ規定ハ醫藥品ノ輸入販賣業又ハ移入販賣業ニ之ヲ準用ス

第二十三條 醫藥品ノ販賣業ヲ行ハントスル者ハ命令ノ定ムル所ニ依リ地方長官ノ許可ヲ受クベシ但シ命令ヲ以テ別段ノ定ヲ爲シタル場合ハ此ノ限ニ在ラズ  
主務大臣ハ藥劑師ニ非ザル醫藥品販賣業者ニシテ藥劑師ヲ使用セザルモノノ取扱品目ノ制限ニ關シ必要ナル命令ヲ發スルコトヲ得

前二項ニ規定スルモノノ外醫藥品ノ販賣ノ方法其ノ他販賣又ハ授與ニ關シ必要ナル事項ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第二十四條 主務大臣ハ保健衛生上特ニ

必要アリト認ムル醫藥品ノ價格ニ付勅令ノ定ムル所ニ依リ其ノ公正ヲ圖ル爲トヲ得

必要ナル命令ヲ發シ又ハ處分ヲ爲スコトヲ得

第二十五條 主務大臣ハ醫藥品ニ付局方收載スベシ

第二十六條 日本藥局方ニ收載セル醫藥品ハ其ノ性狀品質日本藥局方ノ所定ニ適合スルニ非ザレバ之ヲ販賣若ハ授與シ又ハ販賣若ハ授與輸入、移入、貯藏若ハ陳列スルコトヲ得

第二十九條 毒藥、劇藥及麻藥ノ品目ハ主務大臣之ヲ定ム

本法ニ規定スルモノノ外毒藥、劇藥及麻藥ニ關シ必要ナル事項ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第六章 監督

第三十條 主務大臣又ハ地方長官ハ保健衛生上特ニ必要アリト認ムルトキハ藥

ル爲必要ナル命令ヲ發スルコトヲ得  
主務大臣ハ保健衛生上特ニ必要アリト認ムル醫藥品ニ付性狀品質ノ適正ヲ圖  
ル爲必要ナル命令ヲ發スルコトヲ得  
主務大臣ハ保健衛生上特ニ必要アリト認ムル醫藥品ニ付性狀品質ノ適正ヲ圖  
ル爲必要ナル命令ヲ發スルコトヲ得

爲スコトヲ得

第三十一條 主務大臣又ハ地方長官ハ第

二十二條第一項ノ規定(同條第四項ニ於テ準用スル場合ヲ含ム)ニ違反シテ

ニ成分及分量、成分不明ナルモノハ其ノ本質及製造法ノ要旨ヲ記載スルニ非

ザレバ之ヲ販賣若ハ授與シ又ハ販賣若ハ授與ノ目的ヲ以テ貯藏若ハ陳列スル

コトヲ得ズ但シ命令ヲ以テ別段ノ定ヲ爲シタル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

前項ニ規定スルモノノ外醫藥品ノ貯藏、小分其ノ他取扱ニ關シ必要ナル命令ヲ

ハ所持者ヲシテ保健衛生上危害ヲ生ズルノ虞ナキ方法ニ依リ處置セシメ又ハ

直接ニ廢棄シ其ノ他必要ナル處分ヲ爲スコトヲ得

第三十二條 主務大臣又ハ地方長官必要アリト認ムルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ藥局開設者又ハ醫藥品ノ製造業者、輸入販賣業者、移入販賣業者若ハ販賣業者ニ付當該業務ニ關シ必要ナル

報告ヲ徵シ又ハ當該官吏ヲシテ藥局、工場、店舖、事務所、倉庫其ノ他ノ場所ニ臨檢シ其ノ構造設備、業務ノ狀況若ハ醫藥品、醫藥品ノ原料材料、調劑錄等ノ帳簿書類其ノ他ノ物件ヲ検査セ

シメ又ハ試験ノ爲必要ナル分量ノ醫藥品若ハ其ノ原料材料ヲ無償ニテ收去セシムルコトヲ得

第三十三條 醫藥品ノ製造業者、輸入販賣業者又ハ移入販賣業者其ノ業務ニ關

シ犯罪又ハ不正ノ行爲アリタルトキハ主務大臣ハ其ノ許可ヲ取消シ又ハ其ノ業務ヲ停止スルコトヲ得

第三十四條 醫藥品ノ製造業者、輸入販賣業者又ハ移入販賣業者其ノ業務ニ關シ犯罪又ハ不正ノ行爲アリタルトキハ地方長官ハ其ノ許可ヲ取消シ又ハ其ノ業務ヲ停止スルコトヲ得

大臣ハ命令ノ定ムル所ニ依リ其ノ許可ヲ取消スコトヲ得

藥局開設者又ハ醫藥品販賣業者正當ノ

賣業者又ハ移入販賣業者正當ノ事由ナ

トキハ地方長官ハ其ノ許可ヲ取消シ又ハ其ノ業務ヲ停止スルコトヲ得

第三十五條 醫藥品ノ製造業者、輸入販賣業者又ハ移入販賣業者正當ノ事由ナ

トキハ地方長官ハ其ノ許可ヲ取消シ又ハ其ノ業務ヲ停止スルコトヲ得

大臣ハ命令ノ定ムル所ニ依リ其ノ許可ヲ取消スコトヲ得

藥局開設者又ハ醫藥品販賣業者正當ノ

賣業者又ハ移入販賣業者正當ノ事由ナ

トキハ地方長官ハ其ノ許可ヲ取消シ又ハ其ノ業務ヲ停止スルコトヲ得

大臣ハ命令ノ定ムル所ニ依リ其ノ許可ヲ取消スコトヲ得

藥局開設者又ハ醫藥品販賣業者正當ノ

賣業者又ハ移入販賣業者正當ノ事由ナ

トキハ地方長官ハ其ノ許可ヲ取消シ又ハ其ノ業務ヲ停止スルコトヲ得

ハ地方長官ハ命令ノ定ムル所ニ依リ其ノ許可ヲ取消スコトヲ得

### 第七章 雜則

第三十五條 第八條及第四章乃至前章ニ規定スル主務大臣ノ職權ノ一部ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ地方長官ヲシテ之ヲ行ハシムルコトヲ得

第三十六條 権太ニ於テ本法ヲ適用スルニ付必要ナル事項ニ關シテハ勅令ヲ以テ特例ヲ設クルコトヲ得

### 第八章 罰則

第三十七條 麻薬ニ關シ第二十二條第一項ノ規定（同條第四項ニ於テ準用スル場合ヲ含ム）ニ違反シタル者又ハ麻薬ノ輸出若ハ移出ニ關シ第二十九條第二項ノ規定ニ基キテ發スル命令ニ違反シタル者ハ二年以下ノ懲役又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

第四十條 左ノ各號ノ一一該當スル者ハ三月以下ノ懲役又ハ五百圓以下ノ罰金ノ定ムル所ニ依リ地方長官ヲシテ之ヲ行ハシムルコトヲ得

第三十八條 當該官吏又ハ其ノ職ニ在リタル者故ナク第三十二條ノ規定ニ依ル調劑録ノ検査ニ關シ知得シタル個人ノ祕密ヲ漏洩シタルトキハ六月以下ノ懲役又ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第三十九條 第三十七條ノ規定ニ該當スル者ヲ除クノ外第二十二條第一項ノ規定（同條第四項ニ於テ準用スル場合ヲ含ム）ニ違反シタル者又ハ公務員タリシ者故ナク其ノ祕密ヲ漏洩シタルトキ亦前項ニ同ジ

第四十條 左ノ各號ノ一一該當スル者ハ三月以下ノ懲役又ハ五百圓以下ノ罰金ノ定ムル所ニ依リ地方長官ヲシテ之ヲ行ハシムルコトヲ得

第四十條 左ノ各號ノ一一該當スル者ハ三月以下ノ懲役又ハ五百圓以下ノ罰金ノ定ムル所ニ依リ地方長官ヲシテ之ヲ行ハシムルコトヲ得

第四十一條 第二十二條第二項（同條第四項ニ於テ準用スル場合ヲ含ム）ニ違反シタル者又ハ公務員タリシ者故ナク其ノ祕密ヲ漏洩シタルトキハ六月以下ノ懲役又ハ五百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

第四十二條 第二十三條第一項、第二十六條第一項、第二十七條第一項又ハ第二十八條第一項ノ規定ニ違反シタル者

第四十三條 第三十七條、第三十九條、第四十條並ニ第四十一條第一號、第六號乃至第八號、第十號、第十三號及第十四號ノ罰則ハ其ノ法人若ハ科料ニ處ス

第四十四條 第二十二條第三項ノ規定（同條第四項ニ於テ準用スル場合ヲ含ム）ニ違反シタル者

第四十五條 第二十二條第三項ノ規定（同條第四項ニ於テ準用スル場合ヲ含ム）ニ違反シタル者

第四十六條 藥品營業並藥品取扱規則、賣藥法及藥劑師法ハ之ヲ廢止ス但シ藥劑師法中道府縣藥劑師會及日本藥劑師會ニ關スル規定ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ勅令ヲ以テ定ムル時迄仍其ノ效力ヲ有ス

第四十七條 醫師、齒科醫師又ハ獸醫師ハ其ノ診療ニ用フベキ醫藥品ニ限りリ

第四十八條 第二十二條第一項又ハ第二十八條第一項ノ規定ニ違反シタル者

第四十九條 第二十二條第一項又ハ第二十八條第一項ノ規定ニ違反シタル者

第五十條 第二十二條第一項又ハ第二十八條第一項ノ規定ニ違反シタル者

第五十一條 第二十二條第一項又ハ第二十八條第一項ノ規定ニ違反シタル者

第五十二條 第二十二條第一項又ハ第二十八條第一項ノ規定ニ違反シタル者

第五十三條 第二十二條第一項又ハ第二十八條第一項ノ規定ニ違反シタル者

第五十四條 第二十二條第一項又ハ第二十八條第一項ノ規定ニ違反シタル者

第五十五條 第二十二條第一項又ハ第二十八條第一項ノ規定ニ違反シタル者

第五十六條 第二十二條第一項又ハ第二十八條第一項ノ規定ニ違反シタル者

第五十七條 第二十二條第一項又ハ第二十八條第一項ノ規定ニ違反シタル者

第五十八條 第二十二條第一項又ハ第二十八條第一項ノ規定ニ違反シタル者

第五十九條 第二十二條第一項又ハ第二十八條第一項ノ規定ニ違反シタル者

第六十條 第二十二條第一項又ハ第二十八條第一項ノ規定ニ違反シタル者

第六十一條 第二十二條第一項又ハ第二十八條第一項ノ規定ニ違反シタル者

第六十二條 第二十二條第一項又ハ第二十八條第一項ノ規定ニ違反シタル者

第六十三條 第二十二條第一項又ハ第二十八條第一項ノ規定ニ違反シタル者

第六十四條 第二十二條第一項又ハ第二十八條第一項ノ規定ニ違反シタル者

第六十五條 第二十二條第一項又ハ第二十八條第一項ノ規定ニ違反シタル者

第六十六條 第二十二條第一項又ハ第二十八條第一項ノ規定ニ違反シタル者

第六十七條 第二十二條第一項又ハ第二十八條第一項ノ規定ニ違反シタル者

第六十八條 第二十二條第一項又ハ第二十八條第一項ノ規定ニ違反シタル者

第六十九條 第二十二條第一項又ハ第二十八條第一項ノ規定ニ違反シタル者

第七十條 第二十二條第一項又ハ第二十八條第一項ノ規定ニ違反シタル者

第七十一條 第二十二條第一項又ハ第二十八條第一項ノ規定ニ違反シタル者

第七十二條 第二十二條第一項又ハ第二十八條第一項ノ規定ニ違反シタル者

設者又ハ開業ノ獸醫師ニ付醫藥品ノ使用ニ關シ必要ナル報告ヲ徵シ又ハ當該官吏ヲシテ醫藥品ヲ貯藏スル場所ニ臨

檢シ醫藥品ヲ検査セシメ若ハ試験ノ爲必要ナル分量ノ醫藥品ヲ無償ニテ收去セシムルコトヲ得

第四十八條 藥劑師法ニ依リ藥劑師免許ヲ受ケタル者ハ本法ニ依リ藥劑師免許ヲ受ケタルモノト看做

第四十九條 本法ノ適用ニ付テハ明治十三年第三十六號布告刑法ノ重罪ノ刑ニ處セラレタル者ハ六年ノ懲役又ハ禁錮

以上ノ刑ニ、同法ノ禁錮ニ處セラレタル者ハ六年未満ノ懲役又ハ禁錮ニ處セラタルモノト看做ス

第五十條 藥劑師法ニ依ル藥劑師名簿ノ登録ト看做ス

第五十一條 藥劑師法ニ依リ爲シタル藥劑師免許ノ取消ノ處分又ハ業務ノ停止ノ處分ハ之ヲ本法ノ相當規定ニ依リテ爲シタルモノト看做ス此ノ場合ニ於テ停止ノ期間ハ仍從前ノ例ニ依ル

第五十二條 藥劑師法ノ道府縣藥劑師會及日本藥劑師會ノ權利義務ニシテ第四十六條但書ノ規定ニ依リ勅令ヲ以て定

ムル時ニ於テ存スルモノハ各本法ノ道

府縣藥劑師會及日本藥劑師會之ヲ承繼ス

第五十三條 舊法ニ依リ開設シタル藥局ニシテ本法施行ノ際現ニ存スルモノハ

第十四條第一項ノ規定ニ依ル許可ヲ受ケタルモノト看做ス

第五十四條 前條ノ規定ハ從前ノ規定ニ依リ醫藥品ノ製造業、輸入販賣業、移入販賣業又ハ販賣業ヲ行フ者ニシテ本法施行ノ際現ニ當該事業ヲ行フ者ニ之ヲ準用ス

從前ノ規定ニ依リ前項ノ者ニ付爲シタル業務停止ノ處分ハ之ヲ本法ノ相當規定ニ依リ爲シタルモノト看做ス此ノ場合ニ於テ停止ノ期間ハ仍從前ノ例ニ依ル

第五十五條 本法施行ノ際現ニ存スル醫藥品ノ容器又ハ被包ニ記載スペキ事項ニ付テハ第二十七條第一項ノ規定ニ拘ラズ本法施行ノ日ヨリ二年ヲ限リ仍從前ノ例ニ依ルコトヲ得

第五十六條 藥品營業並藥品取扱規則、賣藥法若ハ藥劑師法若ハ之ニ基キテ發

スル命令又ハ花柳病豫防法第七條第一項ノ規定ニ違反シタル者ノ處罰ニ付テ

ハ仍舊法ニ依ル

第五十七條 花柳病豫防法中左ノ通改正ス

第七條、第八條及附則第二項ヲ削ル

第五十九條 昭和十五年法律第九十二號中左ノ通改正ス

第五條中「藥劑師藥種商」ヲ「醫藥品販賣業者」ニ改ム

第六條第一項及第六條ノ二中「製藥者」ヲ「醫藥品製造業者」ニ改ム

第五十九條 昭和十五年法律第九十二號中左ノ通改正ス

第四條中「藥劑師法」ヲ「藥事法及」ニ改メ及藥品營業並藥品取扱規則」ヲ削ル

船員保險法中改正法律案

右  
勅旨ヲ奉ジ帝國議會ニ提出ス

昭和十八年一月十八日

内閣總理大臣 東條 英機

厚生大臣 小泉 親彦  
大藏大臣 賀屋 興宣

内務大臣 湯澤三千男  
大東亞大臣 青木 一男

内閣總理大臣 東條 英機

船員保險法中改正法律案

第九條ノ二 行政官廳ハ必要アリト認ム

ルトキハ被保險者ノ異動及報酬竝ニ保

險給付ノ決定ニ關シ當該官吏ヲシテ被保險者又ハ被保險者タリシ者ノ勤務場

所ニ就キ關係者ニ對シ質問ヲ爲シ又ハ帳簿書類其ノ他ノ検査ヲ爲サシムルコトヲ得

第九條ノ三 行政官廳ハ保險給付ニ關シ必要アリト認ムルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ當該官吏ヲシテ診療録其ノ他ノ帳簿書類ヲ検査セシムルコトヲ得

第十條ノ四 保險給付ニ關シ當該官吏ヲシテ被保險者ガ付及福祐施設」ニ改ム

第二十二條ノ二 戰時ニ際シ被保險者ガ勅令ヲ以テ指定スル區域ヲ主トシテ航行スル船舶（主務大臣ノ指定スル船舶ヲ除ク）ニ乘組ミタルトキハ其ノ期間ニ於ケル被保險者タリシ期間ニ三分ノ

前項ノ規定ニ依リ加算ノ認メラルベキ期間其ノ他加算ニ關シ必要ナル事項ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第二十八條 被保險者又ハ被保險者タリシ者ノ疾病又ハ負傷ニ關シテハ左ニ掲

グル療養ノ給付ヲ爲ス但シ被保險者ノ

資格喪失前ノ疾病又ハ負傷ニ因リ發シタル疾病ヲ除クノ外被保險者ノ資格喪失後發シタル疾病又ハ負傷ニ關シテハ此ノ限ニ在ラズ

#### 一 診察

二 藥劑又ハ治療材料ノ支給

三 處置、手術其ノ他ノ治療

四 病院又ハ診療所ヘノ收容

#### 五 看護

#### 六 移送

前第第四號乃至第六號ノ給付ハ行政官

廳ガ必要アリト認ム場合ニ於テ爲ス

モノニ限ル但シ命令ヲ以テ定ムル場合

ハ此ノ限ニ在ラズ

第一項ノ規定ハ報酬年額千八百圓ヲ超ニル船舶職員、被保險者ノ資格喪失當

時報酬年額千八百圓ヲ超ニル船舶職員

タリシ者及命令ヲ以テ指定スル者ノ疾

病又ハ負傷ニハ之ヲ適用セズ

第二十八條ノ二 被保險者タリシ者ハ命令ヲ以テ定ムル期間内ニ療養ノ給付ヲ受

ケザルトキハ爾後之ヲ受クルコトヲ得

ズ但シ已ムコトヲ得ザル事由アルトキ

ハ此ノ限ニ在ラズ

第二十八條ノ三 第二十八條第一項第一

號乃至第四號ノ給付ヲ受ケントスル者

ハ命令ノ定ムル所ニ依リ保険醫及保險

藥劑師並ニ行政官廳ノ指定スル者ノ中自己ノ選定シタル者ニ就キ之ヲ受クルモノトス

第二十八條ノ四 保険醫又ハ保険藥劑師

ハ命令ノ定ムル所ニ依リ醫師、齒科醫師又ハ藥劑師ニ就キ行政官廳之ヲ指定ス

ス

醫師、齒科醫師又ハ藥劑師ハ正當ノ理

由ナクシテ保険醫又ハ保險藥劑師タルコトヲ拒ムコトヲ得ズ

醫師、齒科醫師又ハ藥劑師ヲ使用スル者ハ正當ノ理由ナクシテ其ノ醫師、齒科醫師又ハ藥劑師ガ保険醫又ハ保險藥

劑師タルコトヲ妨ゲルコトヲ得ズ

第二十八條ノ五 保険醫及保險藥劑師ガ療養ノ給付ヲ擔當スルニ關シ必要ナル事項ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

一 療養ノ給付ニ在リテハ當該疾病又

ハ負傷ガ職務ヲ行フニ因ラズシテ發

シ且當該疾病又ハ負傷ニ付重大ナル過失アリタルトキ

二 傷病手當金ニ在リテハ當該疾病若

ハ負傷ガ職務ヲ行フニ因ラズシテ發

シタルトキ又ハ當該疾病若ハ負傷ニ

付重大ナル過失アリタルトキ

第三十條 被保險者タリシ者ガ療養ノ爲

勞務ニ服スルコト能ハザルトキハ其ノ

期間傷病手當金トシテ一日ニ付被保險者ノ資格喪失當時ノ報酬日額ノ百分ノ

六十ニ相當スル金額ヲ支給ス

第二十八條第三項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第三十一條中「診療所」ノ上ニ「病院又ハ」ヲ加フ

第三十二條第一項及第二項ヲ左ノ如ク改ム

第三十三條第一項及第二項ヲ左ノ如ク改ム

第五十三條第一項第六號中「又ハ職員健

療養ノ給付及傷病手當金ノ支給ハ同一ノ疾病又ハ負傷及之ニ因リ發シタル疾

病ニ付其ノ保險給付ヲ始メタル日ヨリ起算シ九月ヲ經過シタルトキハ之ヲ爲サズ但シ左ニ掲グル場合ニ於テハ其ノ給付ヲ始メタル日ヨリ起算シ六月ヲ經

過シタルトキハ之ヲ爲サズ

一 療養ノ給付ニ在リテハ當該疾病又

ハ負傷ガ職務ヲ行フニ因ラズシテ發

シ且當該疾病又ハ負傷ニ付重大ナル

過失アリタルトキ

二 傷病手當金ニ在リテハ當該疾病若

ハ負傷ガ職務ヲ行フニ因ラズシテ發

シタルトキ又ハ當該疾病若ハ負傷ニ

付重大ナル過失アリタルトキ

第五十七條ノ二 政府ハ被保險者、被

第五十七條ノ二 政府ハ被保險者、被

第五十七條ノ二 政府ハ被保險者、被

第三十三條 削除

第五十二條中「傷病手當金、廢疾年金又ハ廢疾手當金ノ全部又ハ一部」ヲ「療養ノ給付ノ全部若ハ一部ヲ爲サズ又ハ傷病手當

金、廢疾年金若ハ廢疾手當金ノ全部若ハ付ノ全部若ハ一部ヲ爲サズ又ハ傷病手當

一部」ニ改ム

第五十五條第一項第六號中「又ハ職員健

療養」ヲ削リ同條第二項ヲ左ノ如ク改ム

第五十七條ノ次ニ左ノ如ク加フ「サズ

同條第三項中「前項ニ掲グル者」ノ下ニ

ニシテ病院又ハ診療所ニ收容セラレタルトキハ其ノ限度ニ於テ療養ノ給付ヲ爲

ム

第五十七條ノ次ニ左ノ如ク加フ「ルモノ」ヲ加フ

ノ費用ヲ負擔ス

第六十條ニ左ノ一項ヲ加フ

第二十八條第三項ニ規定スル者以外ノ被保險者ニ關スル保険料ニ付テハ前項

本文ノ規定ニ拘ラズ勅令ヲ以テ船舶所有者ノ負擔スペキ割合ヲ増加スルコトヲ得

第六十八條 嘗該官吏又ハ其ノ職ニ在リ

タル者故ナクシテ第九條ノ三ノ規定ニ依ル診療録ノ検査ニ關シ知得シタル醫師若ハ歯科醫師ノ業務上ノ祕密又ハ個人ノ祕密ヲ漏洩シタルトキハ六月以下

ノ懲役又ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

職務上前項ノ祕密ヲ知得シタル他ノ公務員又ハ公務員タリシ者故ナク其ノ祕

務員又ハ公務員タリシ者故ナク其ノ祕

示ヲ爲サザル者ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

第六十九條中「前條」ヲ「前條第五項」ニ改ム

第七十條中「第六十八條」ヲ「第六十八條第五項」ニ改ム

第五項ニ改ム

附 則

本法施行ノ期日ハ各規定ニ付勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第六十八條 嘗該官吏又ハ其ノ職ニ在リ

タル者故ナクシテ第九條ノ三ノ規定ニ依ル診療録ノ検査ニ關シ知得シタル醫師若ハ歯科醫師ノ業務上ノ祕密又ハ個人ノ祕密ヲ漏洩シタルトキハ六月以下

ノ懲役又ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

職務上前項ノ祕密ヲ知得シタル他ノ公務員又ハ公務員タリシ者故ナク其ノ祕

務員又ハ公務員タリシ者故ナク其ノ祕

軍事扶助法中改正法律案

右  
勅旨ヲ奉ジ帝國議會ニ提出ス

昭和十八年一月十八日

内閣總理大臣 東條 英機

厚生大臣 小泉 親彦

内務大臣 湯澤三千男

軍事扶助法中改正法律案

軍事扶助法中左ノ通改正ス

第二條ニ左ノ一號ヲ加フ。

三 前二號ニ掲タル者ヲ除クノ外退營

シ又ハ召集解除セラレタル陸海軍下士官兵ニシテ戰鬪若ハ公務ノ爲又ハ

故意若ハ重大ナル過失ニ因ルニ非ズ

シテ現役中（未入營期間及歸休期間ヲ除ク）若ハ應召中ニ傷痍ヲ受ケ又ハ

ハ疾病ニ罹リ恩給法第六十六條第一項ノ規定ニ依リ勅令ヲ以テ定ムル傷

病ノ程度以上ノ賠後障碍ヲ有スルモ

ルベキ場合ニ於テハ療養ノ給付又ハ傷病

手當金ノ支給ニ關シテハ第三十二條第一項及第三十三條ノ改正規定ニ拘ラズ仍從

前ノ例ニ依ル

船員保險特別會計法中左ノ通改正ス

第二條中「保險給付費」ノ下ニ「福祉施設費」ヲ加フ

昭和十五年法律第十四號中左ノ通改正ス

第二條中「費用ノ五分ノ四」ヲ「費用ノ内國庫ノ負擔スル金額ヲ控除シタル殘額」ニ改ム

兵ニシテ現役下士官ト爲ル場合ヲ含ム以下同ジ）若ハ應召シタル時又ハ傷病兵ノ傷

病兵タルニ至リタル時ニ、同項第三號中「現役兵ノ入營シタル時、下士官兵ノ應召シタル時又ハ傷病兵ノ兵役ヲ免ゼラレタル時」ヲ「下士官兵ノ入營若ハ應召シタル時又ハ傷病兵ノ傷病兵タルニ至リタル時」ニ、

同條第二項中「陸海軍現役兵」ヲ「陸海軍下士官兵」ニ、「未入營現役兵及歸休兵」ヲ「未入營兵及歸休下士官兵」ニ改ム

第四條第二號中「傷病兵ノ兵役ヲ免セラレタル時」及同條第三號中「傷病兵ノ兵役ヲ免ゼテレタル時」ニ改ム

第五條第一項中「現役兵ノ入營、下士官兵ノ召集解除」ヲ「下士官兵ノ入營應召」ニ改ム

第六條第一項中「現役兵ノ退營又ハ下士官兵ノ召集解除」ニ、「二十日以内」ヲ「三月以内」ニ改ム

第七條第一項中「現役兵ノ退營又ハ下士官兵ノ召集解除」ヲ「下士官兵ノ退營又ハ

兵ノ應召」ニ、「下士官兵ノ入營應召」ニ改ム

第八條第一項中「現役兵ノ退營又ハ下士官兵ノ召集解除」ニ、「三十日以内」ヲ「三月以内」ニ改ム

第九條第一項中「現役兵ノ退營又ハ下士官兵ノ召集解除」ニ、「三十日以内」ヲ「三月以内」ニ改ム

第十條第一項中「現役兵ノ退營又ハ下士官兵ノ召集解除」ニ、「三十日以内」ヲ「三月以内」ニ改ム

第十一條第一項中「現役兵ノ退營又ハ下士官兵ノ召集解除」ニ、「三十日以内」ヲ「三月以内」ニ改ム

第十二條第一項中「現役兵ノ退營又ハ下士官兵ノ召集解除」ニ、「三十日以内」ヲ「三月以内」ニ改ム

第十三條第一項中「現役兵ノ退營又ハ下士官兵ノ召集解除」ニ、「三十日以内」ヲ「三月以内」ニ改ム

第十四條第一項中「現役兵ノ退營又ハ下士官兵ノ召集解除」ニ、「三十日以内」ヲ「三月以内」ニ改ム

第十五條第一項中「現役兵ノ退營又ハ下士官兵ノ召集解除」ニ、「三十日以内」ヲ「三月以内」ニ改ム

第十六條第一項中「現役兵ノ退營又ハ下士官兵ノ召集解除」ニ、「三十日以内」ヲ「三月以内」ニ改ム

第十七條第一項中「現役兵ノ退營又ハ下士官兵ノ召集解除」ニ、「三十日以内」ヲ「三月以内」ニ改ム

第十八條第一項中「現役兵ノ退營又ハ下士官兵ノ召集解除」ニ、「三十日以内」ヲ「三月以内」ニ改ム

第十九條第一項中「現役兵ノ退營又ハ下士官兵ノ召集解除」ニ、「三十日以内」ヲ「三月以内」ニ改ム

第二十條第一項中「現役兵ノ退營又ハ下士官兵ノ召集解除」ニ、「三十日以内」ヲ「三月以内」ニ改ム

第二十一條第一項中「現役兵ノ退營又ハ下士官兵ノ召集解除」ニ、「三十日以内」ヲ「三月以内」ニ改ム

（國務大臣小泉親彦君演壇ニ登ル）  
○國務大臣（小泉親彦君）只今議題トナリ

マシタ薬事法案、船員保険法中改正法律案及軍事扶助法中改正法律案ノ三案ニ付キマシテ、提案ノ理由ヲ御説明致シマス、先づ最初ニ薬事法案ニ付テ申上ゲマス、大東亞戦争ヲ完遂致シマスル爲ニハ、其ノ根幹タル國民體力ノ保持增强ヲ圖リマスコトガ正ニ喫緊ノ要務デアリマス、即チ之ガ爲義ニ御協賛ヲ得マシテ國民體力法及國民醫療法ノ制定ヲ見、國民體力ノ向上ト國民醫療ノ適正トヲ期シタ次第ゴザイマスルガ、更ニ是等ト密接ナ關係ニアリマスル品ノ供給、其ノ他藥事衛生ニ關シマシテモ、其ノ適正ヲ期スルノ方途ヲ講ジマスルコトガ極メテ緊要ナリト存ズル次第デアリマス、然ルニ藥事ニ關シマスル現行諸制度ヲ見マスルニ、其ノ創始以來相當ノ歲月ヲ閱シ、現下時局ノ要請ニ副ヒマセヌ憾が多々ゴザイマスルノデ、今回之ニ所要ノ改善整備ヲ加ヘ、現行藥劑師法、藥品營業並ニ藥品取扱規則及賣藥法ハ、之ヲ廢止シ、新タニ藥事法ノ制定ヲ仰ガムトスル次第デアリマス、今本法案ノ内容ノ大綱ヲ申上ゲマスルト、ル使命ヲ明定致シマスルト共ニ、其ノ業務修習ノ制度ヲ設ケ、又藥劑師會ニ付キマシテモ其ノ使命ヲ明定シ、且之ガ組織及機能

ヲ強化刷新スルコト致シマスル等、藥劑師及藥劑師會ガ眞ニ保健國策ニ即應シテ極メテ活潑ナル活動ヲ爲スコトヲ期待シタ次第ゴザイマス、第二ニハ、新藥新製劑ヲ許居リマシタ藥事制度ノ整備ヲ圖ルコト致シマシテ、今後醫藥品ノ圓滑ナル配給竝ニ緊要醫藥品ノ重點的生產等、醫藥品供給ノ適正ヲ圖リマスル上ニ於テ萬遺憾ナキヲ期スル次第デアリマス、次ニ船員保険法中改正法律案ニ付テ申上ゲマス、戰時下、船員が幾多ノ危險ヲ冒シツ、晝夜ヲ分カタゞ激務ニ服シ、挺身海上輸送ノ任ニ當テ居リマスルコトハ御承知ノ通リゴザイマス、仍テ此ノ際船員保護ノ充實強化ヲ圖リマスルガ爲ニ、船員保険法中ニ改正ヲ加ヘルコトト致シタ次第デアリマス、改正ノ第一點ハ、船員法ニ依ル船舶所有者ノ船員扶助及手當ノ義務ヲ、船員保険ニ採り入レマシタ法適用ノ範圍ヲ更ニ擴張スル必要ガアリマスルノデ、今回本案ヲ提出スルニ至ッタ次第デアリマス、改正ノ第一點ハ、傷病兵ノ範圍ノ擴張デアリマス、現行法ニ於ケル傷病兵ハ、傷痍疾病ノ爲ニ除役トナッタ者ノシ、其ノ委員ノ指名ヲ議長一任スルノ動議ヲ提出致シマス

○子爵戸澤正己君 只今上程セラレマシタ  
○副議長(侯爵佐佐木行忠君) 戸澤子爵ノ  
ト認メマス、特別委員ノ氏名ヲ朗讀致サセ  
ノ保護ヲ受ケ得ルコト致シタノデアリマス  
付スルコト致シタコトゴザイマス、之ニ依リマシテ、船員ハ從來ヨリモ早期ニ養老年金、廢疾手當金及死亡手當金ノ恩典ニ浴シ得ルコトナリマスルノミナラズ、養老年金及廢疾年金ニ付キマシテハ、更ニ支給額ヲモ增加致スコトナルノデアリマス、第三點ハ、船員ノ結核性疾患ニ對スル保護ヲ厚ク致シタコトゴザイマス、現行法ニ於テハ、結核性疾患ノ延長給付ニ關シ法ニ於テハ、結核性疾患ノ延長給付ニ關シマシテ、一定ノ資格條件ヲ定メテ居リマスルガ、現下船員ノ結核性疾患ハ益々増加スルノ傾向ニアルニ鑑ミマシテ、右ノ條件ヲ正法律案ニ付テ申上ゲマス、戰時下、船員が幾多ノ危險ヲ冒シツ、晝夜ヲ分カタゞ激務ニ服シ、挺身海上輸送ノ任ニ當テ居リマスルコトハ御承知ノ通リゴザイマス、仍テ此ノ際船員保護ノ充實強化ヲ圖リマスルガ爲ニ、船員保険法中ニ改正ヲ加ヘルコトト致シタ次第デアリマス、改正ノ第一點ハ、船員法ニ依ル船舶所有者ノ船員扶助及手當ノ義務ヲ、船員保険ニ採り入レマシタ法適用ノ範圍ヲ更ニ擴張スル必要ガアリマスルノデ、今回本案ヲ提出スルニ至ッタ次第デアリマス、改正ノ第一點ハ、傷病兵ノ範圍ノ擴張デアリマス、現行法ニ於ケル傷病兵ハ、傷痍疾病ノ爲ニ除役トナッタ者ノシ、其ノ委員ノ指名ヲ議長一任スルノ動議ヲ提出致シマス

○子爵秋田重季君 贊成  
○副議長(侯爵佐佐木行忠君) 戸澤子爵ノト認メマス、特別委員ノ氏名ヲ朗讀致サセノ擴張致シマシテ、或程度以上ノ傷痍疾病ニ依リ退營シ、又ハ召集解除セラレマシタト認メマス、特別委員ノ氏名ヲ朗讀致サセノ保護ヲ受ケ得ルコト致シタノデアリマス  
第デゴザイマス、第二點ハ、戰時危險區域ヲ航行スル船舶ニ乘組ム船員ニ付キマシテモ其ノ使命ヲ明定シ、且之ガ組織及機能

## 〔小野寺書記官朗讀〕

藥事法案外二件特別委員

公爵桂 廣太郎君 侯爵東鄉 麥君

伯爵酒井 忠正君 子爵實吉 純郎君

子爵入江 爲常君 男爵高木 喜寛君

男爵高崎 弓彦君 長 世吉君

長谷川赳夫君 男爵加藤 成之君

中川 望君 堀 啓次郎君

松井貞太郎君 岩田 三史君

渡邊 豊造君

○副議長(侯爵佐佐木行忠君) 日程第二十九、北支那開發株式會社法中改正法律案、日程第三十、中支那振興株式會社法中改正法律案、日程第三十一、占領地軍政官憲ノ爲シタル行爲ノ法律案、政府提出、第一讀會 是等ノ三案ヲ一括シテ議題ト爲スコトニ御異議ゴザイマセヌカ

〔異議ナシト呼フ者アリ〕

○副議長(侯爵佐佐木行忠君) 御異議ナイト認メマズ、青木大東亞大臣

北支那開發株式會社法中改正法律案

右

勅旨ヲ奉ジ帝國議會ニ提出ス

昭和十八年一月十八日

内閣總理大臣 東條 英機

大藏大臣 賀屋 興宣

大東亞大臣 青木 一男

海軍大臣 嶋田繁太郎

陸軍大臣 岩村 通世

司法大臣 東條 英機

逓信大臣 寺島 健

內務大臣 湯澤三千男

大東亞大臣 青木 一男

本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス  
附則  
五年間」ヲ「第十二營業年度迄」ニ改ム

中支那振興株式會社法中改正法律案

勅旨ヲ奉ジ帝國議會ニ提出ス

占領地軍政官憲ノ爲シタル行爲ノ法律上ノ效力等ニ關スル法律案

昭和十八年一月十八日

内閣總理大臣 東條 英機

大藏大臣 賀屋 興宣

大東亞大臣 青木 一男

中支那振興株式會社法中改正法律案

中支那振興株式會社法中左ノ通改正ス

第二十七條第一項中「初營業年度及爾後

五年間」ヲ「第十二營業年度迄」ニ改ム

附則

本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

之ヲ準用ス

占領地軍政官憲ノ爲シタル行爲ノ法律上ノ效力等ニ關スル法律案  
右  
上ノ效力等ニ關スル法律案

昭和十八年一月十八日

内閣總理大臣 東條 英機

大藏大臣 賀屋 興宣

大東亞大臣 青木 一男

海軍大臣 嶋田繁太郎

陸軍大臣 岩村 通世

司法大臣 東條 英機

逓信大臣 寺島 健

內務大臣 湯澤三千男

大東亞大臣 青木 一男

中支那振興株式會社法第二十七條ノ規定ニ依リマスレバ、ソレドモ政府ハ一定條件ノ下ニ兩社ノ民間株主ニ對シ、配當シ得ベキ利益金額ガ年六分ノ割合ニ達スル迄、其ノ不足額ニ相當スル金額ヲ補給スルコトニ相成ツテ居ルノデアリマシテ、其ノ補給金交付ノ期間ハ、今年十二月三十一日ヲ以テ滿了ト相成ルノデアリマス、然ルニ兩會社ノ現在ノ營業狀態ハ、創立當初ノソレニ比シマスレバ、著シク好轉ハ致シテ居リマスルケレドモ、今後ノ現地ニ於ケル狀態ヲ勘案致シマスルトキハ、其ノ營業ノ前途ニ尙困難行爲ニシテ戸籍法其ノ他ノ法律ニ依リ領事官ニ對シテ爲ス行爲ニ相當スルモノニナシトハ謂ヒ得ナイ事情ニアリマスルト共ニ、兩社共其ノ特殊ノ使命達成上、將來我

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム  
附則  
○國務大臣(青木一男君) 只今議題トナリ  
マシタ北支那開發株式會社法中改正法律案及中支那振興株式會社法中改正法律案ノ提案理由ヲ、一括シテ御説明申上ゲマス、政府ノ兩會社ニ對スル助成策ノ一トシテ、補給金制度ノ設ケラレテアリマスコトハ、他國策會社ニ於ケル場合ト同様デアリマス、即チ北支那開發株式會社法第二十九條、中支那振興株式會社法第二十七條ノ規定ニ依リマスレバ、ソレドモ政府ハ一定條件ノ下ニ兩社ノ民間株主ニ對シ、配當シ得ベキ利益金額ガ年六分ノ割合ニ達スル迄、其ノ不足額ニ相當スル金額ヲ補給スルコトニ相成ツテ居ルノデアリマシテ、其ノ補給金交付ノ期間ハ、今年十二月三十一日ヲ以テ滿了ト相成ルノデアリマス、然ルニ兩會社ノ現在ノ營業狀態ハ、創立當初ノソレニ比シマスレバ、著シク好轉ハ致シテ居リマスルケレドモ、今後ノ現地ニ於ケル狀態ヲ勘案致シマスルトキハ、其ノ營業ノ前途ニ尙困難行爲ニシテ戸籍法其ノ他ノ法律ニ依リ領事官ニ對シテ爲ス行爲ニ相當スルモノニナシトハ謂ヒ得ナイ事情ニアリマスルト共ニ、兩社共其ノ特殊ノ使命達成上、將來我

ガ戰力増強ノ爲ニ、經濟的ニハ必ズシモ安  
全トハ謂ヒ得ナイ事業ニ對シマシテモ、投  
資、融資ヲ行ヘナベナラナイ場合モ生ズル  
コトガ豫想サレルノデアリマス、仍テ此ノ  
際兩會社ヲ通ジマシテ、概々五年間補給金  
ヲ交付シ得ル期間ヲ延長シタイト存ズル次  
第デアリマス、尙現行法ニ依リマスレバ、  
補給金交付ノ期間ヲ「初營業年度及爾後五  
年間」ト定メテアリマス處、兩會社ハ、創業當  
初曆年制ニ依ッテ參リマシタ營業年度ヲ、昭  
和十六年四月一日ヨリ、政府ノ會計年度、  
即チ四月乃至三月ニ變更致シマシタ結果、  
營業年度ノ中途ニ於テ補給金交付ノ期間ガ  
満了スルト云フ不都合ヲ生ジマシタノデ、  
今向ノ改正ニ當リマシテハ之ヲ調整シ「第十  
二營業年度迄」ト致シタ次第デゴザイマス、  
以上ガ本改正案ヲ今期議會ニ提出致シマシ  
タ所以デゴザイマス、次ニ占領地軍政官憲  
ノ爲シタル行爲ノ法律上ノ效力等ニ關スル  
法律案ニ付テ御説明申上ゲマス、大東亞戰  
爭ノ進展ニ伴ヒマシテ、皇軍ノ占領致シマ  
シタル地域ニ於キマシテハ、總テ軍政ガ施行  
セラレテ居ルノデアリマスガ、從來當該地  
方ニ設置シテアリマシタ帝國領事館ハ今日  
一切閉鎖サレテ居ルノデアリマス、然ルニ  
是等ノ地方ニ於キマシテ、從來領事官ガ行ツ

テ參リマシタ各般ノ届出等ノ事項ハ、戸  
籍法其ノ他ノ法令ニ明文ノ根據ガアリマシ  
テ、領事官ガ行ヘバ直チニ内地法令上ノ效  
果ヲ有スルノデアリマシタガ、今日占領地  
軍政官憲ノ手ニ依ッテ行ヘレマシテモ、直チ  
ニ内地法令上ノ效果ハ持チ得ナイト云フ實  
情ニアルノデゴザイマス、然ルニ現在ニ於  
キマシテハ、占領地域ニ於ケル建設ノ進捗、  
邦人ノ進出等ノ實情ニ伴ヒマシテ、現狀ノ  
儘デハ不便頗ル多ク、何等カノ措置ヲ講ジ  
ナケレバナラヌ時期ニ相成ツテ居ル次第ト  
存ズルノデアリマス、茲ニ於キマシテ、一般  
的ニ占領地軍政官憲ノ行フ届出ノ受理等ノ  
行爲、並ニ在留邦人等ガ軍政官憲ニ對シテ  
爲ス届出、其ノ他ノ行爲ニシテ從來領事官  
ノ取扱ヒ來ツタ事項ニ付キマシテハ、之ニ  
領事官ノ場合ト同様ナ内地法上ノ效果ヲ附  
與致シマシテ、以テ兩地域間ノ法令上ノ調  
整ニ一步ヲ進メムトスル次第デアリマス、  
是レ本案ヲ提出致ス所以デゴザイマス、何  
トヲ得

○子爵秋田重季君 贊成  
○副議長(侯爵佐佐木行忠君) 戸澤子爵ノ  
動議ニ御異議ゴザイマセヌカ  
〔異議ナシ〕ト呼フ者アリ  
○副議長(侯爵佐佐木行忠君) 御異議ナ  
ト認メマス

○副議長(侯爵佐佐木行忠君) 日程第三十  
二、會計検査院法中改正法律案、政府提出、  
第一讀會 森山法制局長官

第三條 院長ハ親任、部長ハ勅任、検査  
官ハ勅任又ハ奏任、書記官、副検査官  
及理事官ハ奏任、書記ハ判任トス但シ  
書記ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ之ヲ奏任  
ト爲スコトヲ得  
勅任検査官、書記官、副検査官、理事  
官及書記ノ定員ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム  
第五條 會計検査院ニ三部ヲ設ケ各部部  
長一人及検査官四人又ハ五人ヲ以テ檢  
查ノ事務ヲ分掌ス

#### 會計検査院法中改正法律案

右

勅旨ヲ奉ジ帝國議會ニ提出ス

昭和十八年一月二十五日

内閣總理大臣 東條 英機

會計検査院法中改正法律案

會計検査院法中左ノ通改正ス

第二條 會計検査院ニ院長一人、部長三

人及検査官十四人ヲ置キ之ヲ會計検査  
官トシ別ニ書記官、副検査官、理事官  
及書記ヲ置ク

(政府委員森山銳一君演壇ニ登ル)

○政府委員(森山銳一君) 只今議題トナリ

マシタ會計検査院法中改正法律案ニ付、提

案ノ理由ヲ御説明申上ゲマス、會計検査院  
法中ノ改正ハ數點ニ亘ツテ居リマス、改正ノ

第一點ハ、行政簡素化實施ノ爲ノ改正デゴ  
ザイマス、政府ハ曩ニ部内各方面ニ亘リ行

ムコトノ動議ヲ提出致シマス

官及書記ノ定員ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム  
第五條 會計検査院ニ三部ヲ設ケ各部部  
長一人及検査官四人又ハ五人ヲ以テ檢  
查ノ事務ヲ分掌ス

#### 附 則

本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

本法ニ依ル定員變更ノ結果過員ヲ生ジタ  
ル検査官ニ付テハ其ノ過員ニ係ル員數ヲ  
限り當分ノ内之ヲ定員外トス此ノ場合ニ  
於テハ各部検査官ノ員數ハ第五條ノ改正  
規定ニ拘ラズ之ヲ四人乃至六人ト爲スコ  
トヲ得

(政府委員森山銳一君演壇ニ登ル)

○子爵戸澤正己君 只今議題トナリマシタ

會計検査官ハ陸軍又ハ海軍ニ召集セラ  
レタル場合其ノ他特別ノ事由アル場合

ニ於テハ勅令ノ定ムル所ニ依リ之ヲ定

ムコトノ動議ヲ提出致シマス

官ハ勅任又ハ奏任、書記官、副検査官  
及理事官ハ奏任、書記ハ判任トス但シ  
書記ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ之ヲ奏任

ト爲スコトヲ得  
勅任検査官、書記官、副検査官、理事  
官及書記ノ定員ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム  
第五條 會計検査院ニ三部ヲ設ケ各部部  
長一人及検査官四人又ハ五人ヲ以テ檢  
查ノ事務ヲ分掌ス

政ノ簡素化ヲ實施致シマシタノデアリマス

ガ、當時、會計検査院ニ於キマシテモ同様、

簡素化ノ爲ニ現在ノ四部制ヲ三部制トシ、

之ニ伴ヒ部長一人、奏任検査官一人、其ノ

他職員ノ減少ヲ行フ方針ヲ決定致シタノデ

アリマス、併シ右ノ部制竝ニ部長及検査官

ノ定員ハ、何レモ會計検査院法中ニ定メラ

レテ居リマス爲、當時直チニ之ヲ實施スル

コトガ出來マセヌデシタノデ、今回之ガ實

施ノ爲必要ナル改正ヲ行ハムトスルモノデ

アリマス、改正ノ第二點ハ、職員ノ一部ニ

付其ノ定員ノ規定ヲ勅令ニ譲ツタコトデアリ

マス、現在會計検査院ノ職員中、理事官以

上ノ者ノ定員ハ總て法律ニ定メラレテ居リマス

ガ、此ノ中、書記官、副検査官及理事官ニ

付キマシテハ、其ノ職務ノ性質ニ鑑ミマシ

テ、其ノ定員迄モ法律ノ中ニ規定シテ置キ

マスコトハ、比較的其ノ必要性ガ少イモノ

ト考ヘラレマスノデ、是等ノ定員ハ、之ヲ

勅令ヲ以テ定メ得ルコト爲スノガ適當デ

アルト認ヌマシテ、法律中ニ其ノ旨ノ規定

ヲ設クルコト致シマシタ、第三點ハ、定

員外ノ規定ヲ設ケマシタ點デアリマス、會

計検査官ガ、陸海軍ニ召集セラレマシタ場

合、其ノ他特別ノ必要ノアリマス場合ニ於キマシテハ、勅令ノ規定ニ依リマシテ、之

ヲ定員外ト爲シ得ルコト致シマス爲、其

ノ旨ノ規定ヲ設ケルコト致シタノデアリ

マス、尙最後ニ、政府ハ一般ニ官吏其ノ他

ノ職員ニ付特別ノ優遇ノ途ヲ拓ク見込デア

リマスガ、會計検査院ニ於キマシテモ、右

ト同様ノ趣旨ヲ以チマシテ、同院ノ書記ハ、

勤令ノ定ムル所ニ依リマシテ、優遇ノ爲之

ヲ奏任ト爲シ得ルコト致シマス爲、其ノ

コトノ規定ヲ法律中ニ設クルコト致シタノ

デアリマス、尙曩ニ申述ベマシタ行政簡素

化實施ノ爲ニ致シマス定員ノ減少ニ伴フ經

過規定ヲ設ケタノデアリマス、何卒御審議

ノ上速カニ御協賛ヲ與ヘラレムコトヲ御願

ヒ申上ゲマス

○子爵戸澤正己君 只今日程ニ上リマシタ

會計検査院法中改正法律案ハ、恩給法中改

正法律案外七件ノ特別委員ニ併託セラレム

コトノ動議ヲ提出致シマス

○子爵秋田重季君 賛成

○副議長(侯爵佐佐木行忠君) 戸澤子爵ノ

裁判所構成法中改正法律案

會計検査院法中改正法律案ハ、恩給法中改

正法律案外七件ノ特別委員ニ併託セラレム

コトノ動議ヲ提出致シマス

○副議長(侯爵佐佐木行忠君) 御異議ナイ

ト認メマス

○副議長(侯爵佐佐木行忠君)

目程第三十

三、裁判所構成法中改正法律案、日程第三十四、陪審法ノ停止ニ關スル法律案、政府提出、第一讀會、是等ノ兩案ヲ一括シテ議題ト爲スコトニ御異議ゴザイマセヌカ

マス、尙最後ニ、政府ハ一般ニ官吏其ノ他

提出、第一讀會、是等ノ兩案ヲ一括シテ議題ト爲スコトニ御異議ゴザイマセヌカ

ト認メマス、岩村司法大臣

〔異議ナシ〕ト呼フ者アリ

○副議長(侯爵佐佐木行忠君) 御異議ナイ

ト認メマス、岩村司法大臣

○副議長(侯爵佐佐木行忠君) 御異議ナシ

ト認メマス、岩村司法大臣

任書記ヲ任シ及補スルノ權ヲ委任スルコトヲ得

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

コトヲ得

陪審法ノ停止ニ關スル法律案

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

コトヲ得

任書記ヲ任シ及補スルノ權ヲ委任スル

陪審法ノ停止ニ關スル法律案

陪審法ハ其ノ施行ヲ停止ス

附 則

本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス  
本法ハ本法施行前陪審手續ニ依ル公判期

ノ定リタル事件ニ關シテハ之ヲ適用セ

ズ本法施行前其ノ裁判ノ確定シタル事件

ニ關スル陪審法第四章又ハ第五章ノ規定

ノ適用ニ付亦同ジ

陪審法ハ大東亞戰爭終了後再施行スルモ

ノトシ其ノ期日ハ各條ニ付勅令ヲ以テ之ヲ定ム

前項ニ規定スルモノノ外陪審法ノ再施行

ニ付必要ナル事項ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

〔國務大臣岩村通世君演壇ニ登ル〕

○國務大臣(岩村通世君) 只今上程ニ相成

リマシタ裁判所構成法中改正法律案外一件

ニ付キマシテ、提案ノ理由ヲ御説明申上げ

マス、政府ニ於キマシテハ、昨年實施致シ

マシタ行政簡素化ニ伴ヒマシテ、一般官吏

ノ優遇方ヲ考慮致シ、多年重要ノ職ニ當リ

事務練達優等ナルモノハ、定員ニ拘ラズ、

ト致シマシタ、然ルニ書記長ヲ除ク裁判所

書記ハ、裁判所構成法第八十八條第一項ノ

規定ニ依リ、司法大臣ガ之ヲ任ズルコトト

ナッテ居リマス、即チ判任官ニ限ラレテ居

リマスノデ、之ヲ奏任官トナスガ爲ニハ、

裁判所構成法ヲ改正スル必要ガアルノデア

リマス、仍テ今般裁判所構成法第八十八條

第一項ヲ改正シ、裁判所書記ハ判任ヲ原則

トシ、例外トシテ勅令ノ定ムル所ニ依リ奏

任トスル途ヲ拓カムトスル次第デアリマ

ス、次ニ陪審法ノ停止ニ關スル法律案ニ付

テ、提案ノ理由ヲ御説明申上ゲマス、昭和

三年十月一日陪審法が施行セラレル事件ハ逐年

ラ後、陪審ノ評議ニ附セラレル事件ハ逐年

遞減シ、全國ニ於テ最近數年ハ僅カニ或ハ

一件或ハ三四件ニ過ギスト云フ状態ニアル

ノデアリマス、然ルニ一方、市町村ノ一般

事務ハ年ト共ニ激増ノ傾向ニアリマスノデ、

曩ニ昭和十六年法律第六十二號陪審法中改

正法律ニ依リマシテ、陪審員資格者名簿及

ビ陪審員候補者名簿ハ、之ヲ四年毎ニ調製

マス、政府ニ於キマシテハ、昨年實施致シ

スペキコトトシ、市町村ノ事務ノ負擔ノ輕

減ヲ圖ツタノデアリマスガ、其ノ後モ、右兩

名簿ニ異動ヲ生ジタル場合等ニ於キマシテ、

シマシタ

○副議長(侯爵佐佐木行忠君) 戸澤子爵ノ

動議ニ御異議ゴザイマセヌカ

〔「異議ナシ」ト呼フ者アリ〕

○副議長(侯爵佐佐木行忠君) 御異議ナイ

ト認メマス、是ニテ議事日程全部ヲ議了致

セマス

〔高山書記官朗讀〕

本日第七部ニ於テ請願委員宇佐美勝夫君ノ

補闕選舉ヲ行ヒシニ光行次郎君當選セリ

人ヲ喚問スルコトニモナリマスカラ、是等

ノ人々ガ戰時下種々繁忙デアルコトモ考

慮シ、此ノ際陪審法ノ施行ヲ停止スルコト

マス、尤モ廢止スルノデハアリマセヌカラ、

ハ誠ニ已ムヲ得ザルモノト信ジタノデアリ

マス、何卒慎重御審議ノ上何レモ御協賛ヲ與

ヘラレムコトヲ切望致シマス

○子爵戸澤正己君 只今上程ニ相成リマシ

タ裁判所構成法中改正法律案外一件ハ、在

満日本人ノ身分ニ關スル滿洲國裁判ノ效力

ニ關スル法律案外一件ノ特別委員ニ併託セ

ラレムコトノ動議ヲ提出致シマス

○子爵秋田重季君 贊成

○副議長(侯爵佐佐木行忠君) 戸澤子爵ノ

動議ニ御異議ゴザイマセヌカ

〔「異議ナシ」ト呼フ者アリ〕

○副議長(侯爵佐佐木行忠君) 御異議ナイ

ト認メマス、是ニテ議事日程全部ヲ議了致

シマシタ

○副議長(侯爵佐佐木行忠君) 報告ヲ致サ

セマス

○副議長(侯爵佐佐木行忠君) 次會ノ議事

日程ハ、決定次第彙報ヲ以テ御通知ニ及び

マス、本日ハ是ニテ散會致シマス

午後零時六分散會

